

平成 27 年度
事業報告書

自 平成 27 年 4 月 1 日
至 平成 28 年 3 月 31 日

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園

目次

I.	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園の基本情報	1
1	法人の概要	1
(1)	事業内容	1
(2)	所在地.....	1
(3)	教員及び職員の数.....	1
(4)	沿革	1
(5)	設立に係る根拠法.....	1
(6)	主管省庁名	1
(7)	組織図.....	2
2	役員の状況	3
(1)	役員・監事	3
(2)	理事	5
(3)	評議員.....	12
II.	業務実績報告	15

I. 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園の基本情報

1 法人の概要

(1) 事業内容

- 1) 沖縄科学技術大学院大学を設置し、これを運営すること。
- 2) 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康に関する相談その他の援助を行うこと。
- 3) 学園以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の学園以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。
- 4) 沖縄科学技術大学院大学における研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。
- 5) 科学技術に関する研究集会の開催その他の研究者の交流を促進するための業務を行うこと。

(2) 所在地

メインキャンパス 沖縄県国頭郡恩納村字谷茶 1919-1
シーサイドハウス 沖縄県国頭郡恩納村字恩納 7542

(3) 教員及び職員の数（平成 28 年 3 月 31 日現在）

教員： 51 人
職員（研究員含む）： 705 人

(4) 沿革

平成 23 年 11 月 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園設立

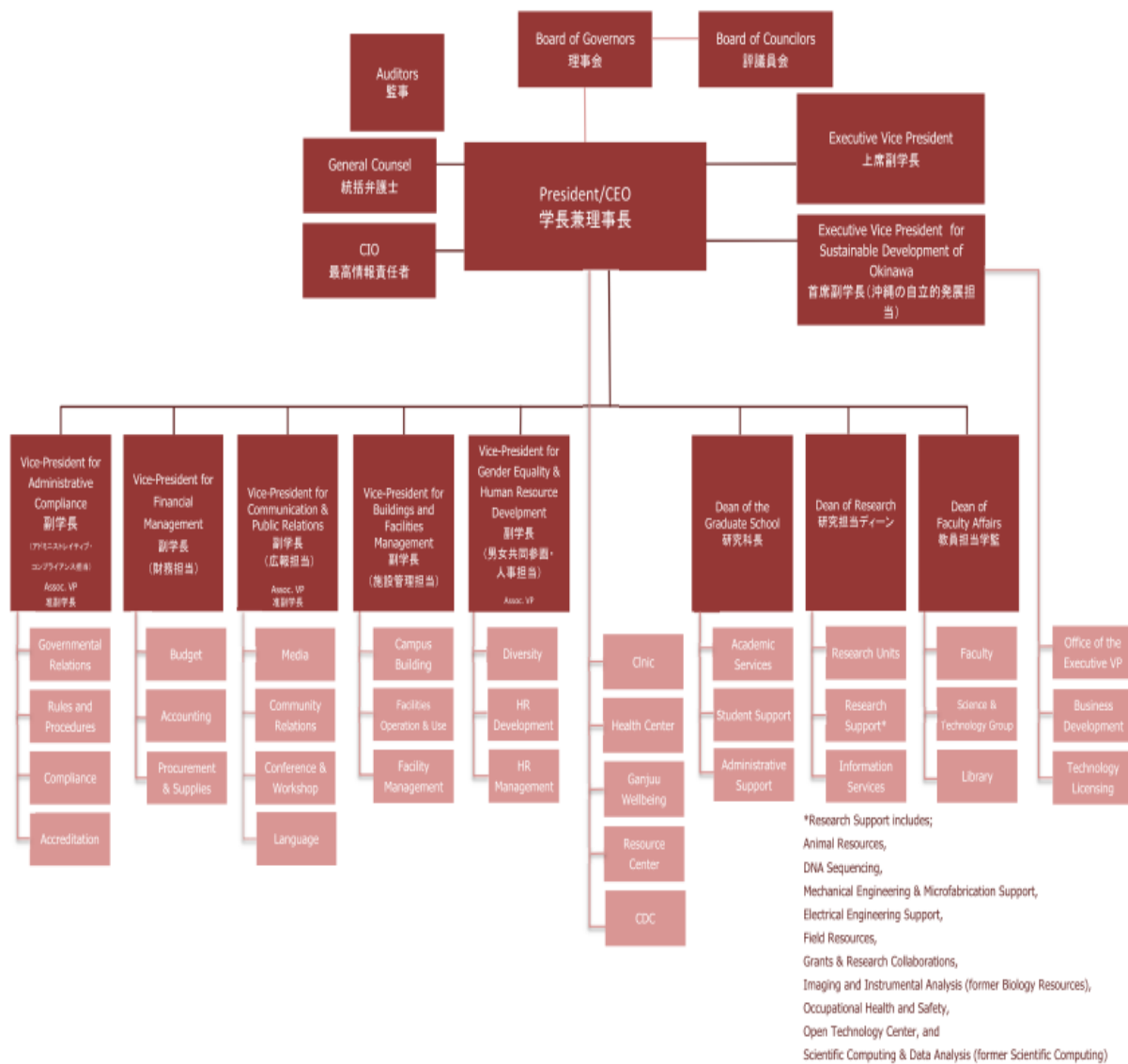
(5) 設立に係る根拠法

沖縄科学技術大学院大学学園法（平成 21 年法律第 76 号）

(6) 主管省庁名

内閣府、文部科学省

(7) 組織図 (平成 28 年 3 月 31 日現在)



2 役員 の 状 況 (平 成 28 年 3 月 31 日 現 在)

定数：学校法人沖縄科学技術大学院大学学園寄附行為第5条第1項、第7条、第19条第2項の定めるところによる。

任期：学校法人沖縄科学技術大学院大学学園寄附行為第9条第1項及び第24条第1項の定めるところによる。

(1) 役員・監事

役職	氏名	任期	主要経歴				
理事長・ 学長	ジョナサン・ ドーファン	2011年 11月1日 ～ 2018年 8月31日 (重任・2 期目)	1976年	カリフォルニア大学アーバイン校(米国)博士号 (素粒子物理学)			
			1989年	スタンフォード大学(米国)スタンフォード線形 加速器センター教授			
			1994年	スタンフォード大学スタンフォード線形加速器 センターアソシエイト・ディレクター			
			1999年	スタンフォード大学スタンフォード線形加速器 センター所長 スタンフォード大学エグゼクティブ・キャビネッ ト・メンバー			
			2007年	スタンフォード大学スタンフォード線形加速器 センター名誉所長 スタンフォード大学学長スペシャルアシスタ ント			
			2009年	ワイツマン科学研究所(イスラエル)科学アドバ イザリー・コミッティ共同議長 オックスフォード大学(英国)ジョン・アダム ズ加速器科学研究所アドバイザー・ボード・メ ンバー 米国物理学会広報部門パネルメンバー副議長			
			2010年	独立行政法人沖縄科学技術大学院大学学園設立 委員 独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構 (大学院大学学長予定者)			
			2011年 11月	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事長 沖縄科学技術大学院大学学長			
			副理事	ロバート・	2015年	1975年	ハーバード大学(米国)博士号(化学)

<p>長・首席副学長 (沖縄の自立的発展担当)</p>	<p>バックマン</p>	<p>4月1日 ～ 2017年 9月30日 (再任)</p>	<p>1979年 1985年 1990年 1995年 1999年 2005年 2007年 2011年 2014年 2015年 4月</p>	<p>ハーバード大学医学部アシスタント・プロフェッサー(神経生物学) 同 アソシエイト・プロフェッサー(神経生物学) ハーバード大学医学部神経科学専攻(博士課程)専攻長(ディレクター) NINDS 基礎神経科学・発達障害部門ディレクター NINDS アソシエイト・ディレクター(技術開発担当) 独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構 研究及び研修に関する特別学長顧問 独立行政法人沖縄科学技術研基盤整備機構理事 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園プロボースト及び副理事長 同 首席副学長(沖縄の自立的発展担当) 同 首席副学長(沖縄の自立的発展担当)及びプロボースト(臨時)及び副理事長</p>
<p>監事</p>	<p>相馬 清貴</p>	<p>2013年 6月26日 ～ 2017年 10月31日 (重任・2期目)</p>	<p>1985年 2007年 2010年 2012年 2013年 6月</p>	<p>総務庁入庁 総務省人事・恩給局恩給企画課長 総務省大臣官房政策評価広報課長 内閣府公益認定等委員会事務局総務課長 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園監事</p>
<p>監事</p>	<p>当真 嗣吉</p>	<p>2014年 6月9日 ～ 2017年 10月31日 (重任・2期目)</p>	<p>1971年 1999年 2001年 2003年 2005年 2006年 2007年 2011年 2013年</p>	<p>琉球電力公社入社 沖縄電力(株)取締役火力部長 沖縄電力(株)代表取締役副社長 沖縄電力(株)代表取締役社長 (財)沖縄マリネジャーセイフティービューロー代表理事 沖縄セルラー電話(株)監査役 沖縄電力(株)代表取締役会長 沖縄経済同友会代表幹事 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園評議員 沖縄経済同友会特別幹事 沖縄電力(株)取締役相談役</p>

			九州経済連合会顧問 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園監事
		2014年 6月	

(2) 理事

氏名	任期	主要経歴	
トーステン・ ヴィーゼル	2011年 11月1日 ～ 2017年 10月31日*	1954年 1968年 1973年 1981年 1991年 1999年 2000年 2003年 2005年 2009年 2011年 2013年	カロリンスカ研究所（スウェーデン）医学士 ハーバード大学医学部（米国）神経生物学部教授 同 神経生物学部長 ノーベル生理学 米国神経科学学会会長 ロックフェラー大学（米国）学長 ロックフェラー大学名誉学長 ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム事務局長 イスラエルパレスチナ・サイエンス機構（IPSO）国際科学会議議長 アメリカ国家科学賞 独立行政法人沖縄科学技術研基盤整備機構運営委員共同議長 沖縄科学技術大学院大学学園設立委員共同議長 旭日大綬章受章 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事会議長 スウェーデン脳科学財団諮問委員 カロリンスカ研究所神経科学プログラム国際諮問委員会議長 中国科学院ナショナルサイエンスレビュー諮問委員
有馬 朗人	2011年 11月1日 ～ 2017年 10月31日*	1958年 1971年 1975年 1989年 1993年 1998年 1999年	東京大学大学院博士号（理学） ニューヨーク州立大学ストーニーブルク校（米国）教授 東京大学理学部教授 東京大学総長 理化学研究所理事長 参議院議員 文部大臣 科学技術庁長官兼務

		2000年	財団法人日本科学技術振興財団会長
		2005年	独立行政法人沖縄科学技術研基盤整備機構運営委員
		2006年	学校法人根津育英会武蔵学園学園長
		2009年	ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム評議員会会長 沖縄科学技術大学院大学学園設立委員
		2010年	公立大学法人静岡文化芸術大学理事長
		2011年	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事会副議長
		11月	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園評議員
安仁屋 洋子	2014年 11月1日 ～ 2017年 10月31日	1980年	鹿児島大学博士号（医学部）
		1981年	日本薬理学会評議員
		1983年	ロチェスター大学メディカルセンター ポストドクトラルフェロー
		1986年	琉球大学医学部准教授
		1990年	琉球大学医学部保健学科教授
		1994年	日本薬物動態学会評議員
		1996年	日本毒性学会評議員
		2001年	琉球大学産学官連携推進機構長 琉球大学評議員
		2002年	琉球大学医学部保健学科長
		2003年	琉球大学大学院医学研究科教授
		2007年	琉球大学医学部保健学科教授
		2011年	琉球大学名誉教授
		2013年	沖縄科学技術振興センター理事
		2014年	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
		11月	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園評議員
ロバート・バックマン (副理事長/ 首席副学長 (沖縄の 自立的発展担当)	2015年 4月1日 ～ 2018年 3月31日 **	1975年	ハーバード大学 (米国) 博士号 (化学)
		1979年	ハーバード大学医学部アシスタント・プロフェッサー (神経生物学)
		1985年	同 アソシエイト・プロフェッサー (神経生物学)
		1990年	ハーバード大学医学部神経科学専攻 (博士課程) 専攻長 (ディレクター)
		1995年	NINDS 基礎神経科学・発達障害部門ディレクター
		1999年	NINDS アソシエイト・ディレクター (技術開発担当)
		2005年	独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機 研究及び

		2007年 2011年 2014年 2015年 4月	研修に関する特別学長顧問 独立行政法人沖縄科学技術研基盤整備機構理事 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園プロボースト及び副理事長 同 首席副学長（沖縄の自立的発展担当） 同 首席副学長（沖縄の自立的発展担当）及びプロボースト（臨時）及び副理事長
カーティス・ カラン	2014年 11月1日 ～ 2017年 10月31日	1964年 1968年 1969年 1972年 1974年 1986年 1989年 1990年 1995年 1998年 2004年 2005年 2008年 2014年 11月	プリンストン大学（米国）博士号（物理学） JASON スタディグループメンバー プリンストン高等研究所長期メンバー プリンストン大学物理学部教授 アメリカ物理学会フェロー プリンストン大学ユージン・ヒギンス・プロフェッサー アメリカ芸術科学アカデミーメンバー 米国科学アカデミー会員 JASON スタディグループ運営委員会委員長 プリンストン大学ジェームス・S・マクドネル物理学デ ィスティンクイッシュトプロフェッサー プリンストン大学物理学部長 ディラック賞（国際理論物理学センター） プリンストン大学理論物理学センターディレクター アメリカ物理学会会長・副会長 プリンストン大学物理学部長 プリンストン高等研究所評議会会員 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
リタ・ コルウェル	2011年 11月1日 ～ 2017年 10月31日*	1961年 1991年 1998年 2004年 2006年	ワシントン大学（米国）博士号（海洋学） メリーランド大学（米国）生命工学研究所所長 全米科学財団 11 代理事長 国家科学技術会議（米国）共同議長 キャノン US ライフサイエンス（米国）会長・上席副社 長 メリーランド大学特別教授 ジョン・ホプキンス大学（米国）公衆衛生大学院特別教 授 キャノン US ライフサイエンス（米国）上級顧問名誉会

			<p>長</p> <p>科学技術振興機構国際諮問委員</p> <p>東京大学プレジデント・カウンスル・メンバー</p> <p>2007年 米国生物化学研究所所長</p> <p>2006年アメリカ国家科学賞</p> <p>2011年 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事</p> <p>11月</p> <p>2013年 ローザリンド・フランクリン協会会長</p> <p>シグマ XI ウィリアム・プロクター科学功績賞</p> <p>2014年 一般微生物協会賞</p>
<p>ジョナサン・ドーフアン (理事長/学長)</p>	<p>2011年 11月1日 ～ 2017年 10月31日*</p>	<p>1976年</p> <p>1989年</p> <p>1994年</p> <p>1999年</p> <p>2007年</p> <p>2009年</p> <p>2010年</p> <p>2011年 11月</p>	<p>カリフォルニア大学アーバイン校 (米国) 博士号 (素粒子物理学)</p> <p>スタンフォード大学 (米国) スタンフォード線形加速器センター教授</p> <p>スタンフォード大学スタンフォード線形加速器センターアソシエイト・ディレクター</p> <p>スタンフォード大学スタンフォード線形加速器センター所長</p> <p>スタンフォード大学エグゼクティブ・キャビネット・メンバー</p> <p>スタンフォード大学スタンフォード線形加速器センター名誉所長</p> <p>スタンフォード大学学長スペシャルアシスタント</p> <p>ワイツマン科学研究所 (イスラエル) 科学アドバイザー・コミッティ共同議長</p> <p>オックスフォード大学 (英国) ジョン・アダムズ加速器科学研究所アドバイザー・ボード・メンバー</p> <p>米国物理学会広報部門パネルメンバー副議長</p> <p>独立行政法人沖縄科学技術大学院大学学園設立委員</p> <p>独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構 (大学院大学学長予定者)</p> <p>学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事長</p> <p>沖縄科学技術大学院大学学長</p>
<p>ジェローム・フリードマン</p>	<p>2011年 11月1日 ～</p>	<p>1956年</p> <p>1967年</p> <p>1977年</p>	<p>シカゴ大学 (米国) 博士号 (物理学)</p> <p>マサチューセッツ工科大学 (米国) 教授</p> <p>米国大学研究協会 URA ボード委員</p>

	2017年 10月31日*	1983年 1990年 1997年 1999年 2001年 2005年 2009年 2011年 11月	同 ボード副議長 マサチューセッツ工科大学物理学部長 ノーベル物理学賞 高エネルギー加速器研究機構 (KEK) 経営協議会委員 米国物理学会会長 米国科学学会代表者評議会議長 独立行政法人沖縄科学技術研基盤整備機構運営委員 沖縄科学技術大学院大学学園設立委員 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
セルジュ・ アロシュ	2015年 10月1日 ～ 2018年 9月30日	1971年 1975年 1981年 1984年 1991年 1994年 2001年 2012年 2015年 10月	パリ第6大学 (フランス) 博士号 (物理学) パリ第6大学教授 ハーバード大学客員教授 イエール大学非常勤教授 フランス大学院メンバー 高等師範学校 (フランス) 物理学部長 コレージュ・ド・フランス量子物理学教授 コレージュ・ド・フランス学長 ノーベル物理学賞 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
小谷 元子	2014年 11月1日 ～ 2017年 10月31日	1990年 1993年 1997年 1999年 2001年 2004年 2008年 2011年 2012年 2014年 2014年 11月	東京都立大学理学研究科 博士号 (理学) マックスプランク研究所客員教授 東邦大学理学部助教授 東北大学大学院理学研究科助教授 仏高等科学研究所 (IHES) 客員教授 東北大学大学院理学研究科教授 東北大学大学院理学研究科ディスティングイッシュト プロフェッサー 東北大学原子分子材料科学高等研究機構副機構長・教授 東北大学原子分子材料科学高等研究機構長 総合科学技術・イノベーション会議議員 (非常勤) 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
ヴィジェイ ラガバン・クリシ	2011年 11月1日	1983年 1984年	タタ基礎化学研究所 (インド) 博士号 (分子生物学) カリフォルニア工科大学 (米国) リサーチフェロー

ユナスワミ	～ 2017年 10月31日*	1986年 1988年 1998年 2005年 2009年 2011年 11月 2012年 2013年	カリフォルニア工科大学シニア・リサーチフェロー タタ基礎科学研究所インド国立生命科学研究センター 入所 タタ基礎科学研究所インド国立生命科学研究センター シニアプロフェッサー兼所長 首相府（インド）科学諮問委員会委員 ハワードヒューズ医学研究所（米国）ジャネリアファーム・リサーチ・キャンパス諮問委員会委員 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事 ロンドン王立協会会員 タタ基礎科学研究所インド国立生命科学研究センター ディステイングィッシュトプロフェッサー インド科学技術省バイオテクノロジー局局长
黒川 清	2011年 11月1日 ～ 2017年 10月31日*	1967年 1979年 1989年 1993年 1996年 1998年 1999年 2001年 2003年 2005年 2006年 2009年 2011年 11月 2014年	東京大学大学院博士号（医学博士） カリフォルニア大学ロスアンゼルス校（米国）医学部内 科教授 東京大学医学部教授 文部省科学官 東海大学教授 同 医学部長 東海大学総合医学研究所所長 紫綬褒章 内閣府沖縄大学院大学構想検討委員会委員 日本学術会議会長 独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構運営委員 内閣特別顧問（科学、技術、イノベーション担当） 政策研究大学院大学政策研究科教授 沖縄科学技術大学院大学学園設立委員 政策研究大学院大学政策研究科アカデミックフェロー 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事 政策研究大学院大学客員教授
李 遠哲	2015年 10月1日 ～	1965年 1973年	カリフォルニア大学バークレー校（米国）化学科 博士 号 シカゴ大学（米国）化学科ジェームス・フランク研究所

	2018年 9月30日**	1974年	教授 カリフォルニア大学バークレー校化学科 教授 ローレンス・バークレー国立研究所(米国)化学部門 主任研究員
		1986年	ノーベル化学賞
		1991年	香港科技大学 学長アドバイザー・ボード・メンバー カリフォルニア大学(米国) 大学教授
		1993年	ハーバード大学(米国) 化学科ビジティング・コミッテ ィ議長
		1994年	台湾中央研究院院長
		2006年	中華民国教育部諮問委員会委員
		2007年	独立行政法人沖縄科学技術研基盤整備機構運営委員
		2009年	沖縄科学技術大学院大学学園設立委員
		2011年	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事(～2013年)
		2015年 10月	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
尾身 幸次	2013年 10月1日 ～ 2016年 9月30日	1956年	一橋大学商学部卒業
		1956年	通商産業省入省
		1970年	外務省在ニューヨーク日本国総領事館領事
		1976年	通商産業省大阪通商産業局総務部長
		1979年	科学技術庁長官官房総務課長
		1981年	通商産業省中小企業庁指導部長
		1983年	衆議院議員初当選(以来当選八回)
		1995年	衆議院大蔵委員長
		1997年	国務大臣経済企画庁長官
		2001年	国務大臣沖縄及び北方対策・科学技術政策担当
		2006年	特定非営利活動法人STSフォーラム理事長 財務大臣
		2013年 10月	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
尚 弘子	2011年 11月1日 ～ 2017年 10月31日*	1972年	琉球大学教授
		1982年	九州大学 博士号(農学)
		1984年	ミシガン州立大学 客員教授
		1991年	沖縄県副知事
		1994年	放送大学沖縄学習センター所長
		1995年	内閣府沖縄振興開発審議会委員

		1996年 1997年 2004年 2005年 2009年 2011年 11月 2012年	NHK 経営委員会委員 財団法人沖縄観光コンベンションビューロー理事 NHK学園評議員 沖縄国際大学理事 財団法人沖縄県文化振興会理事長 独立行政法人沖縄科学技術研基盤整備機構運営委員 沖縄科学技術大学院大学学園設立委員 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園評議員 学校法人アミークス国際学園理事・評議員 公益財団法人沖縄科学技術振興センター評議員
アルブレヒト・ ワグナー	2015年 10月1日 ～ 2018年 9月30日	1971年 1984年 1991年 1999年 2005年 2006年 2007年 2008年 2010年 2011年 2015年 10月	ハイデルベルク大学（ドイツ）博士号（物理学） ハイデルベルク大学教授 ハンブルグ大学教授 ドイツ電子シンクロトロン研究所（DESY）所長 DESY 理事会委員長 TESLA Technology Collaboration Board 委員長 将来加速器国際委員会（ICFA）委員長 ヘルムホルツ協会副会長 ハンブルグ大学評議委員会委員長 ヨアキム・ヘルツ基金委員 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園評議員 同 理事長臨時代理兼学長臨時代理

*重任・2期目 **再任

(3) 評議員

氏名	任期	所属
*安仁屋 洋子	2014年11月1日～ 2017年10月31日	琉球大学名誉教授
有馬 朗人	2011年11月1日～ 2017年10月31日	財団法人日本科学技術振興財団会長 学校法人根津育英会武蔵学園学園長 公立大学法人静岡文化芸術大学理事長
ニール・コールダー	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	沖縄科学技術大学院大学副学長（広報担当）
モンテ・カセム	2011年11月1日～	学校法人立命館総長特別補佐

	2017年10月31日*	
メアリー・コリンズ	2016年2月18日～ 2019年2月17日	沖縄科学技術大学院大学研究担当ディーン
マチ・ディルワース	2015年5月18日～ 2018年5月17日	沖縄科学技術大学院大学副学長（男女共同参画・人事担当）
土肥 義治	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	公益財団法人高輝度光科学研究センター理事長
ラルフ・アイヒラー	2014年11月1日～ 2017年10月31日	前スイス連邦工科大学チューリッヒ校学長
アリ・ガンジロー	2015年10月2日～ 2018年10月1日	沖縄科学技術大学院大学副学長（施設管理担当）
フレデリック・ ギルマン	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	カーネギー・メロン大学（米国）理学研究科長
平澤 洽	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	財団法人未来工学研究所理事長 東京大学名誉教授 北陸先端科学技術大学院大学経営協議会委員
キース・ホジソン	2014年11月1日～ 2017年10月31日	スタンフォード大学化学学部長
ジョージ・イワマ	2015年5月18日～ 2018年5月17日	沖縄科学技術大学院大学上席副学長
梶山 千里	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	福岡女子大学学長・理事長 前九州大学総長
小林 誠	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構 特別荣誉教授
久保 真季	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	沖縄科学技術大学院大学副学長（アドミニストレイティブ・コンプライアンス担当）
松本 良	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	東京大学名誉教授 明治大学研究知財戦略機構特任教授
松島 恵美	2014年11月1日～ 2017年10月31日	沖縄科学技術大学院大学統括弁護士
アン・ミウラ・コー	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	Floodgate 共同設立パートナー
長浜 善己	2015年2月19日～ 2017年10月31日	恩納村村長
ケン・ピーチ	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	オックスフォード大学（英国）量子治療癌研究所名誉教授

ヘルマン・シュンク	2014年11月1日～ 2017年10月31日	前連邦教育科学研究技術省基礎研究局長
瀬名波 榮喜	2014年11月1日～ 2017年10月31日	名桜大学名誉学長 大学コンソーシアム沖縄代表理事
白井 克彦	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	放送大学学園理事長 前早稲田大学総長 前沖縄振興審議会会長
諸喜田 茂充	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	公益法人沖縄科学技術振興センター評議員
尚 弘子	2011年11月1日～ 2017年10月31日	公益法人沖縄科学技術振興センター評議員 沖縄国際大学理事
デイヴィッド・ スウィンバンク	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	ネイチャーパブリッシンググループ マネージング ディレクター リジョナルマーケット&サイエンス &メディカルコミュニケーションズ アジアパシ フィック・インド・中東・イベロアメリカ・ロシア マクミラン サイエンス&エデュケーションマネー ジングディレクター オーストラリア&ニュージー ランド
高梨 桂治	2015年5月18日～ 2018年5月17日	沖縄科学技術大学院大学副学長（財務担当）
高安 藤	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	元在沖米国総領事館広報・文化担当補佐官
田中 信明	2014年11月1日～ 2017年10月31日	元国連本部事務次長 ガイアコンタクト CEO
浦崎 唯昭	2015年2月19日～ 2017年10月31日	沖縄県副知事
アルブレヒト・ ワグナー	2011年11月1日～ 2017年10月31日	ドイツ電子シンクロトン名誉所長
和宇慶 江理子	2015年5月18日～ 2017年10月31日	沖縄アミークスインターナショナル校長
ジェフリー・ ウィッケン	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	沖縄科学技術大学院大学科学技術研究科長
山本 雅	2014年11月1日～ 2017年10月31日	沖縄科学技術大学院大学教授 教授会議長
山崎 秀雄	2014年11月1日～ 2017年10月31日	琉球大学理学部海洋自然科学科生物系理学部長

フィリップ・ヨー	2011年11月1日～ 2017年10月31日*	シンガポール中小企業育成標準政策庁（SPRING） 長官
----------	-----------------------------	---------------------------------

*理事兼任者

*重任・2期目

II. 業務実績報告

別紙「平成27年度業務実績報告」のとおり。

平成 28 年 3 月 31 日

第 1 章 教育研究に関する事項

1.1 博士課程 目標 (1)	平成 26 年のフィードバックを受け、新期学生の円滑な受入れと、計画通りの研究トレーニングの開始に万全を期し、取組の更なる改善を図ります。			A
1.1 博士課程 取組 (1)	<p>(授業科目)</p> <p>1101 引き続き、新しく採用された教員が担当する授業を含め、カリキュラムを拡充するとともに、平成 27 年 6 月に設置計画履行状況報告書を文部科学省に提出します。</p> <p>1102 引き続き、博士論文研究開始前のトレーニングやラボ・ローテーション、個々の学生への指導教員（アカデミック・メンター）の配置等を含め、個々の学生のニーズに応じたプログラムを提供します。</p> <p>1103 引き続き、グループ活動やプレゼンテーションの技術等に重点を置いたトレーニング等を内容とする「プロフェッショナル・ディベロップメント科目」を提供します。</p> <p>1104 平成 26 年のフィードバックを受け、博士論文研究の進捗状況の審査について、プロセスの改善を図ります。</p> <p>1105 引き続き、入学予定の学生（特に 3 月に日本の大学を卒業する学生）に対し提供する、研究活動で必要となる語学力等を習得する準備プログラムの充実を図ります。</p>		<p>(授業科目)</p> <p>1101 新規に博士課程指導教員として採用した化学系の教員 3 名について、平成 27 年 6 月に設置計画履行状況報告書を提出し、同年 8 月に同教員らの研究指導が認可されました。</p> <p>1102 平成 27 年 9 月に、世界各国から新入生 24 名が入学しました。個々の学生へ指導教員（アカデミック・メンター）を配置し、ラボ・ローテーションやコースワークを開始しました。</p> <p>1103 「プロフェッショナル・ディベロップメント科目」を継続して実施し、専門的な科学技術習得の向上に努めました。当該科目は主に 3 つの要素から構成されています。 1) 研究公正や倫理、科学コミュニケーション、社会における科学の役割などの多岐にわたる週次セミナー 2) 学際的なグループプロジェクト 3) プレゼンテーション・スキルや指導力を磨く実践授業。</p> <p>1104 博士論文研究の進捗状況の審査について、審査の管理や、審査結果を入力するシステムを構築・導入し、審査のプロセスを改善しました。審査にかかる事務を統括する学位論文コーディネーターのスペシャリストと、サポートにあたる事務スタッフを配置しました。</p> <p>1105 平成 27 年 6 月から 8 月の間、日本人学生を 1 名、英国オックスフォードでの語学カトレーニングへ派遣しました。当該年度は語学力の向上が必要な学生はこの 1 名のみでした。</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>1.1 博士課程 取組 (1)</p> <p>(教育環境)</p> <p>1106 引き続き、学生の研修、単位互換、ティーチング・アシスタント等の交流を目的に連携協定を締結する等、他大学との協力関係を強化します。</p> <p>1107 履修状況、成績、単位等のデータを管理する学生記録システムを引き続き運用し、引き続き拡充を図ります。</p> <p>1108 引き続き、実験授業、教材、講義室や指導室、AV 機器、コンピューター・ラボ等を管理するための仕組みや、教員と事務部門との連絡窓口を強化します。</p> <p>1109 研究科オフィスの事務機能及び教室として使用する部屋を第 3 研究棟へ移転します。</p>		<p>(教育環境)</p> <p>1106 昨年に引き続き、本学の学生が県内の大学でティーチング・アシスタントとして活動しています。米国での 3 ヶ月間の交流プログラムには、2 名の学生が参加しました。平成 27 年度において、特別研究学生の追加受入は実施していないため、当該年度の学生に関し新規で締結された協定はありません。</p> <p>1107 学生はプログラムの次の段階へと進み続けることから、さらなる要望に対応するため、引き続き学生記録システムを進化させています。新たな機能の追加や、学生記録システムと OIST 内の他のデータサービスの相互運用により、業務遂行がよりスムーズになりました。</p> <p>1108 電子工学教育作業室の設置やマイクロ流体工学用ソフト・リソグラフィ・システムの導入を中心に、引き続き教育ラボおよび施設の改善を行いました。また全ての教室に AV 機器を追加で設置したことにより、学内同士または世界各地を結んで同時に授業が行えるようになりました。これらの改善により、教育ラボの使用率が向上しました。</p> <p>1109 研究科オフィスは、新たな研究目的で建てられた第 3 研究棟へ平成 27 年度の始めに移転しました。第 3 研究棟ではより十分な教育スペースと関連事務スペースが確保されています。</p>	
<p>(学生支援)</p> <p>1110 引き続き、入学後の学生に対するオリエンテーション・プログラムを改良します。</p> <p>1111 文化イベントの開催や日本国内の他大学に在籍する学生との交流の機会を設けることにより、海外からの学</p>	<p>・外部の奨学金等を獲得した学生数の増加</p>	<p>(学生支援)</p> <p>1110 新入生に対する学生支援情報パッケージ、「ライフ・イン・オキナワ (“Life in Okinawa”）」の内容および学生トラベル・ハンドブックの改定を行いました。日本の税制度や国民健康保険制度、年金制度について税理士を招きセミナーを行いました。また学生を対象に、沖縄県警による交通安全・防災・防犯セミナーを実施しました。</p> <p>1111 夏には首里城巡りや今帰仁城跡巡りといった社会見学を行い、学生が沖縄の文化について理解を促進するため</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>1.1 博士課程 取組 (1)</p> <p>生による日本文化に対する理解を促進します。</p> <p>1112 引き続き、本学の博士課程に入学する学生に対し、本学が優れた学生の獲得を巡って競合する世界水準の大学と同程度の生活水準において、研究活動等に専念できるような環境を提供します。</p> <p>1113 学生が巻き込まれた事故の発生や対応、結果等を引き続き記録します。</p> <p>1114 引き続き、外部の奨学金等の情報を収集し、学生に対し情報を提供するよう努めます。</p> <p>1115 新たに任命されたキャリア・ディベロップメント・コーディネーターをサポートし、学生の卒業後のキャリア形成を支援するための方策を実施します。これらの支援には、他大学等でのティーチング・アシスタントの機会の付与、国内外の大学・研究機関のリーダー層とのネットワークの構築の促進、ポスドク等のポジションの就職情報の積極的な提供等が含まれる予定です。</p>		<p>の機会を設けました。また、県内の他大学との交流会や文化セミナーを実施しました。8 月には 1 学年を対象に 4 都市 5 大学を訪問するスタディ・ツアーを実施し、各大学の学生や教授陣と大いに親睦を深めました。</p> <p>1112 学生が学業に専念できるよう、学生サポートセクションにて、年末調整、還付申告、滞在ビザの更新、出生届等の申請手続きを学生に代わり適時行っています。また、奨学金申請にかかる書類作成や翻訳作業も行いました。</p> <p>1113 緊急時に少しでも迅速な対応ができるよう、OIST キャンパスセキュリティ窓口および保健センターと緊密に連携を取っています。報告は学生データベースに記録され、研究科長に通達されます。</p> <p>1114 学生が申請可能な奨学金や、フェローシップの情報を引き続き収集し周知することで、学生による応募を奨励しました。また奨学金申請を手引きするセミナーを開催し、必要に応じて申請手続きをサポートしました。5 名の学生が JSPS フェローシップを獲得しています (DC1&DC2)。</p> <p>1115 サイエンス・チャレンジや August Workshop (ワークショップ)、Skill Pills 等短期集中コースにおいて、TA(ティーチング・アシスタント)としての教育指導の機会を提供しており、学生は積極的に参加しています。教育活動に従事した時間はオンラインの申請書で記録でき、授業同様、学業従事時間として認識されます。現在は、TA 協定を琉球大学と調整中です。</p> <p>新規採用した専任のキャリア・ディベロップメント・コーディネーターが、全学生向けに研究業績・履歴書作成のワークショップをすでに 3 回開催したほか、個別の就職相談を実施しています。学生向けのキャリア・ニュースレターを毎月発行し、求人情報等を周知しています。その他直近の採用情報については、メールや本学学生専用の Facebook ページで送信しています。</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>1.1 博士課程 取組 (1)</p>	<p>1116 引き続きリソース・センターは以下の取組により学生とその家族に対し直接的な支援を向上させます。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 新入職員やその家族への歓迎メールの送付 (2) 宣伝用資料（パンフレット、ビデオ等）の作成・配布 (3) ウェブサイトの充実（日常生活を送る上での問題や事務手続きに関するより多くの情報を含めること） <p>1117 バイリンガルな医師、看護師、事務職員が一名ずつ常勤するクリニックを開設し、キャンパスにおいて学生の健康全般のニーズを網羅します。がんじゅうサービスも活動を広げ、主にメンタルヘルス・サポートを行います。加えて、ストレス管理等に関する様々なセミナーを企画・開催します。</p>	<p>1116 学生課からの依頼に基づき、リソース・センターは新入学生やリサーチ・インターン及びその家族に対してオリエンテーションを提供しました。学生に特化したサポート、イベント、パンフレット、情報などを紹介しました。また、日常生活に関連した情報や事務手続きに関してより多くの情報を提供できるよう、ウェブサイトを増強させました。</p> <p>1117 家庭医療を含めた幅広い医療分野での経験を持つバイリンガル一般開業医の原医師が 2015 年 5 月から OIST での勤務を開始しました。保健センターのマネージャーらとの緊密な連携によりクリニックを開設しました。同クリニックは 2015 年 9 月より本格的にサービスを提供しています。OIST コミュニティ全体を対象にサービスを提供しており、順調に運営されています。キャンパス内で医療ケアを提供することでスタッフの業務時間のロスが減り、保健センターのスタッフが外部医療機関に OIST 職員及びその家族を付添う必要性が大幅に減りました。</p> <p>がんじゅうサービスチームによる心理的健康を支援するサービス拡大計画の一環として、チームメンバーは無料オンライン研修イベントの情報発信を行い、以下のテーマについて学習することを目的としたディスカッション・グループを推進しました：女性の指導力、前向きな変化へのひらめき、カルチュラルインテリジェンス、幸せと自己実現。これに加え、同メンバーらは研究担当ディーン及び男女共同参画ディビジョンと共同で学生を対象としたチームワークに関するディスカッション・グループの推進を行いました。また、信頼できる仲介者による「互いに尊重しあう職場の実現」に関する参加型セミナーも開催されました。ランチタイムには健康ウォーキングが推奨されています。新入職員を対象としたオリエンテーションについても、新入職員をウェルフェア・サービスオフィスへと案内するといった新しい内容に変更されました。新入職員からはこうしたサービスの紹介が非常に良かったとの反響があり、そ</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価	
<p>1.1 博士課程 取組 (1)</p>		<p>の後の更なるサービス利用につながっているとがんじゅうチームは認識しています。 がんじゅうチームは学生が自身の健康およびクラスメートの健康に心を配るよう支援しています。昨年からの在生による新入生を対象とした仲間支援プログラムも開催しています。当プログラムは好評を博しており、今後は評価を行った上で 2016 年度入学予定の学生に向けて、在生を新入生に割り当てる方法を採用したプログラムが拡大される見込みです。このようなプログラムを提供することで、入学予定の学生から早期に連絡・質問を受けることができます。がんじゅうチームはいくつかの学生主導プロジェクトの支援もおこなっています。ボランティアベースによる、学生による学生のための支援を始め、博士課程のプロフェッショナル・デベロップメント・プログラムの一環として企画された健康管理に関するプロジェクトなど複数のプロジェクトが展開されています。</p>		
<p>1.1 博士課程 目標 (2)</p>	<p>引き続き、科学技術分野における世界最優秀の学生を選抜し、本学の博士課程に受け入れます。学生の少なくとも半数は外国人とします。</p>		A	
<p>1.1 博士課程 取組 (2)</p>	<p>1118 これまでの学生募集・選抜の状況について適切な検証を行い、その結果を最近の取組に反映させ、計画的かつ効果的な募集・選抜を実施します。</p> <p>1119 平成 28 年 9 月に本学の博士課程（科学技術専攻、科学技術研究科）に入学を予定する次期学生として、科学技術分野における世界最優秀の学生の獲得を目指し、以下のとおり、国際的な募集・獲得活動を引き続き展開します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 入学定員：約 20 名 - 募集期間：平成 27 年 6 月～8 月、平成 28 年 1 月～3 月 - 主な募集活動： <p>➤ 1120 募集ツールとして、引き続き、研究科のウェブサイトを整備します。更に、正確で分かりやすい学生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成績優秀な学生の博士課程への応募者数（日本人及び外国人） ・合格者数（日本人及び外国人） ・入学者の水準（出身大学等） 	<p>1118 平成 27 年 9 月に、合計 24 名の学生が入学しました（内日本人学生 2 名、外国人学生 22 名）。</p> <p>添付資料 #1.1-1 学生に関する情報</p> <p>1119 国際的な募集・獲得活動を展開し、平成 28 年 9 月に本学の博士課程（科学技術専攻、科学技術研究科）の 5 期生となる、科学技術分野における世界最優秀の学生を獲得しました。</p> <p>1119 国内外の優秀な学生のフォーラム関係者らとの連絡を密にし、その一つの団体「STeLA」の平成 28 年度のアニュアルフォーラムを OIST に誘致しました。開催は平成 28 年 8 月 20～30 日。</p> <p>➤ 1120 大学院の紹介を目的とした新サイトを立ち上げました。また、学生募集のパンフレットの英語版を</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価	
<p>1.1 博士課程 取組 (2)</p>	<p>募集パンフレットを発行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 1121 国内の主要都市で OIST カフェを開催し、本学の募集情報や英語講習を提供します。 ➤ 1122 日本の学部生を対象とした英語でのサイエンス・コンテストを開催し、勝者には本学による最先端の研究を体験してもらうワークショップへの参加を授与します。 ➤ 1123 ターゲットとなる国に本学の教員を派遣し、本学に関するセミナーを開催します。 ➤ 1124 物理や神経科学などの分野からの募集のために、ターゲットを絞ったパンフレットを発行します。 <p>※本学の教育環境の特色を学生に紹介する取組において、引き続き特に日本人学生に留意して募集活動を行います。いくつかの国内大学における説明会や、平成 26 年度に実施した OIST 体験ワークショップのようなイベントを開催するなど、ターゲットを絞った取組を通し、日本人学生の参加の機会を増やすよう努めます。</p>		<p>改訂しました。日本語版は追って発行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 1121 東京や広島を含む都市で OIST カフェやミニ OIST カフェを開催しました。 ➤ 1122 平成 27 年 11 月から 28 年 1 月にかけて、日本人学部生を対象に、「大学院で何がしたいか？」というテーマで英語コンテストを実施しました。入賞者は、本学で開催した「サイエンス・チャレンジ」ワークショップに参加し、最終発表に向けた英語研修を受けたり、様々なラボ体験をしたり、本学の教員・研究者による講義に参加したり、博士課程学生と交流したりしました。 ➤ 1123 海外出張時に、本学の教員は、本学のパンフレット、ポスター、プレゼンテーション等の資料を持参し、これまで同様大学紹介に努めています。 ➤ 1124 物理、神経科学、分子細胞生物学、生態・進化学、化学等の各分野に特化したフライヤーを日英両言語で作成しました。教職員の出張時に、このフライヤーを用いて本学のリサーチ・インターンや博士課程等を紹介したほか、各分野において名高い大学に送付し、学生獲得の広報活動に努めました。 <p>※日本人学生を対象とした前述のサイエンス・チャレンジや Collaborative International Undergraduate Workshop（理研和光地区・OIST で実施）等のイベントにおいて、本学の教員が講義やラボ・アクティビティー等を積極的に実施しました。</p>	
<p>1.2 研究活動に関する事項 目標</p>	<p>引き続き、世界最高水準の学際的な研究を推進します。基礎研究を通じて、新たな知見を追求することに尽力します。また、様々な国や地域から集まった学生に対し教育訓練を実施します。相互の連携を促す環境の整備、最先端の</p>			<p style="text-align: center;">A</p>

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>設備・機器の提供、並びに定期的実施される厳格な研究評価制度等により、優秀な教員や学生、研究員を奨励し、高いモチベーションを維持するよう支援します。</p> <p>社会のニーズに応え、それに相応しい取組を展開するよう努めます。基礎研究から生まれる発見こそが最も大きな貢献に繋がると確信しています。政府による「経済財政運営と改革の基本方針」に基づき、知的・産業クラスター形成の推進に関連した研究等を通じて、ニーズに見合った科学技術の応用を推進していきます。</p>			
<p>1.2 研究活動に関する事項 取組</p> <p>(学際的研究の促進)</p> <p>1201 学際的研究の成否は、教員が率いる研究ユニットの研究力に左右されます。強固なユニットを確立するため、引き続き優秀な人材を教員として採用していきます。リサーチ・サポート・ディビジョンの積極的な拡充を図り、共用・共通機器及びサービス支援を本学の研究員や学生に提供していきます。</p> <p>1202 研究棟のデザインや博士課程新期生による専門外のラボ・ローテーション、社会活動は全て、分野をまたぐ共同プロジェクトの促進につながります。</p>		<p>(学際的研究の促進)</p> <p>1201 分野を絞らない方法で教員募集を行い、非常に質の高い候補者(#131の回答を参照のこと)が集まり、選考が行われています。そのため現在 OIST が誇る教員の質を維持できると考えています。面接を行った候補者の中から、研究ユニットを率いる若くて優秀な教員を 5-10 名ほど採用できると考えています。</p> <p>研究上の必要性に応じた新たな共通機器がリサーチ・サポート・ディビジョンの管理下に導入され、またそれを管理する技術員の採用も進行中で、研究支援体制の整備が促進されました。</p> <p>1202 引き続き、分野をまたぐ共同プロジェクトの促進につながる研究環境が提供されました。</p>	
<p>(知的・産業クラスター形成の推進に関連した研究)</p> <p>1203 知的・産業クラスター形成の推進に関連した研究は本学の様々なグループ(プロボスト・オフィス、教員担当学監オフィス、沖縄の自立的発展担当首席副学長オフィス)が関わります。特に、沖縄の自立的発展担当首席副学長は学外のパートナーとの交流を図り、相互間の円滑なコミュニケーションを促進し、このような連携活動から生じる経済発展を後押しします。事業開発セクション及び技術移転セクションは沖縄の自立的発展担当首席副学長の下で活動を進めます。知的・産業クラスター形成の推進に関連した研究プロジェクトの概要は以下の通りです。</p>		<p>(知的・産業クラスター形成の推進に関連した研究)</p> <p>1203 R&D クラスター研究プログラムは、OIST が専門家を育成し、沖縄に位置することで明確な利点が生まれる科学分野に関連した学際的研究チーム形成の種を蒔き続けています。</p> <p>7つの研究ユニットの9プロジェクトとして始まったR&Dクラスター研究プログラムは、新たな概念、計測手段、手法、テクノロジー、データの作成または分析手法を生み出すことを目的とする非常に革新的な研究へとその焦点を移すように発展してきました。</p> <p>こういった極めて集中的なプロジェクトには、産業界から政府、そして地元のコミュニティグループに至るまで、</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>1.2 研究活動に関する事項 取組</p> <p>1204 - 海洋科学 沖縄は日本で最も生物多様性の豊かな地域です。アジアのサンゴ生息地域の最北端であり、沖縄近海には深海熱水噴出孔が多く存在します。このような環境は本学の発展にとって間違いなく最適と言えます。恩納村瀬良垣漁港内に臨海実験施設を整備・開設します。また、第 3 研究棟に海洋科学研究センターを開設し、沖縄での研究を希望する学外の共同研究者らが利用できるよう整備を進めます。外部利用者は、施設利用及び研究サポートに対する費用を支払います。</p> <p>海洋研究プログラムでは、地元の漁協組合や環境団体と協力し、海洋食物や生物資源の持続可能性を保持し、環境や生物多様性の保護に配慮した取組を進めます。本プログラムでは、引き続き、平成 25 年に策定された政府の「海洋基本計画」に基づきながら、ウズホール海洋研究所やウズホール海洋生物学研究所、琉球大学、海上保安庁、美ら海水族館等との協働を通して、沿岸及び海底の海洋循環、海洋流体力学、海洋生物ゲノミクス、サンゴ保全等の分野の先端的な研究活動を推進します。このように、学術指向研究の推進と、海洋関連産業、製薬業、バイオ産業等への貢献が期待できる技術移転を引き続き行っていきます。</p>		<p>OIST の外部のパートナーとの深い交流が行われています。概念実証(POC)プログラムなどのような関連テクノロジー開発プログラムとのより優れた統合を行うため、平成 27 年度の終わりにはプログラムの調整機能を沖縄の自立的発展オフィスへと移す準備が完了しました。</p> <p>そのメカニズムは、合否判定、選定、および評価手順をプログラムの管理および運営へと統合し、現在と将来のプロジェクトが研究の開発、社会への応用を目指したものとなるよう策定されました。</p> <p>1204 - 海洋科学 <御手洗ユニット> 沖縄海洋科学センターでは、平成 27 年度 R&D クラスター研究プログラムの一部として、いくつかのパイロットプロジェクトが進行中です。あるプロジェクトに、Stephen Monismith 教授 (スタンフォード) とともに行われている、台風に応じた沖縄のサンゴ礁の潮の流れを理解するというものがあります。また別のプロジェクトには、Scott Gallager 博士 (ウズホール海洋研究所) と行われるプランクトン撮影機器の改良を行うというものもあります。Diah Permata 教授(インドネシア) と Thamasak Yeemin 氏 (タイ) はサンゴ礁の種類のサンプル交換、分析を検討しており、共同研究の合意が準備中です。</p> <p>沖縄にあるサンゴ礁のエコシステムの継続的なリアルタイムモニタリングを行うため、2 本のケーブルで繋がられた海洋観測システムが導入されました。物理的、生物学的、および化学的な値がモニタリングされ、プランクトンのモニタリングのために設計された水中カメラが一時的な変化をとらえるために導入されています。水中センサーの正確性を計測し、研究室内でサンプルを処理するため、水質サンプルが毎月数回にわたり採取および保存されます(質量分析法および電子顕微鏡法)。</p> <p>平成 27 年に 5m の深さのより浅い地点に 2 つ目のメインノードが設置されました。この地点は最初の地点よりもさらに保護されており、より豊富なサンゴ礁が存在しています。2 つ目のノードは水中ロボットに特化した日本企業と</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>1.2 研究活動に関する事項 取組</p> <p>1205 - エネルギー エネルギー自給の確立は沖縄や日本のような島嶼地域にとって最重要事項です。 知的・産業クラスター形成に関連した基礎研究を通じて、本学では、風力や太陽光より安定性を期待できる波や潮の流れを利用した海流発電技術の開発を行っています。また、より効率的な次世代型太陽エネルギー技術の開発や、本学の教職員が居住する宿舎を利用して実験を進めている小規模コミュニティ向けのマイクログリッドを用いた知的電力システムの開発も行っています。同システムにより、各住宅のニーズや供給状況に合った分散電力管理が行えます。</p>		<p>ともに開発されました。プランクトンカメラが新しく 2 台追加され、$\sim 1\ \mu\text{m}$ から 100 分の $1\ \mu\text{m}$ までの幅広いサイズの海洋生物を捉えることが出来ます。 システムが安定すれば外部のユーザーも利用可能となり、すでに潜在ユーザーとの話し合いも進行中です。共同研究者は自分たちでセンサーを持っていくことが許可され、OIST がそれらを接続し、メンテナンスを行う予定です。データストレージも利用可能となるため、OIST は海洋観察機器のテストサイトとして非常に優れた場所となるでしょう。</p> <p><佐藤ユニット> 沖縄島嶼におけるサンゴ礁の成り立ちと保全を理解するために、コユビミドリイシの集団遺伝学的解析を 1 塩基多形レベルで行った結果、現在本島で回復しつつサンゴは本島固有のもので、これまで多くの研究者が予測してきた慶良間諸島からの流入によるものではないことが明らかになりました。また本年度から、県水技研センターおよび恩納村漁協の協力を得て、褐藻であるモズク、緑藻であるウミブドウのゲノム解読を開始しました。平成 28 年にはそのゲノムも概要が明らかにされ、特異的生産物の生合成に関わる遺伝子群が明らかになると思われます。</p> <p>1205 - エネルギー <チー・ユニット> 次世代の太陽エネルギー技術開発の低コスト・量産化の進歩： スロットダイコーティング（低コスト及び量産化の製造互換性のあるコーティング法式）を使用し、$1\ \text{cm}^2$ の電極有効面積で平均電力変換効率 4% を持ったフレキシブル太陽電池（ペットフィルム）を製造することに成功しました。超音波スプレーコーティング（スケールアップに適した他の低コスト製造方法）を用いて、$1\ \text{cm}^2$ の電極有効面積で平均電力変換効率 10% を持った硬質太陽電池（ガラス基板）を製造しました。$1\ \text{cm}^2$ の電極有効面積以下では平均電力変換効率 13% を得ることに成功しました。これらの性</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>1.2 研究活動に関する事項 取組</p>		<p>能は、実験室ベースで一般的に使用される非スケラブル法式（例えば、スピコーティング）を用いて外気条件下で製造された太陽電池のそれに匹敵します。</p> <p><新竹ユニット> 平成 27 年度はまず沖縄県宜名真漁港沖にて潮流の観測を行いました。潮流（流速・流向）の深さ方向プロファイル、海水温中層浮体の深度などを 1 年を通して測定し、海流発電機の係留を検討する際に重要となるデータを収集することができました。また、タービン直径 5m 出力 10 kW の海流発電機のナセル部分の基本設計を行い、主要なパラメータを決定することができました。</p> <p>波力発電では、恩納村真栄田の海岸で、直径 70 cm の試験プロペラを砕破帯に持ち込み、波の水流から 100 Watt の電力を得ることに成功し、有効な基礎データを得ました。</p> <p><北野ユニット> MicroGrid システムと交換式バッテリー(MIGEX)のためのハードウェアが PUES 社との共同研究にて開発、導入されました。そして OIST キャンパス内のサービスビルディングおよび新しく完成した『サステナブル・リビングハウス』に設置されました（下記参照）。これらはさらに大きなシステムの一部としてオープンエネルギー・システム(OES : 沖縄県庁より資金提供)に接続されており、2017 年にはハワイ大学にも導入予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 交換式バッテリーパック • 交換式バッテリー充電ステーション • 交換式バッテリー使用タイプの電気自動車 <p>設置された再生可能エネルギーのハードウェア（太陽光パネル、バッテリー、DC グリッドなど）がどのように動作するかをシュミレーションするコア OES エミュレーター・ソフトウェアがさらに改良されました。</p> <p>このシュミレーション・ソフトウェアを使うことにより、DC グリッドの最適構成を導き出すことができます。OIST およびハワイ大学に建設予定の将来システムにも採用さ</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>1.2 研究活動に関する事項 取組</p> <p>1206 - 環境及びバイオ 世界的な課題である生物多様性保全には、広範囲での継続的で緻密なサンプル収集と迅速な解析を進める技術開発が不可欠です。知的・産業クラスター形成に関連した基礎研究では、沖縄の生物多様性の評価・モニタリングを行います。また、動植物のサンプリングや、より優れたゲノム解析手法の開発も同事業に含まれます。これに加え、試料や画像をより効果的に数値化する X 線 CT などの画像の自動認識技術やソフトウェアの開発も進めます。</p>		<p>れる予定です。 サステナブル・リビングハウス（ミサワホーム総合研究所との共同研究より出資）が共同設計され OIST の R&D ゾーンに建設されました。R&D 予算より、2 機の風力タービンおよび交換式バッテリー充電ステーションが導入されこれらの住宅に接続されました。 OIST キャンパス内の実環境からは、本システムの将来の発展に重要なツールとなるエネルギー、自動車、気象データを継続して収集します。 沖縄の地元企業であるトマス技術研究所とごみ焼却発電施設の開発について合意しました。</p> <p>1206 - 環境及びバイオ ＜エコノモ・ユニット及びミケエヴ・ユニット＞ 平成 27 年度は沖縄環境観測ネットワーク（OKEON）を実施し、沖縄の地元の人々と協力しながら、沖縄の環境変化を観測、モニタリング、把握する環境観測ネットワークを構築しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 沖縄本島内に生物及び環境評価に関連するデータを採取する 24 の調査地点を設置しました。調査地点を設置するにあたり、琉球大学、沖縄県立博物館、沖縄県、さらに県内の高等学校など地元の関連する団体とのネットワークも構築しました。 • サンプルやデータの解析を行うラボが第 3 研究棟のレベル A に整備されました。そこで調査地点や博物館から採取され、分解されたサンプルの分析技術も発展させています。 • アリのゲノム解析を引き続き行っており、調査地点で採取された他の生物に関しても同様にゲノム解析を行っています。さらに、地理情報システム（GIS）データを収集し、過去 40 年間の土地の利用や変化について分析を行っています。 • 2015 年度末時点において、R&D クラスター関連研究から、より地域社会性を織り込んだ内容と 	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>1.2 研究活動に関する事項 取組</p> <p>1207- 先端医療 加速器やイメージング技術を含む粒子線治療技術に対する国家医療プロジェクトへの貢献を果たします。機器の有効性・効率性の改善が重要な取組となります。 本学の加速器やイメージング技術の専門家と、琉球大学や放射線医学総合研究所、筑波大学、高エネルギー加速器研究機構（KEK）、スタンフォード大学との共同研究の確立を目指しています。</p>		<p>範囲の研究に移行する計画が策定されました。</p> <p>1207 - 先端医療 ＜菅原ユニット＞ 最先端医療機器開発におけるパフォーマンスレポート 平成 27 年度、高エネルギー加速器研究機構、日本原子力研究所および企業による協同により、OIST-BNCT の設計はほぼ完成しました。中性子源のターゲットとしてベリリウムではなくリチウムを起用することを確定、熟考中です。イメージング分野では、OIST ガントリーの設計がほぼ完成し、コリメータを用いた硬 X 線検出器用エレクトロニクスの研究開発を開始しました。 ドラッグデリバリー研究も、シェン・ユニット、東京大学・片岡研究所、UCLA・玉野井研究室と共に開始しました。がん幹細胞研究（CSC）についても山本ユニットおよび慶応大学・佐谷先生のグループと開始しました。</p>	
<p>（研究活動の支援）</p> <p>1208 リサーチ・サポート・ディビジョン（RSD）の再編を行い、同ディビジョンの下に置かれた 9 つのセクションに 1 人、もしくは 2 人以上の教員を置き、各セクション・リーダーと協力して助言や指導を行っていきます。新体制下では、コモンリソース諮問委員会が解散し、RSD のセクション・リーダーらで構成される新グループがこれまでの諮問委員会の機能を果たします。 副プロボーストのポジションの代わりに、研究担当ディーンを置き、同ディーンが RSD を統括します。研究担当ディーンのポジションを加えることにより、本学のアカデミック活動の重要な 3 つの領域を 3 名のディーン（研究科長、教員担当学監、研究担当ディーン）が統括することになります。 本学の発展に伴い、各セクションにおける優秀な専門スタッフの採用活動を引き続き進めます。 RSD の再編により新たにエンジニアリング・テクノロジー・ナノファブリケーション・セクションが設置されます。エンジニアリング機能は、平成 27 年度に開設予定の技術支援棟に設置され、本学の研究・教育を支える技術開発・</p>		<p>（研究活動の支援）</p> <p>1208 研究担当ディーンが着任し、リサーチ・サポート・ディビジョン（RSD）の再編とともに、3 名のディーン（研究担当ディーン、教員担当学監、研究科長）の分掌と協働体制の整備と充実化に着手しました。 新たにエレクトロニック・エンジニアリング・サポートセクションが設置されました。</p> <p>高度な研究技術支援を行うために支援棟に設備する加工機の選定(NC 旋盤、5 軸マシンニングセンター、ワイヤー放電加工機、3 次元測定器)、配置を決定しました。また、最先端の流体実験、材料実験及び低温物理実験装置の設計・製作を行いました。</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>1.2 研究活動に関する事項 取組</p> <p>高度化をもたらします。</p> <p>1209 コモンリソースの効果的な管理及び使用に向けて、引き続き研究機器に関するデータベース及び予約システムの確立・開発・改善を進めていきます。</p> <p>1210 平成 26 年に設置した沖縄海洋観測システムから南の海域に 2 つ目の観測システムを設置します。当システムを使用する研究者を対象としたトレーニングを実施します。また、学内外の研究者のために、優先的で公平な管理及びスケジューリングを行います。これらの機器を世界中の科学者が運用できるよう整備を進めます。</p> <p>1211 内部の優先利用を確保しつつ、他大学や民間企業等による本学の研究施設の利用を促進します。</p> <p>1212 HPC 用クラスター及び DNA シーケンサーを活用し、知的・産業クラスター形成に向けた関連研究やその他の研究をサポートします。</p> <p>1213 不正防止計画委員会をプロボースト・オフィスの下で発足します。本委員会は、適切な研究計画や行動、及び</p>		<p>1209 研究機器データベースへの機器情報の登録とより詳細な情報の入力を精力的に進め、主要な共通機器の網羅と内容の充実化がなされました。機器データベースと予約システムに対し、毎日、約 50-60 件のアクセスがあり、よく利用されています。</p> <p>1210 平成 27 年 8 月に沖縄海洋観測システム 2 号機を設置しました。設置場所は、美ら海水族館の南方およそ 2km、水深 5m の海域です。新たに海洋観測センサーを追加しました。システムの安定動作が確認され次第、外部利用者への開放を行う予定で、候補となる外部研究者との相談を開始しています。</p> <p>1211 沖縄プロテントモグラフィー（OIST 初のベンチャー）が、「研究施設外部利用契約」に基づき、300kV クライオ透過顕微鏡を月平均で 4.8 日、計 57 日利用しました。</p> <p>1212 新たに 1 台の超多並列 DNA シーケンサーが導入されました。既存の機器に比べ、約 1/3 の時間で約 1.5 倍量のデータの算出が可能になりました。シーケンス関連の研究がより加速することが期待されます。</p> <p>平成 26 年度末に拡張・アップグレードしたハイパフォーマンスコンピューター(HPC)のリソースを 1 年間運用した結果、Tombo（旧システム）の運用障壁を乗り越え、システムパフォーマンスは期待を遥かに超えました。新 Sango ストレージシステムは Tombo より速度が優れ、これらにより複雑な作業負荷の処理時間が以前より向上されました。また、平成 27 年度に巨大メモリの処理が必要なタスクの管理システムをアップグレードし、長期で保管するための研究データ用の容量も増加させました。</p> <p>1213 研究担当ディーンが不正防止計画委員会に関する議論を主導して実施し、委員長は研究担当ディーンとする</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>1.2 研究活動に関する事項 取組</p>	<p>研究資金の適正な使用についての理解を促進する幅広い活動を総括します。</p>	<p>こと並びに関連ディーン、教員代表者、関連セクション・リーダー及びその他研究担当ディーンが必要と認める者によって同委員会を構成することが決定されました。</p>	
	<p>(研究内容・成果の発信・公表)</p> <p>1214 引き続き、厳格な研究評価の実施等を通じて、最も質の高い研究を掲載する国際的な学術誌への論文投稿や国際学会への参加を奨励します。</p> <p>1215 引き続き、研究内容や研究成果について、ウェブサイトにおける発表、記者公表、記者会見、OIST 便り（電子メールニュースレター）、パンフレット、テレビ番組や OIST ソーシャル・メディア等を活用して、国内外への分かりやすい情報発信に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 平成 26 年度から作業を進めている本学ウェブサイトのレスポンス・デザインへの移行を完了させ、モバイル端末ユーザーに向けた利便性を向上させます。本学のウェブサイトを最大限活用するとともに、引き続きコンテンツの大部分を日英両言語で提供するよう努めます。 - 県内外のプレスによる視察の機会や説明会等を設けるなど積極的なメディア戦略を実施します。 - 本学の研究内容や研究成果を、地域・国内・海外メディアに対して Alpha Galileo や Eureka! Alert 等の電子情報センターや国内の記者クラブを介して発信します。 - メディアにおける本学の存在感を高めるため、ジャーナリストや他大学のプレス担当者とグローバルなネットワークを築き維持します。 - サイエンス・ライターのスキルを効果的に高めるため、他大学と共同でプロフェッショナル・コースを 	<p>(研究内容・成果の発信・公表)</p> <p>1214 OIST の研究ユニットは、国際的な影響力を持つ論文審査のある専門誌に論文を発表し続けており、OIST という名前は広く知られるようになりました。平成 27 年度、OIST は 285 個の論文を発表しました。その多くはすでに複数回引用されています（OIST が発表した論文の 10% 以上が、掲載後わずか数ヶ月で、5 回以上引用されました。中には 20 回以上引用された論文もあります）。</p> <p>添付資料 #1.2-1 平成 27 年度 OIST 論文・発表数</p> <p>1215 平成 27 年度は、OIST 研究成果に関する国内外への情報発信の一環として、日英両言語で 41 のウェブ記事を本学ウェブサイトに掲載、10 件のプレスリリースを発表、そして 7 つの記者会見および記者懇談会を東京と沖縄において開催するとともに、計 15 回にわたって在京の新聞社・雑誌社・テレビ局を訪問して OIST の研究内容や研究成果について報道機関にアピールしたり、地元記者を対象とした月例会議を開催しました。一方で、国内外および地元報道機関による OIST 訪問を多数受け入れたほか、毎月の電子版ニュースレターおよびパンフレットを日英両言語で発行しました。これらの活動は OIST のソーシャル・メディアを活用して国内外への情報発信に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - OIST ウェブサイトのレスポンス・デザインへの移行を完了させたことで、モバイル端末ユーザーに向けた利便性を向上させるとともに、引き続きコンテンツの大部分を日英両言語で提供することに成功しました。 - 3 つの記者会見（東京 1 回、県内 2 回）および 4 つの記者懇談会（東京 3 回、県内 1 回）を開催しました。記者会見では報道解禁つきで最新の研究成果を研究者自らが発表したほか、記者懇談会ではある特定の研究テーマに沿って研究ユニットを主宰する教授が詳細に説明することで、記者との関係構築をはかるとともに、将来記者がその分野に 	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>1.2 研究活動に関する事項 取組</p> <p>定期的に提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 基本パンフレットのデザインの見直しを行い、配布先を選び適切なタイミングで配布します。 - 拡大しているソーシャル・メディアをコミュニケーションの場として活用します。 <p>1216 他機関との会議をより多く持てるように、職員、教員、及び学生に対して充実した技術支援を提供します。</p>		<p>ついて報道する際に OIST の研究を取り上げて貰えるような「種まき」をしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 本学の研究内容や研究成果を、Alpha Galileo や Eureka!Alert というニュース配信サイトに掲載するとともに、国内の記者クラブを通じて配信し、その結果、海外メディアによる 800 以上の報道数、国内および地元メディア（新聞・テレビ）による 120 以上の報道数につながりました。 - メディア向けのタイムリーな情報発信や、メディア・セクション・リーダーの科学技術広報研究会（JACST）における国際広報担当副会長の責務を通して、国内のジャーナリストや機関広報担当者との関係強化に成功し、OIST の存在感強化につながりました。 - 本学で平成 27 年 8 月に開催した国際科学広報に関する 2 日間のサマーコースには全国から広報担当者が集まり、実践形式の勉強会を行ったほか、12 月にはメディア・セクション・リーダーが理研（和光キャンパス）と共同でソーシャル・メディアを活用した国際広報に関するシンポジウムを開催しました。また、平成 28 年にはメディア・セクション・リーダーが JACST メンバーを先導して全米科学技術振興協会（AAAS）の年次会合で合同ブース展示を企画・運営し、国内外の科学界における OIST の認知度向上に寄与しました。 - OIST パンフレットのデザインを刷新するとともに、パンフレットと教員小冊子の内容を更新しました。 - 地域連携セクションおよび研究科オフィスとの連携のもと、OIST ソーシャル・メディアを活用して学内の研究内容や研究成果、教育活動にかかわるイベントなどコンテンツを充実させ、国内外に向けて情報発信しました。 <p>1216 OIST ファカルティ、職員、学生が会議施設の AV システムを円滑に使用できるようサポートを提供しました。具体的には各種トレーニング資料やドキュメントを内部向け web サイトに掲載し、それぞれの会議施設に簡単に読むことができるヒント集を設置しました。トンネルギャラリーやキャンパス各所に設置されたデジタルサイネ</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
1.2 研究活動に関する事項 取組	<p>(研究評価の実施)</p> <p>1217 引き続き、研究評価については、世界の著名な科学者等からなる外部の評価委員会が、世界的に最も高いレベルの基準に基づく評価を行います。研究の成果、独自性、今後の可能性やその他の要素について、公平性と透明性の確保を重視した基準により、厳格な評価を実施し、教員の昇進や任用継続の判断等に活用します。(平成 27 年度に評価を予定する研究ユニット数： 8 ユニット)</p> <p>1218 引き続き、評価結果については、研究事業に投じられた公費について国民に対する説明責任を果たす観点から、その概要をできるだけ速やかに公表します。</p>	<p>ージのシステムを中央でコントロールできるように一元化し、コンテンツ管理を省力化しました。また IT 部門との協力により、統一化されたテレビ会議システムを導入し、学内 44 カ所に設置された専用テレビ会議システムをパソコンやスマートフォンと統合的に運用できるようにするとともに、会議予約システムと連動した講習会を 4 回にわたって職員・学生向けに実施しました。</p> <p>・ 研究に関する受賞数</p> <p>・ 研究評価を実施した研究ユニット数</p> <p>(研究評価の実施)</p> <p>1217 各研究分野の国際的な専門家で構成される外部の評価委員会により、5 つの研究ユニットの研究評価が行われました。全ての研究ユニットに対して、研究資金の継続が強く推奨されました。そのうち 1 ユニットは、「最優秀(世界中の同僚の中で上位 5%)」、残りの 4 ユニットは「優秀(世界中の同僚の中で上位 10%)」と判断されました。2 ユニットのプログラムの一部は、優位性が高くないと判断されました。6 名の教員のテニュア付与評価が行われ、3 名のテニュア付与と、1 名の准教授への昇進が決定し、理事会で承認されました。</p> <p>1218 研究ユニット評価とテニュア付与評価の結果については、公表する準備ができました。</p> <p>添付資料 #1.2-2 平成 27 年度研究に関する受賞実績 添付資料 #1.2-3 平成 27 年度アウトリーチ活動実績</p>	
1.3 教員募集 目標	<p>近年の採用活動に引き続き、他のトップクラスの大学と競合し、最も優秀な教員の獲得に成功しています。大学の拡充に伴い、日本及び海外の科学者の採用活動を継続します。</p> <p>その中には、優れた学際的な研究実績を持つ上級レベルの研究者と、学際性の高い優秀な研究実績を蓄積しつつある若手研究員の両方が含まれます。日本人と外国人の教員をバランスよく採用していきます。</p>		A
1.3 教員募集 取組	<p>131 「枠組み文書Ⅱ」を踏まえた大学の拡充のため、研究分野の強化・拡大に向けた教員のサーチを行います。平成 27 年度には、ユニット数 55 に向け、特に生物学、コ</p>	<p>131 昨年度の教員採用の結果、本年度 OIST が迎えた教員は、生物学の分野で長年優れた実績を誇る楠見先生、そして水中イソギンチャクの遺伝子変化を専門とする海洋科</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>ンピューターサイエンス、海洋科学、物理学の分野において、少なくとも 7 名の教員獲得（退職者の補充を含む）を目指します。</p> <p>132 第 3 研究棟や他の場所に、教員の研究活動に合うスペースを提供し、新規採用の教員の円滑な着任を図ります。これは第 3 研究棟に一定の予備スペースを保持すること及び他の研究棟において教員が退職した際のスペースを戦略的に割り当てることで達成します。</p>		<p>学の分野の渡邊先生です。しかしコンピューターサイエンスと医学物理の分野では、適切な候補者を見出すことができませんでした。そこで本年度の教員採用活動では、OIST で幅広く活躍できる教員を、分野を絞らずに公募することにしました。その結果、応募者 853 名という驚異的な数の応募がありました。応募書類の審査には長い時間がかかりましたが、神経科学、物理学、生物学、化学、エコロジー、コンピューターサイエンスなど様々な分野で、これまで約 40 名の候補者を面接しました。ただ Marine Science Center（海洋科学センター）を率いる経験豊富な人材は採用できておらず、この分野については、分野を絞って採用活動を開始しました。優れた若手教員の採用は、計画通りに進んでおり、来年度には教員数が大幅に増加する予定です（約 60 名）。</p> <p>132 第 3 研究棟レベル C における海洋科学研究センターの整備に伴うフィットアウトを平成 27 年度に進め、現在、80%ほどのスペースが使用されています。新規の研究ユニット及び既存ユニットのリロケーションのために、レベル A を研究室として使用するためのフィットアウト工事を平成 27 年度中に完了しました。</p>	
<p>1.4 世界的連携目標</p>			<p>A+</p>
<p>1.4 世界的連携取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学や研究機関等との連携協定の数 ・ 国際ワークショップ及びコースの数 ・ 国際ワークショップ及びコースの参加者数 	<p>141 RA 協議会の設立に創設機関会員メンバーとして参加しました。また第 1 回の年次大会（信州大学）に参加し、「大学のグローバル化」に関するセッションを主催しました。セッションは広島大学、APU 立命館大学との共催で行いました。</p> <p>日本の先端バイオイメージング支援プラットフォームの一員として、生物を研究対象とするイメージングのトレーニングや技術支援のための、EuroBioimaging との国際連携に関する相談に参加しています。</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>1.4 世界的連携 取組</p> <p>142 優れた学生や若手研究者等が、最先端の科学を学ぶとともに、相互に交流する機会を拡大するため、引き続き、国際性に富んだ世界的にもトップレベルの国際コース又は国際ワークショップを開催します。また、世界規模の国際ワークショップを本学に招致し、本学の研究者や学生が他の研究者とネットワークを構築する機会を拡大します。新たに着任した教員の要望に応じ、平成 27 年度におけるイベント数は増加する見込みです。ワークショップや会議の数は増加しますが、広報ディビジョンにおいて、参加者に対する旅費支援の低減、他の機関からの資金援助や、宿泊の手続きを更に効率化し、各ワークショップに係る経費を減らすよう努めます。</p> <p>143 引き続き、物理学、細胞生物学、神経科学等の分野において、国内外のトップレベルの学部学生等を対象とした滞在型の研究室体験コースを開催します。</p>	<p>・国内外の大学より受け入れた学生数</p>	<p>平成 28 年 3 月半ば現在の共同研究契約等 新規の共同研究契約： 21 件 継続や変更を行った共同研究契約： 30 件 有体物移転契約： 74 件</p> <p>添付資料#1.4-1 学術交流協定一覧</p> <p>142 コンファレンス・ワークショップ・コミッティによる厳格な審査を経て認められた世界トップレベルの水準を保つ 9 件の OIST ワークショップと 8 件のミニシンポジウムを開催し、計 740 名が参加しました。さらに世界的に著名な研究機関との共催により 4 件のジョイントファンデッドワークショップを開催し 454 名が参加しました。コンピュータ科学分野における優秀なファカルティ募集戦略の一貫として広報担当准副学長は教員担当学監およびフリード教授と共同で国際会議「Pacific Graphics」の OIST での開催誘致に成功し、平成 28 年 10 月 11～14 日に実施予定です。 ワークショップの運営サポート業務円滑化と省力化のためにワークフローの分析とベンチマークを行い、クラウド型データベースの平成 28 年度導入の準備を開始しました。東京の有楽町朝日ホールで 3 月 10 日に「OIST フォーラム 2016: 日本の未来をどう築く – イノベーションをもたらす科学とは？」を開催し、400 名ほどの参加がありました。フォーラム告知記事がネイチャー日本語版と朝日新聞東京本社版に、また開催報告の全面記事が朝日新聞東京本社版に掲載されました。</p> <p>添付資料#1.4-2 平成 27 年度 OIST 主催によるワークショップ・ミニシンポジウム</p> <p>143 今年度は、24 名（ハーバード大学、スタンフォード大学、東京大学から 8 名ずつ）の学部学生を受け入れ、物理学と神経科学の教員やチューターからのアイデアを融合した学際的な滞在型コースを 1 週間開催しました。同時</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
1.4 世界的連携取組	<p>144 短期・長期の学生受入制度を継続し、引き続き、国内外の他大学から学生を受け入れ、研究ユニットにおいて実践的なトレーニングを提供します。</p>	<p>に、実績のある従来のリサーチ・インターン・プログラムも実施し、従来にも増して、優秀な日本人学生を獲得しました（144 参照）。研究室体験コースには、北海道大学から 4 名の学生を受け入れました。</p> <p>144 インターン：平成 26 学年度（平成 26 年 9 月～平成 27 年 8 月）のインターン生として、平成 27 年 4 月から 34 名の学生を受け入れ、平成 27 学年度（平成 27 年 9 月～平成 28 年 8 月）のインターン生として、これまでに 35 名の学生を受け入れたため、平成 27 事業年度に受け入れたインターン生の合計は 69 名となります（平成 26 学年度に受け入れたインターン生のうち、平成 27 事業年度が始まる前までに受け入れ、年度開始後も在籍していた学生は含まれていません）（内日本人 14 名）。</p>	
第 2 章 ガバナンス及び業務運営の透明性・効率性に関する事項			
2.1 ガバナンス及び業務運営体制 目標 (1)	<p>学園では、国内法人の伝統的な在り方とは異なり、学園法及び学園の寄附行為に基づき、学外理事を中心として理事会を構成しています。このような理事会は、学園及び大学院大学の業務運営に関し、最終的な責任を負います。また、評議員会は、地域社会の声を含め、幅広い意見を学園及び大学院大学の業務運営に反映させます。これらの二つの合議体が、法令及び学園の寄附行為に基づき、学園における透明で効果的なガバナンスを確保するために重要な役割を担います。これに対し、理事長・学長は、事業計画の実施についてリーダーシップを発揮し、理事会及び評議員会に対し説明責任を果たします。</p> <p>このように、理事会及び評議員会と理事長・学長との間の関係を適切に保つことによって、特色あるガバナンスを実現します。また、学園の監事は業務運営の適切性・効率性が確保されるよう厳格な監査を行います。</p>		A
2.1 ガバナンス及び業務運営体	<p>（基本的な運営） 2101 平成 27 年は法人が設立されて以来 4 年目にあたります。理事会、評議員会とも 3 年任期のメンバーが更</p>	<p>（基本的な運営） 2101 理事会は 5 月と 10 月に OIST にて会議を開催し（各回とも、2 日間の本会議及び前日の運営委員会会議を実</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>制 取組 (1)</p> <p>新されました。定例の理事会を 5 月、9 月、2 月に、定例の評議員会を 5 月及び 2 月に開催します。5 月の理事会においては、平成 26 年度の業務の実績を報告し、評価を行います。評価の結果は公開情報として内閣府へ報告されます。</p> <p>2102 理事会及び評議員会は、その機能を十分に発揮するために委員会（分科会）を設置しました。分科会の活動について、十分な事務的サポートを行います（理事会の分科会には、運営委員会、事業・財務委員会、研究・学務委員会、監査・コンプライアンス委員会、地域連携に関する特別委員会、将来拡充計画に関する委員会があり、評議員会においては、大学運営分科会、予算・会計分科会、学術・研究分科会及び沖縄の自立的発展分科会が設置されています）。なお、理事会及び評議員会の審議は、引き続き、ウェブ・電話会議システムを活用し、効率化を図るとともに、遠隔地の理事・評議員の積極的な参加を促します。</p> <p>2103 理事長・学長は、引き続き、学園及び大学院大学の日常的な業務運営の全ての面でリーダーシップを発揮し、事業計画を着実に実施します。</p> <p>2104 監事は、引き続き、事前に作成する監査計画に基づき、内部監査や会計監査とも連携しつつ、予算執行、調達・入札、法令順守の状況を始め、業務全般について厳格な定期監査を実施するとともに、必要に応じて、臨時的監査を行います。監事は、引き続き、適切な形で中立性を維持しつつ、担当副学長を通じて、他の役員や幹部職員との効果的なコミュニケーションを図ります。監事には、その活動に必要な十分な情報及び人的サポートが提供されます。監査結果については、理事会での報告等を通じて、その後の業務運営に反映します。</p>		<p>施)、2月に電話会議を開催しました。評議員会は5月に2日間の会議（内1日はBOGと合同）をOISTにて開催し、2月に電話会議を開催しました。理事会及び評議員会は、5月の会議に先立って2014年度事業報告書を確認し、報告書は理事会の承認を経て内閣府に提出され、公開されました。</p> <p>2102 分科会は必要に応じて会議を開催しました。ウェブを利用した会議システムが強化され、システムに馴染みのないメンバーのためには事前に会議のテストセッションも設けられました。こうしたシステムの改善は、都合により現地で会議に出席することが出来ない理事及び評議員の出席率の向上に貢献しました。</p> <p>2103 理事長・学長及び臨時理事長・学長代理は共に、学園及び大学の日々の運営のあらゆる側面において強力なリーダーシップを効果的に発揮しました。事業計画は運営の指針として積極的に活用されました。</p> <p>2104 平成 27 年度の本学の業務運営の状況について、平成 27 年 9 月、平成 28 年 1 月及び 3 月の 3 回の定期監査を実施しました。毎回の定期監査の実施結果については、報告書を作成し、学長等に説明を行うとともに、関係する各副学長にも伝達し、業務運営の改善を促しました。平成 27 年度を通じての監事の監査報告は、平成 28 年 5 月に開催される BOG 及び BOC に提出を予定しています。また、監事は、定期監査の活動以外に、アドミニストレイティブ・コンプライアンス担当副学長との定例ミーティングを通じて、また、必要に応じて学長、プロボースト及び各副学長から業務運営の状況を聴取し、本学の運営状況について把握に努めています。</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>2.1 ガバナンス及び業務運営体制 取組 (1)</p>	<p>(大学院大学の拡充に向けて)</p> <p>2105 広範囲、詳細にわたる本学の将来計画である「枠組み文書Ⅱ」は理事会によって採択されました。このような将来ビジョンを策定したことに対して内閣府の支持を得ることができました。</p> <p>また、平成 26 年度には基本構想（サイト・マスタープラン）の委託が決定、完了しました。この新たなサイト・マスタープランもまた大学の将来拡充における指針となり、理事会の将来拡充計画に関する特別委員会が引き続き先導して行きます。</p> <p>2106 本学のこれまでの成果を客観的に評価するピア・レビューを実施します。本学が、沖縄の持続可能な発展をもたらすことのできる世界最高水準の教育研究機関になることができるかどうかの評価基準となります。</p>	<p>(大学院大学の拡充に向けて)</p> <p>2105 「枠組み文書Ⅱ」及び「マスター・プラン」を軸として大学の拡充に向けた積極的な努力が続けられました。主な取り組みとして、広範囲に渡る教員サーチと第 4 研究棟の設計があげられます。</p> <p>2106 2015 年 7 月 27～29 日に OIST で外部評価が実施されました。外部評価委員会は 3 名の元大学学長と 1 名のノーベル賞受賞者を含む計 6 名の世界的に著名な科学者で構成されました。広範囲にわたる資料が専用のウェブサイト上で事前に提供されていたため、委員会メンバーは OIST について十分な情報を得たうえで実際の評価を行うことができました。このため、OIST での滞在期間中は理事会メンバーや教員、幹部、研究員、スタッフ、学生との詳細な面談を通じて事前に得た情報の確認に多くの時間を費やすことができました。評価プロセスと評価結果は 120 ページにわたる報告書に記載され、7 月 30 日に理事会議長、副議長及び学長らが内閣府を訪問し、報告書の原稿が手交されました。その 1 週間後に日英両言語による正式な報告書が内閣府に提出され、一般公開されました。また、ウェブサイト上で提供された全資料の印刷版も内閣府に提出されました。</p> <p>外部評価委員会は、全ての項目において優れた成果が上げられていると評価しました。報告書の要旨では次のように記されています：「外部評価委員会は、卓越性を測る全ての主要な基準において傑出した成果が見られると評価する。こうした基準に照らすと、OIST は、2014-2015 年の「The Times Higher Education」又は「Academic Ranking of World Universities（世界大学学術ランキング）」で最も高い評価を受けているトップ 25 大学と肩を並べている。・・・このような強固な基盤が構築されており、外部評価委員会は、枠</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>2.1 ガバナンス及び業務運営体制 目標 (2)</p>	<p>引き続き、世界水準の国際的な大学院大学の効果的な運営に相応しい事務組織の構築に努めます。また、予算執行及び業務運営について国への説明責任を果たすために、内閣府と密接なコミュニケーションを図ります。</p>	<p>組み文書II (2014 年7 月) で説明されている OIST の将来の発展に向けた計画を支持する。」</p>	<p>A</p>
<p>2.1 ガバナンス及び業務運営体制 取組 (2)</p>	<p>2107 引き続き、理事長・学長、副理事長・プロボースト、副学長、教授会議長等による定期的な会合(日常的、週次、月次)を開催し、情報共有を促進するとともに業務運営の状況を確認します。また、必要に応じてオールハズ・ミーティング(全員会議)を行います。大学の幹部と教授会による会議を引き続き隔月毎に開催し、上層幹部と教授間の情報の流れを改善していきます。</p> <p>2108 政府機関との連絡調整を担当する副学長の下、内閣府と密接なコミュニケーションを確保していきます。四半期毎に開催される定例協議会を通じて、内閣府と連絡調整を行い、事業計画の実施状況等について報告を行います。また、平成 28 年度事業構想及びこれに続く概算要求に係る打合せを前広かつ綿密に行います。</p> <p>2109 文科省が認証を行う評価機関による大学認証評価に向け、自己評価書等の作成に必要な準備を進めます。</p> <p>2110 人事・財務管理のための中核的ツールとして新 ERP(統合業務システム)を導入し、運用を開始します。今回のシステムの変更は、本学の博士課程プログラム開設以来、運営管理における最も重要な変化となります。リサーチ・サポート・ディビジョンのサイエンティフィッ</p>	<p>2107 エグゼクティブ及び教員代表が出席する週 1 回、2 時間の定例会議を、引き続き水曜日午後開催しました。この会議は議題に沿った議論が行われ、議事録が作成・配布されています。また、学長とエグゼクティブによる個別会議も毎週開催されました。更に、エグゼクティブは報酬検討委員会のメンバーとして、公正な給与・報酬及び関連方針の策定と維持に努めました。そのような取り組みに於いて、同委員会は年次の業績評価プログラムや関連するサラリー・プログラムのガイドライン、基準及び範囲を決定します。エグゼクティブはまた、隔月でフォーラムを開催して全教員との情報交換を促す取り組みを継続しました。</p> <p>2108 4 月、8 月、11 月及び 1 月の定例協議会及び必要に応じた個別会議を通じて、内閣府との密接なコミュニケーションを維持しつつ、平成 27 年度事業計画の実施状況、平成 28 年事業構想、平成 28 年度概算要求及び平成 28 年度事業計画策定等について適時適切に情報共有しました。</p> <p>2109 平成 30 年度の受審に向けて、認証評価機関を選定するとともに、作業スケジュールの策定、自己評価書及び調査書等所定様式の英語版の作成、評価基準項目ごとの執筆分担表の作成など必要な準備を進めました。</p> <p>2110 平成 26 年度のビジネスモデルまたは仕様書の草案を参考に平成 27 年度は、Heart(HR Education Accounting and Research Transformation) システムの旅費申請、購入依頼、または予算参照の機能が平成 28 年 1 月(フェーズ 1)にリリースされました。 部署発注、精算、またはコア会計の機能は平成 28 年 4 月 1 日(フェーズ 2)にリリースされま</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>2.1 ガバナンス及び業務運営体制 取組 (2)</p> <p>ク・コンピューティング・データ分析セクションを通じて提供される本学の情報技術 (IT) サービスは、大学の運営と研究の双方にわたっています。幅広い分野でのサービスの向上を進めており、その中にはプロセスやインフラの改善も含まれています。</p> <p>2111 本学の目的及び事業計画に沿った優れた品質の IT サービスを提供します。特に、新人研修、アカウントの開設や承認権限の変更を自動化・効率化するなど、研究及び教育の生産性を左右するような支援活動を確実に実施します。</p> <p>2112 ユーザーが IT リソース及びサービスを活用できるよう、文書及び教育プログラムを明確化・簡潔化します。</p> <p>2113 本学の活動を支える基盤を特定、評価、設計、配置、保持し、本学の拡充に対して着実に対応できるようにします。</p> <p>2114 ローカル及びグローバルで行われている IT 関連の新しい取組の中核に本学を位置付け、研究及び運営管理</p>		<p>した。</p> <p>これらの実装により、ビジネスプロセスや管理方法が大きく変化しました。財務担当副学長や財務チームの多大なるサポートにより、できる限り標準システムをそのまま利用し、カスタマイズを最小限に抑えることにより、スケジュール通りに実行に移すことができました。</p> <p>2111 & 2112 平成 27 年度に新たなイニシアチブを立ち上げ、IT セクションは本学の全職員、または全研究員をサポートするようにベストを尽くしています。平成 28 年度に本学の全員が使用するメールシステムを Office365 に移行できました。また、研究員がファイルを共有・ネットワークと同期・バックアップするために Dropbox システムも導入できました。重要な研究機器を守るために、カスタムなネットワーク環境も開発しています。現在 Windows 10 へ移行している最中で、平成 28 年度に完成する予定です。これらのイニシアチブを実行した際に教育・トレーニングに関する書類を配布し、アナウンスも行う予定です。</p> <p>本学が成長するにつれて、身元管理がストレスポイントとなっています。平成 26 年度に学内ソリューションが開発され平成 27 年度に職員、研究員が入職後にスムーズに登録できるようなシステムを導入しました。平成 28 年度には、このシステムを自らパスワードをリセットできるように向上する予定です。</p> <p>また、従来の e ラーニングや研修管理システムのパフォーマンスの低さが懸念点となっているため、平成 28 年度には、これらのシステム向上を検討します。</p> <p>2113 科学計算及びデータ解析セクションは、平成 27 年度に技術の進歩を受け入れ、平成 28 年度にはコンテナリゼーションやオブジェクトデータストアが含まれた新しい技術を身に付ける予定です。</p> <p>2114 平成 27 年度に、本学がインフラや戦略的なイニシアチブに参加し、沖縄においてもグローバルにおいても、</p>	

平成 27 年度事業計画		指標	平成 27 年度業績	自己評価
2.1 ガバナンス及び業務運営体制 取組 (2)	の促進・支援を強化することで、沖縄の発展に一層貢献していきます。		帯域幅を大きくかつ冗長を強化させるようにネットワークやインターネット接続を向上しました。平成 28 年度には Openstack Cloud イニシアチブとの連携も強化し、Openstack を本格的に実行する予定です。	
2.2 予算配分と執行 目標	国からの補助金を始めとする予算の執行について、国やその他の資金提供者、更には国民に対する説明責任を果たすため、引き続き、適正かつ効果的な予算の配分及び執行を実現する手続や体制を活用します。特に一般管理費については、効率的な予算の執行により抑制を図ります。			A
2.2 予算配分と執行 取組	<p>2201 引き続き、予算配分・執行の単位となる予算単位を組織構成と整合性のとれた形で設定し、本事業計画の実施に必要な予算を各予算単位に配分します。</p> <p>2202 引き続き、各部署に配置された予算を分析する担当者との連携により、予算配分・執行状況報告のプロセスを強化します。また、施設整備費補助金を含む学園全体の予算の適切かつ一体的な管理を確保するため、毎月、予算の執行状況について確認するための内部会議において理事長・学長に報告を行います。さらに、内閣府に対しても、毎月、予算執行状況を報告します。</p> <p>2203 研究計画の制度を拡充します。全教員に対し、各自の研究目的、研究テーマの適切な概要、及び必要なリソースの要請について記載された研究計画を作成するよう求めます。リソースの中には、人件費、運営費、その他機器や設備等が含まれます。本計画がカバーする研究期間は 5 年間です。 外部評価（ピア・レビュー）の結果も考慮し、適切な予算配分を決定します。 9 月に配分の中間見直しが、そして第 4 四半期の初めにあたる 1 月にも別途見直しが実施されます。これらは、全ての研究関連予算の収支均衡を確認する節目となります。このような費用の綿密な見直しにより支出を最適に調整します。また、配分の中間見直しを実施することで、調達した固定資産の配達・受取りが年度内になされるよう手</p>		<p>2201 引き続き、予算配分・執行の単位となる予算単位を組織構成と整合性のとれた形で設定し、本事業計画の実施に必要な予算を各予算単位に配分しました。</p> <p>2202 各部署に配置された予算を分析する担当者と連携し、作業時期の前倒しなど、予算配分・執行状況報告のプロセスを強化しました。また、施設整備費補助金を含め、適切かつ一体的な予算管理を確保するため、毎月、予算の執行状況について確認するための内部会議において理事長・学長に報告を行いました。さらに、内閣府に対しても、毎月、予算執行状況を報告しました。</p> <p>2203 予定通り、期中に 2 の全体的な予算配分の見直しを行い、外部評価（ピア・レビュー）の結果や固定資産の納品・検収を考慮に入れた、適切な予算配分を行いました。</p> <p>2203 科研費プロジェクトの執行、報告および監査への対応は問題なく適切に行われました。</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>2.2 予算配分と執行 取組</p> <p>配されているかを確認する機会にもなります。 科研費等の競争的資金等については、引き続き、研究担当ディーンの下で、会計担当部署とも連携しつつ、それぞれの資金のルールに則った適切な管理を行います。</p> <p>2204 一定額を超える個々の支出について、コンプライアンスを担当する副学長が審査すること等を含め、引き続き、法令や内部規則等を順守して予算執行の手続きを行います。</p> <p>2205 適切な契約・調達及び会計事務を行うため、コンプライアンスを担当する副学長の下で内部監査を実施するとともに、国の機関等が行う研修への継続的な参加等を通じて、担当職員の育成に努めます。</p> <p>2206 入札・契約に関して適正な実施を確保するため、外部有識者による委員会において、学園が締結した契約の点検・見直し等について審議を行います。また、大型研究設備・機器の購入に当たっては、内部規則に基づき、その都度、外部の有識者を含めた委員会を設置し、同委員会により仕様書の審査を行う等、公正かつ透明な調達の実施に万全を期します。</p> <p>2207 コモンリソース諮問委員会は解散しましたが、セクション・リーダーや教授らにより新たに構成されたグループが共用・共有機器の提案、効率的予算利用を検討します。</p> <p>2208 大規模かつ先端的な教育研究機器の導入について、リース契約を活用し、適切に管理します。リース契約の期間は 4 年以内とします（なお、平成 27 年度の新たなリ</p>		<p>2204 一定額を超える随意契約について、その内容がほぼ類型化してきたので、500 万円未満の購入案件はコンプライアンス・セクション・リーダーが、500 万円を超える案件はさらにアドミニストレイティブ・コンプライアンス担当副学長及び同准副学長がその適切性を審査しました。随意契約の上限額について、調達方法の効率化とリスク管理の観点から、昨年度と同額の 500 万円とし、契約金額の削減、契約手続きの軽減等を図りました。</p> <p>2205 適切な契約・調達及び会計事務を行うため、コンプライアンスを担当する副学長の下で内部監査計画に基づき内部監査を実施しました。財務省会計センターが開催している政府関係法人会計事務職員研修や九州地区国立学校会計事務研修に会計職員を参加させ、担当職員の育成に努めました。</p> <p>2206 入札・契約に関して適正な実施を確保するため、外部有識者で構成される契約監視委員会を 2 回開催し、学園が締結した契約の点検・見直しについて審議を行い、その助言に基づき、調達の手続きを改善しました。大型研究設備・機器の調達に関する仕様策定および技術審査委員会は、8 回開催されました。</p> <p>2207 各セクション・リーダーと協力して助言や指導を行う教員を配置し、効率的な予算利用に繋がるよう、新規の共用・共通機器の提案に関する優先順位付けを行い翌年度の予算要求に反映させました。</p> <p>2208 昨年度までに契約された既存のリース契約 15 件については、適切な管理および会計処理に努めました（今年</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
2.2 予算配分と執行 取組	リース契約については、今後、調達に際し、対象機器の費用対効果等の観点から検討することとします。	度の新規のリース契約の実績はありませんでした。	
2.3 事務事業の効率化 目標 (1)	業務運営における効率化を図るための取組を継続して行います。		A
2.3 事務事業の効率化 取組 (1)	<p>2301 引き続き、研究設備・機器の共用・共有化の推進（1.2参照）や、研究資材や試薬等の単価契約や一括購入等の取組を継続することにより、研究事業を効率的に支援します。</p> <p>2302 通常の購入はもとより、特に研究資材や試薬は価格交渉を行い、コストの抑制を図ります。</p> <p>2303 研究機器の保守費修繕費は、メーカーごとの保守契約の統合化、保守内容の見直し及び価格交渉を行い、コストの抑制を図ります。</p> <p>2304 研究事業を効果的・効率的に支援するため、学内の研究資材ストアを拡充しサービス向上と利用拡大を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単価契約や一括購入による経費の削減 ・学内の研究資材ストアの利用数の増加 ・競争入札や他の競争的な手法による契約の比率（件数及び金額） <p>2301 研究機器の保守契約管理を共通支援部門に集約し、一括契約および共通部品の一括購入等を促進しました。</p> <p>2302 単価契約および一括購入による経費削減に取り組みました。 単価契約件数： 46 件</p> <p>2303 研究機器の保守契約について、メーカーごとの保守契約の統合化、保守内容の見直し及び価格交渉を行い、コストの抑制を図りました。保守契約において、契約先が一つに限られるものは、調達審査委員会の決定を経て随意契約を行うことにより効率化を図りました。</p> <p>2304 研究事業を効果的・効率的に支援するため、学内の研究資材ストアの取扱品目を拡充し、サービス向上と利用拡大を図りました。 810 品目（平成 26 年度）から 1,186 品目へ増加</p> <p>学内研究資材ストアの利用の増加 調達金額： 52,968,645 円 （平成 26 年度比 28%増加） 利用者数： 3,667 人 （平成 26 年度利用者 1,915 人、91%増加）</p> <p>また、外部委託による文具ストアの運用を開始しました。 文具ストアの利用の増加 調達金額： 13,966,293 円</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己 評価
<p>2.3 事務事業の効 率化 取組 (1)</p> <p>2305 本学の契約は、十分な透明性や競争性の確保を原則とし、随意契約によらざるを得ない場合には、その理由を含め公表する等、契約に関する情報公開を徹底します。同時に、調達に関する規則等について、効率化や手続の簡素化の観点から、定期的に見直しを行います。前年度に導入された新たな随意契約手続きについて、適切にモニターを実施します。</p>		<p>(平成 26 年度比 9.9%増加) 利用者数: 5,288 人 (平成 26 年度利用者 4,593 人、15%増加)</p> <p>2305 入札・契約を適正かつ効率的に執行するため、外部有識者を含む委員会を設置し、学園が締結した契約の事後的な点検・見直しを行いました。今年度は第 8 回(平成 27 年 7 月 21 日)及び第 9 回(平成 28 年 1 月 22 日)の 2 回にわたり開催しました。前回までに委員より寄せられた意見や提言について、契約事務手続きに反映された点、継続して取り組まれている事項について報告を行いました。内部の委員による調達審査委員会を開催し、57 件の契約の点検を行いました。</p> <p>調達価格が 50 百万円を超える大型研究機器の購入については、案件毎に、外部有識者を含めた仕様策定委員会および技術審査委員会を設置し、入札およびその準備手続きにおける公平性・透明性が確保されるよう努めました。</p> <p>委員会の開催件数：8 件 一定額以上を支出する契約(工事 250 万円、物品 160 万円、役務 100 万円、リース 80 万円)について、当該契約に関する情報公開を適切に行いました。</p> <p>随意契約の手続きについては、適正な審査を担保しつつ、仕様書の作成方法を見直すことにより契約手続きを簡素化し、契約業務の効率化を図りました。また、随意契約によることができる場合の運用ルールについて検討しました。</p> <p>納品検収の状況を記録する納品検収システムの運用を開始し、検収手続きの厳格化を図りました。</p> <p>コンプライアンスの厳格な確保、業務効率化および他規則との整合性を保つ観点から、基本方針・ルール・手続き 28 章の見直しを定期的に行いました。</p> <p>保険契約の見直しを行いました。火災保険は対象となる建物が増加しましたが、レートは維持しました。</p> <p>他の研究施設と情報交換を行い、調達職員の知識・スキル、コンプライアンスの向上を目的とする交流を実施しまし</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>2.3 事務事業の効率化 取組 (1)</p>	<p>2306 内外価格差の是正に向け、海外からの直接購入の促進に向けた調査を行います。</p> <p>2307 調達コストの抑制を図るため、研究資材や機器等の国内外の価格比較データを取りまとめ、メーカー、代理店、業者との価格交渉に活用します。円安による価格上昇への対応を行います。</p>	<p>た（琉球大学、理化学研究所、九州大学、立命館アジア太平洋大学、米軍嘉手納基地等）。</p> <p>2306、2307 昨年度に引き続き研究資材や機器の国内外価格比較データを取りまとめ、契約金額の交渉に活用しました。</p> <p>比較データ追加：400 件 * 大型機器や試薬を含む比較データは、全体で 555 件（昨年まで 155 件+追加 400 件） また、集められたデータを活用して交渉を行い、年末の円安傾向による定価上昇を抑制する効果を上げています。</p> <p>入札および他の競争的手続きによって締結された購入契約の割合（契約の件数と金額） 契約件数：195 件（26.8%）[平成 26 年度 203 件(30.9%)] 契約金額：5,250 百万円（66.9%）[平成 26 年度 7,563 百万円(77.1%)]</p>	
<p>2.3 事務事業の効率化 目標 (2)</p>	<p>学園の施設・設備を最大限有効に活用します。</p>		A
<p>2.3 事務事業の効率化 取組 (2)</p>	<p>2311 講堂や他の施設の管理及びモニタリングを行い、引き続き、外部利用の促進を図ります。</p>	<p>2311 R&D クラスターホール完成に伴い、隣接する講堂と合わせて「カンファレンス・センター」としての学内および学外向け一体運用を開始しました。平成 27 年には 16 件の外部イベントがカンファレンス・センターで開催されました。</p>	
<p>2.4 人事管理 目標</p>	<p>国際的に競争力のある処遇や教育訓練の機会を提供することにより、大学院大学の目的達成に不可欠な優れた人材を獲得し、維持していきます。それと同時に、国による高水準の財政支援により運営される法人として、教職員の総人件費の抑制により一層努めます。また、職員の給与水準については、「特殊法人等・独立行政法人の給与水準の見直しについて（平成 24 年 12 月 7 日閣僚懇談会）」の指摘も踏まえた取組を引き続き着実に進めるとともに、「特殊法人等における役職員の給与について（平成 26 年 10</p>		A

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>2.4 人事管理 目標</p>	<p>月 7 日内閣官房行政改革推進本部事務局)」に対する取組を具体化し、納税者の理解が得られる合理的な水準とし、それらに関する説明責任を果たします。</p>		
<p>2.4 人事管理 取組</p>	<p>(職員の採用) 2401 国際的な大学経営を行う上で重要な役職 (CIO (情報化統括責任者)、財務担当副学長、研究担当ディーン、教員担当学監等) について、引き続き、早期に優れた人材を採用・配置できるよう検討します。研究担当ディーンはリサーチ・サポート・ディビジョンを統括し、知的・産業クラスター関連活動の支援を行います。一方で、教員担当学監は今後数年にわたり新規教員の管理強化と積極的な採用活動を進めます。</p> <p>2402 学生関係や研究支援等、新規に立ち上げる業務や拡充すべき業務に対応するため、内部人材の活用や組織編成を行いつつ、即戦力となる外部人材の採用を進めます。特に OIST 等を核とした知的・産業クラスターの形成を推進させるための体制整備や職員の採用を進めます。</p>	<p>(職員の採用) 2401 学内の情報資産や技術の保護において緊要としていた情報化統括責任者 (CIO)、最高情報セキュリティ責任者 (CISM) が就任しました。また、財務担当副学長、男女共同参画担当副学長、教員担当学監も着任しました。研究担当ディーンも本年度中に決定し、来年度着任します。</p> <p>添付資料#2.4-1 平成 27 年度 職位毎・国籍別職員数</p> <p>全職員に対する事務部門の職員の比率：27%</p> <p>運営費に占める人件費の割合：32% (決算前のため概算値)</p> <p>2402 新たなキャリアパスに関心のある研究者らに対し、引き続き学内にて雇用機会の提供・登用を行いました。多様な国際的人材を発掘・獲得する新卒採用活動の一環として、前年同様、学生支援セクション共に日英バイリンガル学生を対象とした就職イベント (東京及びボストン) に参加しました。各イベントにおいてそれぞれ 100 名を超える学生と接触し、管理部門にて二名の新卒者 (男女共同参画ディビジョン及び財務ディビジョン) を採用しました。採用にいたらなかったものの、長期的な視点でのご縁を多くの有力候補者と築くことができました。</p> <p>知的財産の適切な管理・保護、知的財産のライセンス、本学の研究開発事業と本学の革新的な研究成果の実用化を促す企業との間の交流 (梓組み文書Ⅱ、9 ページ) を促進する為、技術移転セクション及び事業開発セクションにて 4 名人材募集を行いました。その活動により、平成 28 年 3 月末までに事業開発セクションにて 1 名雇用し、平成 28 年 3 月末までに技術移転セクションにて 1 名内定を行いました。</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>2.4 人事管理 取組</p>	<p>2403 他方、簡素で効率的な管理部門を実現すべく、国内外の大学等の動向を踏まえつつ、教職員数については予算で定められた教職員数の範囲内とし、なおも必要なニーズについては外部資金の活用を図るなど適正な管理を行い、組織の肥大化を防ぎます。</p> <p>2404 職場における多様性を促進し、全ての職種・職位における男女比率を改善するため、機会均等に関する方針を徹底します。</p> <p>2405 男女共同参画担当副学長を任命し、男女共同参画タスクフォースの提言および男女共同参画委員会の助言に沿った大学経営全般における男女共同参画の推進、特に人材開発及びキャリア開発を促進する観点から、女性研究者・女性職員に対する支援を引き続き実施します。</p> <p>2406 均等な雇用機会を提供するための障壁を取り除き、障がいを持つ方の雇用を促進します。</p>	<p>沖縄県の補助金を用い、「沖縄科学技術大学院大学を活用した人材育成事業」より職員を4名受け入れました。その内2名が事業開発セクションに所属し、産学連携の促進、知的・産業クラスターの形成推進業務に従事しました。</p> <p>2403 管理部門および研究部門にて引き続き人件費番号を付し、前年同様職員数を一定範囲内に抑えることができました。また、今後の運営に必要な人員の採用や配置に関する計画を検討するためのサブコミティを立ち上げ、長期的な視点で人員計画が策定される体制を整えました。</p> <p>2404 雇用した職員の男女比率は女性48.7%、男性51.2%です。また、新たに導入されるERPシステムのプロジェクトマネジャーとして女性管理職を採用しました。また、研究担当ディーンが着任することにより、上級幹部職に占める女性の比率は40%となりました。</p> <p>2405 男女共同参画委員会を6回開催し、男女共同参画の観点に立った女性研究者及び女性事務職員に対する支援体制について検討し、タスクフォースの提言の具体化を図りました。女性のキャリアパス、リーダーシップ、管理職のためのダイバーシティマネジメントをテーマとしたセミナーおよび講演会を計7回実施しました。また教員採用委員会のメンバーを対象とした、採用時における「潜在的バイアス」に関する研修を実施しました。</p> <p>職場における多様化を推進するため、平成27年10月男女共同参画に関する文書の改訂をおこない、OIST ウェブ及び各求人案内に掲載し、機会均等の方針を明示しました。</p> <p>「沖縄科学技術大学院大学(OIST)は、教育・雇用において均等な機会及び待遇を確保し、教職員・学生の多様性を高めるべく積極的に取り組んでいます。女性及び十分に代表されていない方々からの応募を歓迎しています。」</p> <p>2406 障がい者雇用の促進の為、平成27年9月に沖縄労働局主催の「障がい者就職面接会」に参加しました。イベントにて応募された数名の方々と面談を行い、学内で可能性</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>2.4 人事管理 取組</p>	<p>2407 利用者のフィードバック及びキャンパスの人口の拡大に基づき、新規採用及び既存の職員や学生のために、保育サービス、ファミリーサポート、フードサービス、健康・医療サポートや生活におけるニーズのサポートに関連した人事サービス機能を引き続き強化します。子弟教育の機会を広げるため、引き続き、地域の学校との連携を図ります。配偶者の雇用機会を更に拡大するために、沖縄県、ハローワークや潜在的な雇用者とのネットワークを構築します。</p>	<p>のある職務について情報提供を行い、今後の応募に向けて案内しました。</p> <p>2407 外部評価委員会は OIST が提供する福利厚生及び社会的・文化的支援プログラムに対し大きな感銘を受けたとしており、報告書で次のように記しています。 <i>「OIST は新たに雇用される人材のための支援体制の構築に非常に力を入れている。スタッフが沖縄での新生活に順応していくためには、よい住居、健康面でのサポート、カウンセリング、保育施設、リソース・センターといった支援が必要不可欠と考えられ、実際に提供されている。</i> <i>OIST は「がんじゅう」というカウンセリングサービスを設け、教職員及び学生が指導や支援を確実に受けられるようにしている。また、OIST は生後 2 か月から 6 歳の子どもを対象としたチャイルド・ディベロップメント・センター（保育施設）を設置している。更に、アフタースクールプログラム（学童プログラム）及びホリデープログラムも提供されている。</i> <i>OIST には医師と 3 名の看護師が常駐するクリニックが設置されている。軽度、又は緊急の場合はキャンパス内で診察を受け、また、島内で最適な専門家に紹介を受けることもできる。更に、沖縄での生活に順応できるよう、生活全般における支援や助言を提供するリソース・センターが設置されている。</i> <i>外部評価委員会は担当スタッフと会い、彼らの熱意と高い能力に感銘を受けた。支援体制とその運営について、教員、研究者、ポスドク、学生から一様に賞賛の声が聞かれた。</i> <i>こうしたリソースの設置、及び人材の配置は目を見張るものであり、高く評価する。」</i> <i>メディカルセンター、がんじゅうサービス、CDC、リソース・センターを含む福利厚生機能は、各施設間の連携をさらに高めるため、これら複数の機能をひとつの組織構造にまとめられました。各施設のリーダーは、サービスをより充実させるため、定期的に合同会合を</i></p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>2.4 人事管理 取組</p>		<p>開いています。これら全てのサービスは、OIST コミュニティ、すなわち職員、学生とその家族の誰もが利用可能な体制となっていることを強調します。家庭医療を含めた幅広い医療分野での経験を持つバイリンガル一般開業医の原医師が 2015 年 5 月から OIST で勤務しています。保健センターのマネージャーらとの緊密な連携によりクリニックを開設しました。同クリニックは 2015 年 9 月より本格的にサービスを提供しています。OIST コミュニティ全体を対象にサービスを提供しており、順調に運営されています。がんじゅうサービスには、日本人の経験豊富なカウンセラーも加わり、サポート体制の充実した職場環境の実現を推進するため、ワークショップや特別な目的に応じた会合を開催しています。英国からは世界トップクラスの睡眠／不眠症の専門家が一週間訪問し、がんじゅうサービスのスタッフによる、職員と学生向けの認知行動学に基づいた治療プログラムの確立を手伝い、また、睡眠問題に特に悩まされている学生らに十分な時間を割いたセッションを行いました。リソース・センターでは、二人目のバイリンガル職員が加わりました。同センターでは、沖縄での生活関連情報を提供し、外国人メンバーに向けて、日本語のウェブサイトやチラシに掲載されている情報の理解を手助けしています。HR の赴任サポートチームは、非常に効果的かつ効率的に機能しており、新たに着任するすべての職員や学生から高く評価・感謝されています。</p> <p>日本語を話さない家族の児童の就学前・初等中等教育については、現在も困難な状況であり、よりよい解決策に向けた進捗は芳しくありません。リソース・センターでは、配偶者の就職を支援していますが、日本語を話さない配偶者やパートナーの就職先を見つけることは、現在も大きな課題となっています。教職の経験を持っている者については、CDC でパートタイムの職に就くことができます。</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己 評価
<p>2.4 人事管理 取組</p>	<p>(処遇・給与水準)</p> <p>2408 引き続き、国家公務員や国内外の大学・研究機関等の給与水準等の競争的要因を踏まえ、年度評価及び職務等級制度を管理します。また、「特殊法人等における役職員の給与について（平成 26 年 10 月 7 日内閣官房行政改革推進本部事務局）」に対する取組を具体化し、実行します。</p> <p>2409 職員、非職員、学生やその家族など、より多くの人々が本学に来訪するにあたり、現在進行中のレジストレーション（受入支援）・デスク・プログラム等の提供サービスの拡大に向けた新たなシステムの導入を検討します。(5.2 参照)</p> <p>2410 キャンパス内宿舎（ビレッジゾーン）の整備に合わせて、ビレッジの家賃や住宅手当を見直し、必要に応じて改定を行います。第 1 期キャンパス整備でのビレッジゾーン建設完了後、平成 27 年度に家賃の全般的な改定を行う予定です。</p>	<p>(処遇・給与水準)</p> <p>2408 職員の給与水準については、「特殊法人等における役職員の給与について（平成 26 年 10 月 7 日内閣官房行政改革推進本部事務局）」に基づき、国家公務員に準ずる取り組みとして、上位職層のサラリーレンジを最大 4%、若年層のサラリーレンジは維持し、サラリーレンジを平均 2%引き下げました。今年度の年次業績評価においては、特に上位職層における給与の上昇を抑制するため、評価結果の昇給において、高位の職層の職員の給与上昇を抑制すべく昇給金額に上限額を設けました。一方、昇給額に下限額を設けることにより、男女格差ない評価に応じた昇給が実施されました。</p> <p>添付資料#2.4-2 平成 27 年度 職員の給与水準</p> <p>2409 平成 27 年 4 月 1 日にレジストレーション・デスクが開設され、本学に来訪する客員研究員及び招聘ゲストの受入支援を開始しました。(5.2 参照)</p> <p>2410 平成 27 年度における第 1 期キャンパス整備の完了に合わせて、家賃や賃貸契約を見直し、宿舎の実際の賃料に基づいた家賃の引き上げを平成 28 年 4 月より実施しました。</p>	
	<p>(キャリア開発・研修・業務実績評価)</p> <p>2411 人事ローテーションの実施等、事務職員に対するキャリア開発の取組を引き続き行い、バックアップの確保及び後継者育成に向けた取組を実施します。</p>	<p>(キャリア開発・研修・業務実績評価)</p> <p>2411 今後の組織拡大に備え、研究ユニットの管理業務を行うリサーチユニットアドミニストレーターの役割を見直し、公正、かつ、一貫した評価制度を導入、キャリアアップを目指す者に対し、キャリア開発と昇格の機会を提供するための取組について検討しました。</p> <p>添付資料#2.4-3 平成 27 年度 研修の受講職員数</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>2.4 人事管理 取組</p> <p>2412 平成 27 年度から新たな研修指針を策定し、学内研修プログラムを引き続き構築します。新しい研修指針では、異なる職種レベルで必要となる研修内容を明らかにし、各レベルにおいて職員が必要とする知識を習得できるようにすることを目的としています。平成 26 年度に実施した職員研修のニーズに関する一連の小規模調査に基づく新たな取組として、マネージャー全員を対象にした管理者研修に加え、新しくマネージャーの職に昇進した職員を対象にした研修を実施します。</p> <p>2413 ハラスメントに関する問題については、セクシャル・ハラスメント（性的嫌がらせ）対策に関する情報をオンラインで提供し、ハラスメント防止対策のさらなる強化に努めます。パワー・ハラスメントやその他の関連事項についても、同様に防止対策の取組を進めます。また、本学の高い多様性を考慮し、異文化コミュニケーションに関するセミナーを実施します。学内外のサービスを通じて、本学が重視する職員の健康や、業務上の問題解決に向けた取組の強化をサポートします。</p> <p>2414 平成 27 年度より、職種の特性に応じた内容の適切な職員オリエンテーションを実施します。一般的なオリエンテーションに加え、大学業務に役立つ実用的なオリエンテーション及び研修を新入事務職員に対しても実施します。また、マネージャー職に昇進する職員を対象とする研</p>		<p>2412 引き続き、策定された研修指針（研修マップ）に基づき、業務に関する知識能力向上、業務効率化につなげるための研修を 27 コース開催し、合計 310 名が参加しました。外部機関からの研修提供のみならず、学内のセクションと協働し、研修プログラムを提供しました。具体的にはランゲージセクションと事務文書作成能力、研究者の論文作成手法、口頭発表について強化するプログラム（Common English Errors Workshop, Write Perfect Email, Give a Killer Presentation, Scientific Writing）を、コンプライアンスセクションと協働で「マイナンバー」についての説明会を提供しました。</p> <p>また日本国の法令に対する理解を高めその厳格な遵守を担保するため、全職員向け「日本の法律セミナー」を開催し、600 名が受講しました。</p> <p>管理者に対しては、管理者（考課者）の評価責任、評価スキルがますます重要になることを再認識させ、部下育成・能力開発促進に繋げるための対話研修を実施しました。</p> <p>2412 英語コースの受講者数は OIST 職員、またその家族を含め 431 名、日本語コースの受講者数は 513 名でした。</p> <p>2413 セクシュアル・ハラスメント防止対策について、より一層の周知啓発を図るため、従来の講義形式のセクシャル・ハラスメント防止研修をオンライン化し、職員の 9 割が受講を終えました。同研修に関して、学生に対しては引き続き講義形式で丁寧に指導を行いました。</p> <p>2414 新入職員に対するオリエンテーションを拡充し、提供しました。今年度には新たに 2 項目を追加し、さらに生活に関連するウェルフェアに関しては実際にサービスを提供する場所を案内して説明を行いました。また日本国の法令に対する理解を高めその厳格な遵守を担保するため、</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>2.4 人事管理 取組</p> <p>修プログラムも策定します。入校に関するガイドライン及びチェックリストを平成 27 年度中に作成し、マネージャーの雇用や、研究ユニット・部署による円滑な新入職員の受入れを支援します。</p> <p>2415 平成 27 年度には、職員とその家族向けに提供される英語及び日本語クラスの数を増やします。語学訓練への需要は非常に高く、英語と日本語におけるコミュニケーション能力は本学の成功の土台となります。</p>		<p>「日本の法律について」セミナーで説明したダイジェスト版を受講必須として組み込みました。毎回学長他役員からメッセージを新入職員に直に伝える事を大切にしており、オリエンテーションで説明を行う側に対し、プレゼンテーションスキル向上を資する研修を提供し、レベルアップを図ったことから、刷新されたオリエンテーションは出席者に高く評価されています。</p> <p>全職員に受講が義務付けられたコンプライアンス研修（アドミニストレイティブ・コンプライアンス部門主催）については、月次で新入職員向けの研修を実施しました（12 回、研修参加者数 127 名）。さらに、文科省の「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」（平成 26 年 2 月 18 日改正）の基準に沿うよう研修教材を改訂し、全教職員向けに平成 27 年 3 月から e-learning 研修を開始しました。</p> <p>2415 平成 27 年度、英語コースの受講者数は計 431 名、30 のコースが開催されました。研究科との協力のもと 10 回に及ぶポスター発表の授業を開催しました。サイエンスチャレンジワークショップでは 28 名の学部生に対しプレゼンテーションスキルの向上と英語の授業を行い、また英語講師がコンテストの審査員として参加しました。</p> <p>球陽高校の生徒にプレゼンテーションスキルの向上の授業を行い、サイエンスプレゼンテーションコンテストでの優勝に貢献しました。また、科学のポスター発表についての授業も行いました。沖縄キリスト教学院大学の学生にサイエンス英語の授業を行いました。</p> <p>研修・人材育成チームとの協力のもと、パーフェクト E メール（2 回）、パーフェクト E メールワークショップ（1 回）、よくある英語エラー（2 回）、卓越したプレゼンテーション（2 回）、NEO のためのプレゼンテーションスキル（2 回）のワークショップを行いました。新入職員オリエンテーションの見直しに関し、向上のための指導を行いました。翻訳、編集、採用面接に関するサポートを様々なディビジ</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>2.4 人事管理 取組</p>	<p>2416 引き続き、職種の特性に応じ、能力評価及び期首に設定した目標等の達成度に係る業績評価を含む評価制度を、自己評価及び評価者の審査を介して、公平性と透明性に配慮しつつ適切に実施します。また、評価の結果について個々の給与等に反映させます。</p> <p>その際、報酬検討委員会のアドバイスを受けて、引き続き、評価の質及び信頼性のあるプロセスを確保します。また、新しいマネージャーにプロセスの説明を行うため、定期的に研修を実施します。</p>	<p>ョンに対して行いました。</p> <p>OIST は 2 名の常勤英語講師を雇用しています。両講師ともアジア教育学会に参加しました。</p> <p>日本語コースにおいては、OIST は 1 名の常勤講師を採用し、受講人数は計 513 名、3 学期を通して 39 のコースを開催しました。</p> <p>学生支援セクションのサポートとして、サバイバルコースが 2 コース、ブッシュユニットのワークショップではサバイバルコースが 1 度開催されました。</p> <p>2416 報酬検討委員会（SRC）からの助言を受けながら、ひきつづき職種の特性に応じ、能力評価及び期首に設定した目標等の達成度に係る業績評価を含む評価制度を、自己評価及び評価者の審査を介して、公平性と透明性に配慮しつつ適切に実施し、さらなる評価システムの改善がなされました。</p> <p>個別の目標設定方法の説明を目的としたセミナー及び管理監督者に対する部下育成のための対話研修が開催されました。</p>	
<p>2.5 コンプライアンスの確保 目標:</p>	<p>大学経営の全ての面において、コンプライアンスが確保される体制を構築します。</p>		A
<p>2.5 コンプライアンスの確保 取組</p>	<p>251 副学長（アドミニストレイティブ・コンプライアンス担当）において、引き続き、予算執行状況、一定額以上の調達に係る契約、学内規則類の制定・改正等について、コンプライアンスの観点から審査を行うこととします。</p> <p>252 学内規則類を、関連法令の改正や諸状況の変化に応じ適時適切に制定・改正するとともに、PRP 審査委員会を定期的開催し、規則類全体の整合性を維持します。</p>	<p>251 アドミニストレイティブ・コンプライアンス担当副学長において、引き続き、予算執行状況、一定額以上の調達に係る契約、学内規則類の制定・改正等について、コンプライアンスの観点から審査を行いました。</p> <p>252 学内規程類を、関連法令の改正や諸状況の変化に応じ適宜適切に制定・改正しました。平成 27 年度においては、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（平成 25 年法律第 27 号）、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（平成 25 年法律第 65 号）、「独立行政法人等の保有する個人情報の適切な管理のための措置に関する指針について」の一部改正について（平成 27 年 8 月 25 日総管第 71 号総務省行政管理局</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>2.5 コンプライアンスの確保 取組</p>	<p>253 業務運営上の意思決定及びその過程については、公文書等の管理に関する法律（平成 21 年法律第 66 号）及び同法に基づき整備した学内規則に則り、適切に文書化するとともに、その管理・保存等を徹底します。</p> <p>254 監事による監事監査や上記副学長の下で行う内部監査によって、規程類の実施状況を含むコンプライアンスの状況について、厳格なチェックを行い、その結果に基づき必要な見直しを行います。</p> <p>255 本学の全ての役員及び教職員に対して、「利益及び責務相反の防止」ポリシーの規定に基づき、利益の相反を生じさせる可能性のある状況の評価を促進するため、学外の活動と責務について、毎年度、書面による開示を実施します。</p> <p>256 本学の研究活動が関連法令や規制に準拠して実施されることを引き続き確保します。</p>	<p>長通知)等に基づく学内規程等の新設・改正を行いました。PRP 審査委員会を 3 月に開催し、規程類全体の整合性の維持を図りました。</p> <p>253 業務運営上の意思決定及びその過程については、公文書等の管理に関する法律及び同法に基づき整備した学内規則に則り、適切に文書化するとともに、その管理・保存等を徹底しました。</p> <p>254 (再掲)適切な契約・調達及び会計事務を行うため、コンプライアンスを担当する副学長の下で内部監査計画に基づき内部監査を実施しました。 (再掲)一定額を超える随意契約について、500 万円未満の購入案件はコンプライアンス・セクション・リーダーが、500 万円を超える案件はさらにアドミニストレイティブ・コンプライアンス担当副学長及び同准副学長がその適切性を審査しました。 (再掲)全職員に受講が義務付けられたコンプライアンス研修(アドミニストレイティブ・コンプライアンス部門主催)については、月次で新入職員向けの研修を実施しました(12 回、研修参加者数 127 名)。さらに、文科省の「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」(平成 26 年 2 月 18 日改正)の基準に沿うよう研修教材を改訂し、全教職員向けに平成 27 年 3 月から e-learning 研修を開始しました。</p> <p>255 昨年度に引き続き、本学の全ての役員及び教職員に対して、「利益及び責務相反の防止」ポリシーの規定に基づき、利益の相反を生じさせる可能性のある状況の評価を促進するため、学外の活動と責務について、書面による公式な開示を求め、その管理と運用を行ないました。</p> <p>256 研究活動に関連する動物実験、遺伝子組換え、病原体等、人対象研究、レーザー、野外活動、規制化学物質、放射線、規制機器及び輸出入等の申請は、関連する審査委員会で法令及び安全基準への適合を審議し、必要に応じて</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>2.5 コンプライアンスの確保 取組</p>	<p>257 研究費の不正防止のため、納品検収体制の機能強化等種々の対策を講じます。</p> <p>258 不正防止計画委員会をプロボースト・オフィスの下で発足します。本委員会は、適切な研究計画や行動、及び研究資金の適正な使用についての理解を促進する幅広い活動を総括します。(再掲。1.2 参照)</p>	<p>監督官庁に申請を行い、許認可を得ました。</p> <p>257 (2305 一部再掲) 納品検収の状況を記録する納品検収システムの運用を開始し、検収手続きの厳格化を図りました。</p> <p>257 および 258 研究担当ディーンが不正防止計画委員会に関する議論を主導して実施し、委員長は研究担当ディーンとすること並びに関連ディーン、教員代表者、関連セクション・リーダー及びその他研究担当ディーンが必要と認める者によって同委員会を構成することが決定されました。</p>	
<p>2.6 情報公開及び 広報活動 目標:</p>	<p>本学が急速な成長を遂げる中、教育研究や業務運営に関する透明性の確保、及び国民に対する説明責任の履行に向けた取組がより一層必要となります。国内外から幅広いサポートを得るとともに、国際的な認知度を高めるため、多様なステークホルダーとの間で積極的にコミュニケーションを図り、本学のブランド化に努めます。</p>		A
<p>2.6 情報公開及び 広報活動 取組:</p>	<p>261 本学は引き続き、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）や独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成 13 年法律第 140 号）等によって公開が義務付けられる情報について、ウェブサイト等において適切に公開します。</p> <p>262 本学のウェブサイトが日英両言語で提供される質の高いアカデミックなウェブサイトとして評価されるよう引き続き整備・拡充に努めます。</p>	<p>261 引き続き、学校教育法や独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律等によって公開が義務付けられる情報について、ウェブサイト等において適切に公開しました。</p> <p>262 OIST は日本でも有数の日英完全バイリンガルのウェブサイトを活用しています。平成 27 年度は本学の研究成果や様々なイベントに関するウェブ記事が週に 1~2 回のペースで掲載されました。また、OIST ウェブサイトのレスポンシブ・デザインへの移行を完了させたことで、モバイル端末ユーザーに向けた利便性を向上させるとともに、引き続きコンテンツの大部分を日英両言語で提供しました。</p> <p>モバイル端末ユーザー向けに OIST ウェブサイトをレスポンシブ・デザインに移行した結果、スマートフォンからの閲覧率が 24 パーセント、タブレット PC からの閲覧率が</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>2.6 情報公開及び 広報活動 取組:</p> <p>263 本学に関して継続的に肯定的な報道がされるよう、引き続き、県内外で記者説明会や記者会見等の機会を積極的に持つよう努めます。</p> <p>264 大学院大学のウェブサイト、論文発表データベース、及び本学ウェブサイトのニュースセンターを引き続き改善し、博士課程プログラムや OIST 研究者の論文発表に関する情報の検索を容易にし、本学の写真やビデオ、その他のマルチメディアの活用を促進します。</p> <p>265 Facebook、Twitter や You Tube 等のソーシャル・メディアを更に効果的に活用し、本学のホット・トピックを発信します。</p>		<p>54 パーセント増加しました。</p> <p>メディアセクションでは平成 27 年度よりウェブサイトの統計収集方法を改め、学内からの OIST サイトへのアクセス数を除くことで、より正確な数値を把握し、国内外への訴求効果を測るようにしました。その結果、OIST の 3 つのウェブサイトに対して、外部より約 555,380 のアクセス数を記録しました。それら 3 つとは、(1) OIST に関する情報や採用情報、科学記事やプレスリリースを掲載している OIST ホームページ、(2) 研究ユニットのウェブページや各ディビジョンのウェブページ、各ワークショップのウェブページなどを含む OIST グループサイト、そして(3) OIST への入学見込みの学生を対象とした OIST アドミッションサイトです。全アクセス数の内、日本国内からのそれぞれのサイトへのアクセス数は(1)72%、(2)52%、(3)37%を占めました。</p> <p>263 (再掲 1215) 平成 27 年度は 7 つの記者会見および記者懇談会を東京と沖縄において開催するとともに、計 15 回にわたって在京の報道機関を訪問し、また、国内外の記者による OIST 訪問を多数受け入れました。</p> <p>264 大学院大学 (教務科オフィス) のウェブサイトを刷新して、OIST 博士課程プログラムに関する検索機能、ナビゲーション、および学生のプロフィールページやユニット紹介ビデオを含むコンテンツの充実に努めました。OIST ウェブサイトのニュースセンターでは、ジャーナリストや業者、OIST 職員が自由にダウンロード可能な写真やビデオを掲載しています。平成 27 年度は南星写真チームが撮影した OIST 写真集を追加しました。OIST ビデオやスライドショーはこれまで通り YouTube にアップロードし、誰もがいつでもどこでも視聴できるようにしています。</p> <p>265 OIST ウェブサイト上で公開した研究成果に関する記事に加え、高校生の訪問や文化イベントの開催に関する記事も OIST フェイスブックページに掲載しました。平成 28 年 4 月 6 日時点で、OIST フェイスブックの「いいね」の</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>2.6 情報公開及び 広報活動 取組:</p>	<p>266 引き続き、学内規則集をウェブサイトに掲載し、改善を図ります。</p>	<p>数は 5,386 件でした。平成 27 年度は前年度に比べて積極的に記事をツイートしたことで、これがリツイートにつながり、OIST 認知度向上につながりました。また、OIST ウェブサイトにアクセスする会員の数を増やすことを目的に平成 25 年 10 月に配信サービスを開始した電子ニュースレター「OIST 便り」は、平成 28 年 4 月 1 日時点で購読者数が英語版で 2,411 人（前年同月時 1,493 人）、日本語版 2,891 人（同 1,499 人）となっています。</p> <p>266 引き続き、学内規則集をウェブサイトに掲載し、改善を図りました。</p>	
第 3 章 財務に関する事項			
<p>3 財務に関する 事項 目標:</p>	<p>外部資金獲得に係る中期戦略に基づき、引き続き、将来の自立的経営に向けて、競争的研究資金、寄附金等の外部資金獲得額の増加を図り、財政基盤の強化に戦略的に取り組みます。基盤強化の取組を進めるにあたっては、競争的研究資金と寄附金等の外部資金獲得の 2 つの主要な財源が要となります。</p>		A
<p>3 財務に関する 事項 取組:</p>	<p>（競争的資金） 301 研究資金獲得数はこの 1 年半の間で 30%増加しました。この中には、科研費や JST 戦略的創造研究推進事業（CREST、さきがけ）、ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム等が含まれます。新規採用の若手教員も加わるなかで、競争的資金の申請書作成に関するセミナー等を開催し、引き続き国内の競争的資金の獲得数増加に向けて取組を進めていきます。これらのセミナーは日英両言語で開催し、申請書の作成においては翻訳支援も提供します。</p> <p>リサーチ・サポート・ディビジョンの外部研究資金セクションは、国内外の研究助成金に関する情報収集を引き続き行い、これらの情報を定期的に研究者に提供します。</p>	<p>・競争的資金の申請件数</p> <p>・競争的資金の採択状況（件数及び獲得額）</p> <p>・外部資金の伸び（総額及び内訳）</p>	<p>（競争的資金） 301 平成 27 年 11 月の科研費応募は 78 件で、新規採用の若手研究者を含みます。JST 戦略的創造研究推進事業からは OIST からの応募としては初めて「さきがけ」で 1 件の採択がされました。</p> <p>ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラムでは OIST の教官が共同研究代表者となっている申請の 1 件が採択されました。プロジェクトの開始は平成 28 年度の予定です。</p> <p>外部資金獲得や産学連携のための基礎的な情報や国内外の公募機会のスケジュールなどについてカレンダーとセクションホームページでの提供を強化しました。</p> <p>研究助成金に関する情報について、日本語のみでの情報の場合には英訳を行って提供しました。</p> <p>科研費、JST 戦略的創造研究推進事業（CREST、さきがけ）の研究資金に係るセミナーを開催しました。併せて競争的</p>

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>3 財務に関する 事項 取組:</p> <p>302 さらに、国内外の資金提供機関の情報ソースを定期的に確認し、文部科学省の諮問機関等による新規の助成金の案内につながる先行活動についての情報収集を引き続き行います。</p> <p>303 本学の研究に基づく新規事業の開発を支援するため、産業界の助成金に対する申請を奨励します。</p>		<p>資金の申請書作成に関する実務的なセミナーも開催しました。</p> <p>申請書のレベル向上のため、申請書案の添削や校正等といった支援サービスを強化しました。</p> <p>添付資料#3.1 外部資金・寄付金獲得状況</p> <p>302 国内外の資金提供機関のウェブサイトを定期的に確認し、文部科学省や内閣府の諮問機関等による新規の助成金の案内につながる先行活動について教官らと共同して情報収集を引き続き行いました。</p> <p>303 事業開発セクション（沖縄の自立的発展オフィス）は、企業や財団からの助成金などの民間部門からのものや、産学の共同事業を支援する政府助成金など、57の資金提供の機会を明らかにしました。事業開発セクションでは、ウェブサイトで資金調達をPRしており、関連する教職員や研究員に申請するよう奨励しています。また、資金調達申請の支援も行い、その支援内容には翻訳、予算作成、その他手続き上の支援が含まれます。23の申請が提出され、2つの申請が承認されています。</p>	
<p>(寄附金)</p> <p>304 ファンドレイジングの国際担当ディレクターを採用し、プレジデント・オフィス下にファンドレイジング専門オフィスを立ち上げる準備を進めます。</p> <p>北米と日本の認定ファンドレイザー2社と協力して取組を進めます。国内外合わせた取組により本学での寄附金募集活動が始動します。</p>		<p>(寄附金)</p> <p>304 国内のファンドレイジングに関する様々な会議に参加し、国内の寄付金担当者とも会うことができました。さらに、北アメリカで開催されたファンドレイジングに関するトレーニングセッションにも参加しました。日本のファンドレイジングに携わる担当者を訪れ、さらに本学へ招聘しました。平成 28 年 2 月に、日本ファンドレイジング協会事務局長の鴨崎氏及び京都大学の iPS 細胞研究所において寄付金を担当するファンドレイザーの渡邊氏を講師として招き、ファンドレイジングのワークショップを開催し、国内におけるファンドレイジングを取り巻く状況についてさらに理解を深めました。</p> <p>また、ファンドレイジング担当部署に必須となる寄付者情</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
3 財務に関する事項 取組:		報及び寄付金を一元的に管理するソフトウェアについても導入を検討しています。 さらに、平成 26 年に作成されたファンドレイジングに関する本学の行動計画を更新しました。	
第 4 章 沖縄の自立的発展への貢献に関する事項			
4 沖縄の自立的発展への貢献に関する事項 目標	日本政府による「経済財政運営と改革の基本方針 2014」において、沖縄の自立的経済の強化が示され、本学や他の研究機関を核とする国際的な知的・産業クラスター（R&D クラスター）の形成を推進することが述べられました。 沖縄の自立的発展に寄与するという学園法に定められている設立目的を反映し、知的・産業クラスター（R&D クラスター）の形成を推進するため、本学は平成 26 年度に沖縄の自立的発展担当首席副学長オフィスを設立しました。本オフィスは引き続き、本学の研究室から生まれた発明を同定、特許化、促進し、知的・産業クラスター（R&D クラスター）を沖縄に構築する取組を行います。既存の企業との共同研究開発プロジェクトを更に発展させるとともに、本学の知的財産を基にしたスピンオフ企業の輩出を奨励します。また、国内企業パートナーと既に構築したネットワークに加え、国際ネットワークを発展させることを目指しています。一方、地域コミュニティや地域の学校とも連携・交流を引き続き深め、キャンパスを地域の文化的活動やコミュニティ活動の拠点として発展させます。		A
4 沖縄の自立的発展への貢献に関する事項 取組	（研究交流・共同研究） 4101 研究者の相互訪問や市場・産業ニーズ分析等の取組により、引き続き、大手企業とベンチャー企業の双方を含む産業界との研究交流や共同研究を推進します。	（研究交流・共同研究） 4101 沖縄の自立的発展オフィスは、産学関係の促進と OIST の研究からの知的財産機会の発展に焦点をあてています。 <ul style="list-style-type: none">• 4 つの新たな主要企業との共同研究合意が締結され、それに伴うプロジェクトが開始されました。• 8 つの新たな主要企業との秘密保持契約が締結され、新たな共同研究合意が現在考案中となっています。• OIST が新たに 50 の企業へ紹介され、共同事業/共同開発の機会を議論しました。	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>4 沖縄の自立的発展への貢献に関する事項 取組</p>	<p>4102 過去の成功例をもとに起業家精神育成ワークショップを継続して実施します。本ワークショップには沖縄の他大学の研修生や本学職員も対象に含まれます。</p> <p>4103 知識移転の促進のため民間フェローシップ・プログラムの創設を検討し、長期にわたる関係を構築していく土台として本学と産業界との結び付きを創ります。</p> <p>4104 沖縄県が実施している「沖縄科学技術大学院大学を活用した人材育成事業」、「ベンチャー創出支援事業」、「サンゴ礁再生に関する調査研究事業」及び「知的・産業クラスター形成推進事業」の下で、本学は、沖縄の生物資源を活用した研究開発や新エネルギー供給システムの研究開発等、県内ベンチャー企業や学術機関等との共同研究 4 件を引き続き実施します。また、それらの事業による学術的会合やシンポジウムにも積極的に貢献していきます。</p> <p>4105 沖縄県との共同研究プログラムの下、新たな連携の機会を提案します。</p>	<p>添付資料#4-1 受託研究等及びイベント</p> <p>4102 OIST の研究者らによって開発された発明を基盤にした起業家の活動を促進するため、第 3 起業家育成プログラムが計画されました。ワシントン DC のアメリカ国立科学財団、Innovation Corps (I-Corps) Node が、リーン・スタートアップメソッドに基づいた 9 日間の集中起業家トレーニングプログラムを主導します。15 名の研究者とスタッフがハンズオンアプローチで顧客開発、顧客価値、およびビジネスモデルキャンバスに取り組みました。</p> <p>4103 OIST の研究員らと産業界の繋がりを強化するため、業界メンターネットワークが構築されました。業界のメンターたちは 5 つの新たに策定された概念実証(POC)プロジェクト（下記の「技術開発及び技術移転」の概念実証(POC)プログラムを参照）に直接関与しました。</p> <p>4104 沖縄の民間のパートナーと教育機関とともに、4 つの既存の研究プロジェクトが実施されました。同プロジェクトは下記のとおりで、沖縄県からの資金提供を受けました。:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 知的クラスタープロジェクト ● 知的産業クラスタープロジェクト（スタートアップ推進プログラム） ● 知的産業クラスタープロジェクト（国際共同研究プログラム） ● 亜熱帯/島 エネルギーインフラストラクチャーテクノロジー研究プロジェクト <p>プロジェクトの研究分野には化学、植物システム生物学、エネルギーが含まれます。</p> <p>4105 地域産業パートナーを招いた新たな共同研究の資金調達を行うため、沖縄県への申請を行いました。結果として、2 つの新規研究プロジェクトに対して沖縄県からの</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>4 沖繩の自立的発展への貢献に関する事項取組</p>	<p>(知的財産管理)</p> <p>4106 本学のミッションである基礎研究を補い、その研究成果を知的財産として適切に保護するため、研究者からの発明開示を引き続き促進します。</p> <p>4107 効率的かつ戦略的な知的財産の管理や特許出願において助言を得るため、外部の特許専門家の国際的ネットワークを拡大します。このことにより、外部専門家の層を厚くし、発明評価委員会における質の向上に努めます。</p> <p>4108 潜在的なライセンサーとの交渉状況などの情報を管理する新たな知的財産管理システムを利用し、第三者実施を含む特許の管理・活用を行います。</p> <p>4109 教員やポスドク研究員、学生、スタッフ向けに知的財産に関するトレーニングを実施することで、権利化・事業化可能性や手続き、権利の保護について意識を高める機会を提供します。</p>	<p>資金提供が行われました。:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 戦略的製品開発サポートプロジェクト • 沖縄の医療産業の競争力拡大プロジェクト <p>(知的財産管理)</p> <p>4106 発明の開示手順は研究者らにとって新たな発明をより開示しやすいように最適化されました。発明届出書は大学全体の書式と合意書の効率化と管理を目的として書面形式から電子形式へと切り替えられ、OIST の電子申請システム (EAS) に統合されました。(12 の発明開示が評価済み)</p> <p>4107 発明等評価委員会と特許申請評価の新手順は、平成 26 年度の特許出願書式の提出数 34 通から平成 27 年度の 64 通への増加につながりました。信頼の置ける経験を積んだ外部の特許専門家 3 名 (イギリスから 2 名、日本から 1 名) が、既存の外部専門家ネットワークへ組み込まれました。結果として、知的財産管理に関わる幅広い分野から、5 カ国合計 24 名の非常に能力の高い専門家で構成されるネットワークを構築することができました。</p> <p>4108 新たな IP 管理システム、SOPHIA が特許管理を目的として導入され、発明の開示からライセンス認可に至る全体のイノベーションプロセスの管理にも拡大されました。OIST の安全保護された IT システムとの互換性を確保するためにソフトウェアのトラブルシューティングが開始され、標準運営手順が策定中です。</p> <p>4109 4 カ国から 9 名の特許弁護士と技術移転専門家によって知的財産に関する 14 のセミナーおよびトレーニングクラスが実施されました。</p> <p>添付資料#1.4-2 特許状況</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>4 沖縄の自立的発展への貢献に関する事項 取組</p> <p>(技術開発及び技術移転)</p> <p>4110 本学で生み出された発明や知的財産に基づく事業化可能性を向上させます。具体的には、マッチングイベントの参加頻度を上げる、もしくはマッチングのフォローアップのミーティングを多く設定します。また、有望な案件に対して、事業化可能性評価委員会において支援の有無及び支援内容を議論し、組織的な支援活動を推進します。</p> <p>4111 知的・産業クラスター形成に関する国際ワークショップやオープン・エネルギー・システム国際シンポジウムを始めとするハイレベル会合の成果を踏まえ、ターゲットとする産業分野のビジネス知識を強化し、各分野に特化した戦略を立てます。</p> <p>4112 バイオ・インターナショナル・コンベンションやバイオジャパン、ナノテクジャパン等、国内外で広く知られるワークショップや展示会への参加を通じて、産業界との交流や関係構築を推進します。</p> <p>4113 科学技術のグローバルなビジネス展開とマーケティングに関する専門性を学内に育成することにより、事業開発体制の構築・明確化を進めます。また民間企業による委託研究プロジェクトや商業化活動に本学職員が参加する際のガイドラインを提供します。</p> <p>4114 規則や規定を整え、概念実証 (POC; Proof of Concept) プログラムを実施します。本プログラムでは学内</p>	<p>・概念実証 (Proof of Concept) やその他の関連プログラムによる応用研究事業 (POC や実行可能性等) の数</p> <p>・外部機関の本学研究施設の利用回数等</p>	<p>(技術開発及び技術移転)</p> <p>4110 OIST のスピンアウトと OIST に関連するベンチャー企業を支援するため、施設および共有設備の使用資格、使用条件を含む、規則および規定の草案が策定されました。OIST 内部承認手順の追跡調査が開始されました。</p> <p>4111 知的財産のランドスケープと産業セクターに関する知識を向上させるため、特許に関するランドスケープ報告書と、太陽電池、バイオセンサー、画像処理、シグナル処理、ラボオンチップ、微生物燃料細胞を含む OIST に関連する重要分野での市場調査をまとめました。</p> <p>4112 沖縄の自立的発展オフィスのスタッフが9つの国内および国際会議や展示会に参加しました。(カッコ内は潜在的パートナーを対象に展示したテクノロジーの数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際バイオテクノロジー展 2015: (5) ・ BIO International 2015: (5) ・ MEDIX 東京: (7) ・ シンガポールでの沖縄ビジネス環境セミナー: (7) ・ OPG 産業推進セミナー (東京): (11) ・ Taitronics (台北): (3) ・ BioJapan 2015:: (10) ・ Semicon:: (13) ・ nano tech 2016: (16) <p>4113 OIST の技術に関する技術移転と事業開発の管理能力を増強するため、沖縄の自立的発展オフィスのスタッフが日本および海外で行われた 51 の外部専門家トレーニングイベントに参加しました。</p> <p>4114 新たな概念実証 (POC) プログラムの選考基準、申請、審査、管理手順が策定され、OIST のエグゼクティブ</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>4 沖縄の自立的発展への貢献に関する事項 取組</p> <p>競争的資金が提供され、本学の知的財産の商業化を強化するデータの取得を目的に、特化した実験を行います。</p> <p>4115 OIST テクノロジーを実用化へと結び付けるため、本学研究者と他大学や民間企業の共同研究者が実証試験を行う共同研究室として、新設される第 3 研究棟内に OIST テクノロジー・トランスファー・センターを設けます。</p> <p>4116 内部の優先利用を確保しつつ、他大学や民間企業等による本学の研究施設の利用を促進します。(再掲。1.2 参照)</p> <p>4117 本学の知的財産に基づいたスタートアップ企業に提供する場として、キャンパス近隣に OIST リサーチ・パークとインキュベーター施設を建設する必要性と実現可能性を調査します。</p>		<p>コミッティによって承認されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 27 年 7 月に同プログラムのパイロットプログラムは成功しました。ラウンド I では 5 つのプロジェクトが承認、開始されました。ラウンド II の公募が平成 28 年年 1 月に開始されました。 実用化戦略に関して POC プロジェクトへアドバイスを提供するため、世界的な業界メンターネットワークが構築されました。パイロットプログラムの評価に関する計画が進行中です。 <p>4115 第 3 研究棟、レベル A のスペースが技術開発研究のために提供され、R&D クラスタ研究プログラム、概念実証(POC)プロジェクト、および産業共同プロジェクトへ利用可能となりました。スペースはすぐに埋まってしまう、現在キャンセル待ちとなっています。スペース使用の資格判断および使用条件を管理するため、標準運用手順が策定中です。</p> <p>4116 (再掲 1211) 沖縄プロテイントモグラフィ (OIST 初のベンチャー) が、「研究施設外部利用契約」に基づき、300kV クライオ透過顕微鏡を月平均で 4.8 日、計 57 日利用しました。</p> <p>4117 R&D クラスタ研究プログラム、概念実証(POC)プログラム、OIST 知的財産などに由来するスタートアップ活動の可能性を予測し、OIST キャンパス付近のインキュベーター施設の必要性が審査されました。スペースと予算の要件が具体化され、インキュベーターの実現可能性が評価されました。</p>	
<p>(知的・産業クラスター形成に関連する活動)</p> <p>4118 知的・産業クラスター形成に繋がる交流の機会を増やすため、セミナーやワークショップ、シンポジウム、それに関連する活動を講堂と併用して R&D クラスタホールで開催します。</p>	<p>・本学が主催した産業発展及び知的・産業クラスター形成に関するシンポジウム、会議、ワークショップの開催数</p>	<p>(知的・産業クラスター形成に関連する活動)</p> <p>4118 R&D クラスタホールが開設され、OIST カンファレンス・センターとして講堂との共用が開始されました。OIST は同時セッションや分科会セッションを伴う大規模な国際会議を主催するのにより適した場所となりました。平成 27 年度には 16 件の外部利用イベントがカンファレン</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>4 沖縄の自立的発展への貢献に関する事項取組</p> <p>4119 沖縄で開催された知的・産業クラスターに関する国際ワークショップでの提言の実行に向け、平成 26 年度に続き、タスクフォース事務局として議論をまとめます。内閣府及び沖縄県庁を含むタスクフォースの検討結果を踏まえ、平成 27 年度を含め可能な限り早期に、知的・産業クラスター推進組織の具体的な設立準備行為を開始できるよう、調整を図ります。</p> <p>4120 クラスター推進組織の立ち上げを促進するため、科学技術に基づいた知的・産業クラスター形成をテーマとした国際シンポジウムを企画します。</p> <p>4121 世界市場のニーズの分析に加えて、本学及び沖縄の科学技術能力と可能性の分析も開始し、両者の隔たりを理解した上で、知的・産業クラスター形成に向けて本学の戦略を策定します。その際、科学技術のイノベーションがもたらす効果を測定するためのツールを開発します。</p>		<p>ス・センターで開催されました。</p> <p>4119 沖縄の自立的発展オフィスは沖縄での R&D クラスター開発へ貢献するため、OIST の焦点となってきました。平成 27 年度の終わりには、R&D クラスター研究プログラムと R&D クラスター・タスクフォース活動の調整機能を同オフィスへ移譲する準備がなされ、平成 28 年度から始動します。平成 28 年度には R&D クラスター活動の調整を助けるため、同オフィスに新たなスタッフが参加する予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> R&D クラスター・タスクフォースが、独立推進組織を提言し、世界的に競争力を持った沖縄の R&D クラスターの開発、発展、および持続性を推進する構造と活動の特徴付けを行いました。タスクフォースの提言についてステークホルダーとフォローアップする計画が進行中です。 <p>R&D クラスター推進戦略計画に関して OIST のスタッフが沖縄県と密接に活動し、沖縄科学技術推進ロードマップ委員会のメンバーとして任命されました。</p> <p>4120 「大学発のイノベーションを加速する」をテーマに掲げ、3 月 22 日に国際シンポジウムが実施されました。日本、アメリカ、イギリス、そしてシンガポールからの 16 名の専門家が、産業界への大学の技術移転、起業家を目指す学生や研究者の教育、産学官連携の強化、そして大学の発明に基づいたスタートアップベンチャーの構築について意見を交わしました。</p> <p>4121 沖縄でのイノベーション環境のコア要素に関する R&D 調査の概要が策定されました。政府機関とともに、沖縄の教育、雇用、インフラストラクチャー、投資、およびベンチャー企業に関するデータの集計と分析を行う包括的な計画が開始されました。調査に貢献するため、米国の科学政策フェローを本学が受け入れるとの提案が外部</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>4 沖縄の自立的発展への貢献に関する事項 取組</p> <p>(地域連携に関する取組)</p> <p>4122 県内の他機関との交流の機会を設け、知的・産業クラスターのコミュニティの発展に繋がります。この中には、大学コンソーシアム沖縄や県による科学技術と産業の推進プログラム、関連テーマを扱う座談会、その他の取組が含まれます。</p> <p>4123 引き続き、中部病院や南部医療センター、琉球大学医学部等地域の核となる医療機関との交流プログラムを実施し、科学講演会を開催します。</p> <p>4124 引き続き多くの訪問者（県内の企業や各種協会等の団体も含む）を得られるよう努めます。同時に、訪問者数の増加により本学の主目的である教育と研究に支障がないよう配慮します。</p> <p>4126 沖縄県内の児童・生徒に、世界最先端の研究環境を体感し、科学技術分野での進学又は就職への関心を高めてもらうことを目的として、県内学校からの本学キャンパス訪問を積極的に受け入れます。特に、沖縄県教育委員会や県内各高等学校と緊密に連携し、県内の全ての高等学校を対象とする訪問プログラムを引き続き推進します。平成 27 年度内には、県内高校 20 校からの訪問を受け入れます。</p> <p>4125 本学キャンパスで 6 度目となるオープン・キャンパス（一般開放）を実施します。</p> <p>4127 県や観光組織との連携により、高度な科学技術教育プログラムを行う本土のスーパー・サイエンス・ハイスクールの本学への訪問を引き続き実施・強化します。</p>	<p>・視察や来訪者の数（オープン・キャンパスへの来訪者数を含む）</p> <p>・キャンパスを訪れた県内児童・生徒数</p> <p>・県内児童・生徒を対象とした講義やイベントの数</p>	<p>機関に提出されました。</p> <p>(地域連携に関する取組)</p> <p>4122 OIST は大学コンソーシアム沖縄の事務局を支援し、その総会や活動に連係して取り組みました。また、OIST 職員は以下を含む知的・産業クラスターのコミュニティの発展に関連する委員会や円卓会議の委員を務めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄県：沖縄科学技術振興ロードマップ策定検討委員会 ・ 琉球大学：沖縄産学官協働人材育成円卓会議 <p>4123 南部医療センターにおいて佐藤矩行教授、石川裕規准教授による講演会を実施し、それぞれ 100 名の医師、看護スタッフ等が聴講しました。</p> <p>4124、4126 県内企業、地域団体、児童生徒等 計 35,457 名がキャンパスを見学しました。高校 34 校、2,352 名、小中学生 17 校、804 名が OIST を訪問しました。ICT を活用し生徒が積極的に参加できる内容を導入する等プログラムを改善しました。</p> <p>4125 301 名の教員、研究スタッフ、事務スタッフの協力を得て、新規出展項目も含め 31 以上のデモ、展示を行い 5,000 名が来場しました。</p> <p>4127 県外で開催される沖縄修学旅行フェアに参加し広報するとともに全国の全ての SSH 指定校に文書で案内をし、県外 6 校（SSH 3 校を含む）427 名の高校生、40 名の中学生の見学を実施しました。</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価																								
<p>4 沖縄の自立的発展への貢献に関する事項取組</p>	<p>4128 引き続き、全ての学年の児童・学生に対して、本学の教員や外部の著名な科学者による講演会を開催します。</p> <p>4129 恩納村と協力して、第 6 回恩納村・OIST こども科学教室を開催します。</p> <p>4130 地元の人々に本学に訪問してもらうために、本学の講堂や他の施設を活用し、デモンストレーションや科学フェア、コンサート、展示会等文化的なイベントを開催します。</p> <p>4131 地元教育委員会による英語教育に関する会議及び地域の学校で実施される英語講座への本学関係者の参加促進等により、子供達の英語力及び異文化理解を深めるために、地域の学校に協力をします。</p> <p>(その他の取組) 4132 引き続き、優秀な県内出身者の雇用に努めます。</p>	<p>4128 県内児童・生徒また学校教員向けの講演会を実施しました。また OIST の国際的な環境を活かし沖縄県教育委員会、JICA、沖縄県国際交流人材育成財団、米国総領事館と共同による県内で英語を使って活躍できる仕事を紹介するイベント「英語でお仕事」を開催しました。103 名の高校生が参加し各機関から仕事の説明を受け、一部仕事体験をしました。OIST ブースでは逐次・同時通訳の仕事体験してもらいました。</p> <p>4129 第 6 回目の恩納村・OIST こども科学教室を開催し 112 名の児童生徒が参加しました。2010 年度からの参加累計は 496 名となりました。昨年に引き続き夏季 1 ヶ月受け入れた琉球大学のインターン学生に加え、名桜大学、沖縄キリスト教大学の学生がボランティアとして参加し教室運営を補助しました。</p> <p>4130 陶器展「北窯×OIST 伝統と科学」を 2 ヶ月に亘り開催しました。その他 8 件の琉球古典音楽、箏、クラシック音楽、オペラを開催し地域の方々に楽しんでいただきました。 また、8 月には「第 1 回 OIST 夏祭り」を恩納村、恩納村むら興し協議会、谷茶区と共同で開催し、300 名の OIST 関係者及び村民の参加を得ました。</p> <p>4131 恩納小学校と連携し、OIST 職員の子弟を対象とした英語教育プログラムを日本の教育制度の枠組みの中で実施しました。OIST 職員による英語での読み聞かせを同小学校にて実施しました。</p> <p>(その他の取組) 4132 今年度の採用 174 名に対し、29 名の沖縄県出身者を雇用しました。(事務方 22 名、ユニット 7 名)</p> <table border="1" data-bbox="1317 1369 2004 1485"> <thead> <tr> <th></th> <th>事務職他</th> <th>技術員</th> <th>研究員</th> <th>合計</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>沖縄県出身者</td> <td>147</td> <td>18</td> <td>6</td> <td>171</td> <td>24.3%</td> </tr> <tr> <td>県外</td> <td>184</td> <td>80</td> <td>270</td> <td>534</td> <td>75.7%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>331</td> <td>98</td> <td>276</td> <td>705</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table>		事務職他	技術員	研究員	合計	割合	沖縄県出身者	147	18	6	171	24.3%	県外	184	80	270	534	75.7%	合計	331	98	276	705	100.0%	
	事務職他	技術員	研究員	合計	割合																						
沖縄県出身者	147	18	6	171	24.3%																						
県外	184	80	270	534	75.7%																						
合計	331	98	276	705	100.0%																						

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>4 沖縄の自立的発展への貢献に関する事項 取組</p>	<p>4133 「沖縄産業まつり」や「沖縄 MICE コンテントレードショー」等に参加したように、引き続き、県内の主な文化的、産業的、学術的イベントに参加します。また、米国総領事館及び沖縄県と連携し、沖縄で主要な科学教育競技の一つとなっている、高校生を対象とした起業のための研究能力を競う科学イベント「SCORE」を引き続き実施します。</p> <p>4134 沖縄県及び沖縄観光コンベンションビューローと連携し、より多くの外部主催の国際会議・ワークショップが本学で開催されるよう図ります。</p>	<p>4133 「沖縄の産業まつり」「おんな祭り」「沖縄 MICE コンテントレードショー」等に参加、出展し研究成果や会議施設を紹介、また子ども向けに科学デモを行いました。第 4 回 SCORE を開催し、11 校 21 チームの応募があり 15 チームが最終選考にすすみそれぞれの科学プロジェクトを発表しました。英語で発表するチームもみられました。</p> <p>4134 会議施設を 43 件の外部イベントに提供しました。うちカンファレンス・センターの利用は 16 件ありました。「第 21 回高エネルギー及び原子核物理におけるコンピューティングに関する国際会議 (CHEP2015)」「EMBO ワークショップ Computational Biology: From Genomes to Systems」「第 43 回日本潰瘍学会」「日本計算機統計学会設立 30 周年記念国際研究集会」などです。平成 27 年度は 4,000 人を超える参加がありました。</p>	
第 5 章 キャンパス整備・大学コミュニティの形成、安全確保及び環境への配慮に関する事項			
<p>5.1 キャンパス整備 目標</p>	<p>引き続き、本学は、計画通り、キャンパスの整備を進めます。</p>		<p>A</p>
<p>5.1 キャンパス整備 取組:</p>	<p>511 既存建造物の管理・維持及び構内道路等整備を行います。</p> <p>512 技術支援棟の設計と建設を行います。</p> <p>513 キャンパス拡張の計画を開始し、必要な土木工事と第 4 研究棟の設計を行います。</p> <p>514 前年度に完了した実施設計に基づき、臨海実験施設を整備します。</p> <p>515 民間事業者とのパートナーシップの活用により、第</p>	<p>511 平成 27 年度に整備された新たな施設を含め、計画通り、既存建造物の管理・維持及び構内道路等整備を行いました。</p> <p>512 計画通り技術支援棟の建設を開始し、平成 28 年度中の完成を予定しています。</p> <p>513 将来的なキャンパス拡充のための土地整備計画が申請され、第 4 研究棟のインフラ及び道路の設計を平成 27 年度中に完了しました。建設工事は平成 28 年度に開始予定です。</p> <p>514 臨海実験施設の建設を平成 27 年度に開始しました。同施設は平成 28 年度中に完成予定です。</p> <p>515 ビレッジゾーン整備の最終段階である、イーストコ</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>5.1 キャンパス整備 取組:</p>	<p>1 期キャンパス整備でのビレッジゾーン建設を完了します。(フェーズ 3-2 として、平成 27 年度に 54 戸が完成します。)</p> <p>516 公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律(平成 12 年法律第 127 号)に基づき、引き続き、入札スケジュールや結果等の入札及び契約に係る情報の事前・事後の公開等を行い、透明性の確保を図ります。</p>	<p>一トの整備が平成 27 年度中に終わり、同施設への入居が完了し、利用されています。また、更なる宿舍施設の将来計画を進めています。</p> <p>516 全ての入札を公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律(平成 12 年法律第 127 号)に基づき実施し、透明性と公平性を維持しました。</p>	
<p>5.2 大学コミュニティの形成、子弟の教育・保育環境の向上 目標</p>	<p>職員及び学生やその家族を含む大学コミュニティの発展は、大学運営を成功させる上でも重要であることから、引き続きその推進に努めます。人員及びサービスの拡大や、リソース・センターや本設のチャイルド・ディベロップメント・センター(CDC)施設の整備により、教職員の教育及び保育環境の向上を図ります。</p>		A
<p>5.2 大学コミュニティの形成、子弟の教育・保育環境の向上 取組</p>	<p>(大学コミュニティの形成)</p> <p>521 人事やリソース・センター、がんじゅうサービスによる福利厚生プログラムの実施、内部コミュニケーションサイトの充実、生活関連情報の提供、職員やその家族による活動(OIST Welcome Club 等)、人事、リソース・センター、がんじゅうサービスによるイベントの開催等、職員を始め、その家族も含む大学コミュニティの生活水準の向上を図る取組を引き続き進めます。</p>	<p>(大学コミュニティの形成)</p> <p>521 (2407 再掲) 外部評価委員会は OIST が提供する福利厚生及び社会的・文化的支援プログラムに対し大きな感銘を受けたとしており、報告書で次のように記しています。</p> <p>「OIST は新たに雇用される人材のための支援体制の構築に非常に力を入れている。スタッフが沖縄での新生活に順応していくためには、よい住居、健康面でのサポート、カウンセリング、保育施設、リソース・センターといった支援が必要不可欠と考えられ、実際に提供されている。</p> <p>OIST は「がんじゅう」というカウンセリングサービスを設け、教職員及び学生が指導や支援を確実に受けられるようにしている。また、OIST は生後 2 か月から 6 歳の子どもを対象としたチャイルド・ディベロップメント・センター(保育施設)を設置している。更に、アフタースクールプログラム(学童プログラム)及びホリデープログラムも提供されている。</p> <p>OIST には医師と 3 名の看護師が常駐するクリニックが設置されている。軽度、又は緊急の場合はキャンパス内で診察を受け、また、島内で最適な専門家に紹介を</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>5.2 大学コミュニティの形成、子弟の教育・保育環境の向上 取組</p>		<p>受けることもできる。更に、沖縄での生活に順応できるよう、生活全般における支援や助言を提供するリソース・センターが設置されている。</p> <p>外部評価委員会は担当スタッフと会い、彼らの熱意と高い能力に感銘を受けた。支援体制とその運営について、教員、研究者、ポスドク、学生から一様に賞賛の声が聞かれた。</p> <p>こうしたリソースの設置、及び人材の配置は目を見張るものであり、高く評価する。」</p> <p>メディカルセンター、がんじゅうサービス、CDC、リソース・センターを含む福利厚生機能は、各施設間の連携をさらに高めるため、これら複数の機能をひとつの組織構造にまとめられました。各施設のリーダーは、サービスをより充実させるため、定期的に合同会合を開いています。これら全てのサービスは、OIST コミュニティ、すなわち職員、学生とその家族の誰もが利用可能な体制となっていることを強調します。家庭医療を含めた幅広い医療分野での経験を持つバイリンガル一般開業医の原医師が 2015 年 5 月から OIST で勤務しています。保健センターのマネージャーらとの緊密な連携によりクリニックを開設しました。同クリニックは 2015 年 9 月より本格的にサービスを提供しており、順調に運営されています。がんじゅうサービスには、日本人の経験豊富なカウンセラーも加わり、サポート体制の充実した職場環境の実現を推進するため、ワークショップや特別な目的に応じた会合を開催しています。英国からは世界トップクラスの睡眠／不眠症の専門家が一週間訪問し、がんじゅうサービスのスタッフによる、職員と学生向けの認知行動学に基づいた治療プログラムの確立を手伝い、また、睡眠問題に特に悩まされている学生らに十分な時間を割いたセッションを行いました。リソース・センターでは、二人目のバイリンガル職員が加わりました。同センターでは、沖縄での生活関連情報を提供し、外国人メンバ</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>5.2 大学コミュニティの形成、子弟の教育・保育環境の向上 取組</p> <p>522 クラブ申請の管理を行う OIST 公認クラブ運営グループによれば、平成 27 年度には更に多数の新しいクラブが設立されることが見込まれています。本運営グループは各クラブ申請を審査し、受理または却下、またより頻繁なケースとして、受理する上で変更を求める対応を行います。現在本学には 17 のクラブが設立されています。このようなクラブ活動は、本学の社会的結束を高めるため重要な役割を担っています。</p> <p>523 平成 26 年度に、他大学や他研究機関における同様な取り組みを調査し、掘り下げた議論を行った結果、「レジストレーション（受入支援）・デスク」と呼ばれる、本学に来訪する研究員や科目等履修生のための窓口を設けるという提案が本学執行部メンバーに提示されました。レジストレーション・デスク担当者は、増加している本学に来訪する研究員が適切に登録され、本学データベース及び手続き上に確実に組み込まれるようにします。レジストレーション・デスクは平成 27 年 4 月 1 日の開設が予定され、現在本学に来訪する研究員の対応を担当している複数</p>		<p>一に向けて、日本語のウェブサイトやチラシに掲載されている情報の理解を手助けしています。HR の赴任サポートチームは、非常に効果的かつ効率的に機能しており、新たに着任するすべての職員や学生から高く評価・感謝されています。</p> <p>日本語を話さない家族の児童の就学前・初等中等教育については、現在も困難な状況であり、よりよい解決策に向けた進捗は芳しくありません。リソース・センターでは、配偶者の就職を支援していますが、日本語を話さない配偶者やパートナーの就職先を見つけることは、現在も大きな課題となっています。教職の経験を持っている者については、CDC でパートタイムの職に就くことができます。</p> <p>522 平成 27 年度には、下記の 5 つのクラブが新規に設立されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● カンバセーションクラブ ● ボリウッドダンスクラブ ● コンピューター・サイエンスクラブ ● SOCKs（沖縄の野良猫を救う）クラブ ● 模擬国連・ディベートクラブ <p>上記全てのクラブは OIST 公認クラブ運営グループによって承認されました。このようにクラブの数は増加しており、多種多様な活動を行っています。クラブ活動は本学の社会的結束を高めるため重要な役割を担っています。</p> <p>523 平成 27 年 4 月 1 日に開設されたレジストレーション・デスクは本学に来訪する研究員及び招聘ゲストの受入支援を始めました。各研究ユニットの客員研究員、招聘ゲストに関し、招聘プロセスを確実にかつ効率よく遂行すべく、コーディネーション業務を行いました。客員研究員、招聘ゲストの計 289 名をデータベースに登録し管理を行いました。</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>5.2 大学コミュニティの形成、子弟の教育・保育環境の向上 取組</p> <p>の組織の業務の統合・改善に大きく貢献します。 (子弟の教育・保育環境) 524 拡大された近代的な本設の CDC 施設を活用し、引き続き質の高い、完全なバイリンガルの保育、学童保育及びホリデープログラムを適切な受益者負担のもと提供します。CDC 運営委員会は、引き続き四半期に一度会議を開くとともに、CDC 財務委員会会議を別途行うことにより、園の予算について厳重な注意が常に払われるよう徹底します。</p>		<p>(子弟の教育・保育環境) 524 引き続き、未就学児の保育施設(てだこ)、学童向けのアフタースクール、及びホリデープログラムにより、年齢に応じた完全にバイリンガルなプログラムを提供しています。「てだこ」は、生後 2 カ月から 6 歳までの未就学児童を対象としたプログラムを提供し、運営時間は月曜日から金曜日の 8:00-18:00 となっています。新たに建設された施設が本プログラムに大いに貢献し、2015 年度には受け入れ人数が 30%以上増加しました。アフタースクールプログラムは 5-12 歳の学童を対象に月曜日-金曜日の 15:30-18:00 であり、各小学校から送迎された子供たちを対象に、2 名の教員が宿題の手助けや学校教育を補完する教育活動を行っています。また、5-12 歳の学童を対象として、OIST の運営日に小学校が休みとなる期間中にホリデープログラムを提供しています(春休み・夏休み、米国暦年の祝日)。本プログラムの時間は 8:00-18:00 であり、保護者が仕事をしている間、キャンパスで子供たちを預かっており、年間で 70 日間運営されています。 いずれのプログラムも 2015 年度に大幅に成長しました。未就学児を対象とした「てだこ」に通う児童は 72 名から 100 名に増加、アフタースクールプログラムは 16 名から 20 名に増加、ホリデープログラムは 27 名から 30 名に増加しました。 2015 年度には、CDC 運営委員会の会合が 2 回開催されました(2015 年 12 月、及び 2016 年 3 月)。また、CDC の予算委員会は、2015 年度に 3 回開催されました(2015 年 5 月、6 月、2016 年 2 月)。CDC 運営委員会のメンバーは以下の通りです。 エグゼクティブより：高梨桂治副学長(財務担当)、久保真季副学長(アドミニストレイティブ・コンプライアンス担当)、アリ・ガンジロー副学長(施設管理担当)、ニール・コールダー副学長(広報担当)(議長)、ジェフ・ウィッケンス研究科長、マチ・ディルワース副学長(男女共同参画・人事担当)、杉山(矢崎)陽子准教授(教員代表)、ジュリア・ナブホズ CDC ディレクター</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>5.2 大学コミュニティの形成、子弟の教育・保育環境の向上 取組</p> <p>525 沖縄県や恩納村等の関係する地方公共団体と連携・協力し、英語による教育を受ける機会の拡大等、教職員及び学生の子弟の教育環境の向上を図るための取組を進めます。</p> <p>526 恩納小学校との共同プログラムにより、職員の子弟に対して日本の教育システムの下での英語による教育を提供します。</p> <p>527 平成 27 年度には、職員とその家族に対して提供される英語及び日本語クラスの数を増やします。語学訓練への需要は非常に高く、英語と日本語におけるコミュニケーション能力は本学の成功の土台です。(再掲。2.4 参照)</p>		<p>OIST チャイルドケア・アソシエーションより：ファデル・サマテ 准教授、レネー・ドーファン、ザカリ・タウフィック、クワン・シャオ、喜屋武奈央子、アグネシュカ・ドビンスカ。</p> <p>CDC 運営委員会のメンバーの変更が 2016 年度に予定されています。</p> <p>CDC 予算委員会のメンバー：高梨桂治、久保真季、アリ・ガンジロー、ニール・コールダー（議長）、杉山（矢崎）陽子、ジュリア・ナブホズ、ザカリ・タウフィック。</p> <p>料金体系は引き続き、運営費の一部を補う形となっています。</p> <p>525 着任する外国籍の教員や研究員、学生、職員の数が増えているため、その子弟に英語による教育を受ける機会を提供することは、沖縄での生活の質を左右する非常に重要な事柄です。AMICUS とは継続してディスカッションが行われており、また県内の他のインターナショナルスクール（小学校・中学校）の可能性も模索しています。</p> <p>526 恩納小学校との共同プログラムは継続して提供されています。</p> <p>527 (再掲)平成 27 年度、英語コースの受講者数は計 431 名、30 のコースが開催されました。研究科との協力のもと 10 回に及ぶポスター発表の授業を開催しました。サイエンスチャレンジワークショップでは 28 名の学部生に対しプレゼンテーションスキルの向上と英語の授業を行い、また英語講師がコンテストの審査員として参加しました。</p> <p>球陽高校の生徒にプレゼンテーションスキルの向上の授業を行い、サイエンスプレゼンテーションコンテストでの優勝に貢献しました。また、科学のポスター発表についての授業も行いました。</p> <p>沖縄キリスト教学院大学の学生にサイエンス英語の授業を行いました。</p>	

平成 27 年度事業計画	指標	平成 27 年度業績	自己評価
<p>5.2 大学コミュニティの形成、子弟の教育・保育環境の向上 取組</p>		<p>研修・人材育成チームとの協力のもと、パーフェクトEメール(2回)、パーフェクトEメールワークショップ(1回)、よくある英語エラー(2回)、卓越したプレゼンテーション(2回)、NEOのためのプレゼンテーションスキル(2回)のワークショップを行いました。新入職員オリエンテーション見直しに関し向上のための指導を行いました。翻訳、編集、採用面接に関するサポートを様々なディビジョンに対して行いました。</p> <p>OISTは2名の常勤英語講師を雇用しています。両講師ともアジア教育学会に参加しました。</p> <p>日本語コースにおいては、OISTは1名の常勤講師を採用し、受講人数は計513名、3学期を通して39のコースを開催しました。</p> <p>学生支援セクションのサポートとして、サバイバルコースが2コース、ブッシュユニットのワークショップではサバイバルコースが1度開催されました。</p>	
	<p>(学生支援) 528 学生に対し、良好な社会的・心理的な環境を提供するため、福利厚生を含む様々な支援活動を推進します。(1.1参照)</p> <p>529 スポーツやレクリエーションの機会を増加させることにより、環境を改善します。</p>	<p>(学生支援) 528 ・学生支援： -県内の他大学に在籍する学生から、ピア・メンター・プログラムを通し日常生活に関する支援が継続して提供されました。 ・全般的な生活支援： - 沖縄美ら海水族館や今帰仁城跡、ナゴパイナップルパーク、首里城、国際通りなどへの見学をおこないました。 - 県内の学生との交流会を企画・開催しました。 -立命館アジア太平洋大学、九州大学、琉球大学等他大学からの学生訪問を推進しました。</p> <p>529 スポーツやレクリエーション施設の計画を開始し、同施設の資金調達に関する検討を進めています。</p>	
<p>5.3 安全の確保及び環境への配慮 目標 (1)</p>	<p>リスクマネジメントの取組を行うとともに、災害から教職員、学生、訪問者等を守るため、必要な防災対策を実施します。</p>		A

平成 27 年度事業計画		指標	平成 27 年度業績	自己評価
5.3 安全の確保及び環境への配慮 取組 (1)	531 引き続き、大学運営に関する様々なリスクに対応するためのリスクマネジメント計画を策定します。 532 職員や学生に対し、安全に関する必要な研修を実施します。 533 恩納村とも協力しながら、災害に強いキャンパス作りを進め、災害の際にはキャンパス施設を近隣住民の避難場所として提供します。		531 関連部署と連携して、リスクマネジメントの取り組みを継続して進めています。 532 関連部署と連携して、火事や実験室の利用等における安全の確保に関するプログラムを実施しました。 533 地震に備える訓練を継続的に実施しています。また、災害時における地元との連携を促進するために、恩納村（谷茶区）と協力を進めています。	
5.3 安全の確保及び環境への配慮 目標 (2)	環境に配慮しながら事業を実施します。			A
5.3 安全の確保及び環境への配慮 取組 (2)	534 リサイクル製品の使用を推進します。 535 引き続き、温室効果ガス排出量とエネルギー消費を把握し、その抑制に努めます。 536 水の再利用システムの適切な運用管理により、周辺水域への環境負荷の低減に努めます。また併せて地下水への影響が無いようにします。 537 施設整備に伴う各種建設工事においては、濁水プラント施設を設置するなど、赤土流出対策を十分に行います。 538 生態系の維持や固有生物種の保護に資するようキャンパス施設・敷地の管理を行います。		534 関連部署と連携し、引き続きリサイクル製品の使用を推進する取り組みを実施しました。 535 温室効果ガスの排出量を抑えるために、コンサルタントの力を借りて、現在の運営を評価し、抑制に向けた取り組みを継続して実施しました。 536 年度を通してメインキャンパスとシーサイドキャンパスをモニターし、周辺水域への環境負担の低減に向けた取り組みを実施しました。 537 キャンパスにおける建設工事の全てに環境アセスメントのコンサルタントや専門家が携わることで、十分な赤土流出対策を実施しました。 538 在来種を保護するために、外来種の除草を継続的に実施し、固有生物種の保護に努めています。	

平成27年度 業務実績報告 添付資料リスト

No.	File #	資料名
1	#1.1-1	学生に関する情報
2	#1.2-1	平成27年度 OIST論文・発表数
3	#1.2-2	平成27年度 研究に関する受賞実績
4	#1.2-3	平成27年度 アウトリーチ活動実績
5	#1.4-1	学術交流協定一覧
6	#1.4-2	平成27年度 OIST主催によるワークショップ・ミニシンポジウム
7	#2.4-1	平成27年度 職位毎・国籍別職員数
8	#2.4-2	平成27年度 職員の給与水準
9	#2.4-3	平成27年度 研修の受講職員数
10	#3-1	外部資金・寄附金獲得状況
11	#4-1	平成27年度 受託研究等(産学連携)及びイベント
12	#4-2	特許出願状況

	応募数	アドミッションワーク ショップ参加者数	合格通知数	入学者数	男性数	女性数	年齢層	国籍	分野	学士号	修士号	出身大学
	2012年生	208	92	49	34	24	10	23 (1)	バングラディッシュ(1)	生物学 (12)	16	18
24 (4)								中国 (5)	生体医学(2)	インディアン・インスティテュート・オブ・テクノロジー・カラグブル (1)		
25 (4)								エジプト (2)	化学 (1)	イエール大学 (1)		
26 (3)								エストニア (1)	情報科学 (2)	ウォーリック大学 (1)		
27 (5)								ドイツ (4)	工学 (8)	国立東華大学 (1)		
28 (4)								インド (2)	数学 (2)	慶応大学 (1)		
29 (3)								アイルランド (2)	物理学 (7)	新疆大学 (1)		
30 (2)								日本 (5)		オスナブリュック大学 (2)		
31 (2)								リトアニア (1)		アバディーン大学 (1)		
33 (3)								マレーシア (1)		カイロ・アメリカン大学 (1)		
34 (1)								ナイジェリア (1)		An-Najah National University (1)		
35 (1)								パキスタン (1)		タルトゥ大学 (1)		
41 (1)								フィリピン (1)		セント・アンドルーズ大学 (1)		
								台湾 (1)		シンガポール国立大学 (1)		
平均 (28.3)								英国 (1)		ヤーコブス大学(1)		
								米国 (3)		ロチェスター工科大学 (1)		
								ザンビア (1)		グラム・アイシャク・カーン・インスティテュート・オブ・エンジニアリング・サイエ ンシズ・アンド・テクノロジー (1)		
								ウエストバンク (1)		電子科技大学 (1)		
										中国科学技術大学 (1)		
										Anna University (1)		
			京都大学 (1)									
			ドレスデン工科大学 (1)									
			名桜大学 (1)									
			南京大学 (1)									
			東京大学 (1)									
			琉球大学 (1)									
			廈門大学 (1)									
			カリフォルニア大学サンタクルーズ校 (1)									
			Xishuangbanna Tropical Botanical Garden (1)									
			Alexandria University (1)									
			情報科学芸術大学院大学 (1)									
			早稲田大学 (1)									
2013年生	398	72	41	20	15	5	23 (3)	日本 (5)	生物学 (10)	10	10	ケンブリッジ大学 (1)
							24 (2)	台湾 (3)	工学 (3)			グラスゴー大学 (1)
							25 (4)	中国 (2)	物理学 (4)			国立台湾大学 (1)
							26 (2)	ニュージーランド (2)	数学 (1)			モスクワ大学 (1)
							27 (4)	インド (1)	情報科学 (2)			オタゴ大学 (1)
							28 (1)	カザフスタン (1)				国立台湾大学 (1)
							31 (2)	ドイツ (1)				東京大学 (1)
							37 (1)	米国 (1)				ジョージ・ワシントン大学 (1)
							40 (1)	バングラディッシュ (1)				オークランド大学 (1)
								フランス (1)				カリフォルニア州立大学ロングビーチ校 (1)
							平均 (27.2)	ベルギー (1)				南京大学 (1)
								キプロス (1)				リエージュ大学 (1)
												コーネル大学 (1)
												チューリッヒ大学 (1)
												パリ第11大学 (1)
												Jahangirnagar University (1)
												北里大学 (1)
												ドレスデン工科大学 (1)
												国立清華大学 (1)
												エディンバラ大学 (1)

	応募数	アドミッションワーク ショップ参加者数	合格者数	入学者数	男性数	女性数	年齢層	国籍	分野	学士号	修士号	出身大学
	2014年生	231	69	40	27	15	12	21 (1) 22 (6) 23 (5) 24 (3) 25 (2) 26 (2) 27 (2) 28 (2) 29 (2) 30 (1) 31 (1) 平均 (24.9)	中国 (2) エストニア (1) エジプト (1) ドイツ (3) インド (4) イスラエル (1) 日本 (6) モーリシャス (1) 台湾 (1) 英国 (1) 米国 (6)	生物学 (12) 化学 (2) 情報科学 (1) 地球科学 (1) 工学 (1) 物理学 (10)	12	15
2015年生	294	86	54	24	17	7	21 (2) 22 (1) 23 (4) 24 (2) 25 (1) 26 (6) 27 (3) 29 (1) 31 (2) 33 (1) 35 (1) 平均 (26.0)	インド (4) 日本 (2) イラン (2) ロシア (2) 台湾 (2) 米国 (2) ルーマニア (1) ドイツ (1) カナダ (1) マレーシア (1) 中国 (1) デンマーク (1) エジプト (1) フィリピン (1) カザフスタン (1) 英国 (1)	生物学 (7) 生体医学 (3) 化学 (3) 情報科学 (1) 工学 (1) 物理学 (9)	5	19	御茶ノ水大学 (1) テヘラン大学 (1) Sholokhov Moscow State Univ. for Humanities, Russia (2) オーフス大学 (1) 国立陽明大学 (1) ザ・ユニバーシティ・オブ・ゲルフ・アーボリータム (1) ライス大学 (1) スキッドモア大学 (1) オックスフォード大学 (1) ライン・フリードリヒ・ヴィルヘルム大学ボン (1) Université de Montréal (1) Jagiellonian University Medical College (1) 中国薬科大学 (1) マハラジャ・サヤジラオ大学 (1) Faculty of Pharmacy, Ain-shams University (1) ザ・フィリピンズ大学 (1) サセックス大学 (1) 国立台湾大学 (1) インディアン・インスティテュート・オブ・サイエンス・エデュケーション・アンド・リサーチ・コルカタ (3) Nazarbayev University (1) アバディーン大学 (1)

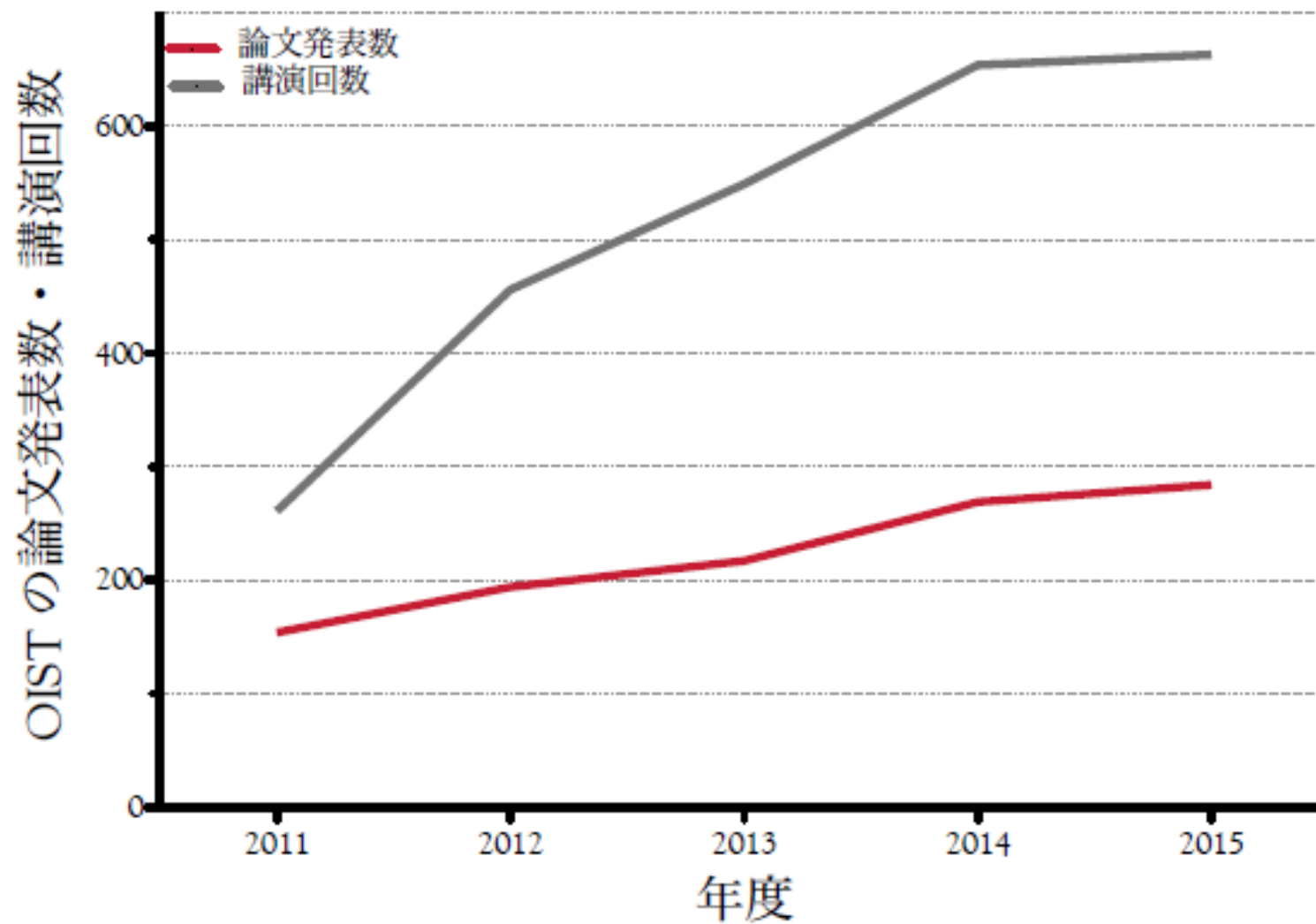
平成27年度 OIST論文発表数・講演回数(研究ユニット別)

	書籍	分担執筆 & 論文	講演回数	その他	研究ユニット別の 合計
Arbuthnott	0	4	10	0	14
Bandi	0	7	27	0	34
Busch	0	12	23	0	35
Chakraborty	0	3	12	0	15
Dani	0	9	16	0	25
De Schutter	0	10	17	0	27
Doya	0	9	86	0	95
Economo	0	16	7	0	23
Fried	0	10	23	0	33
Gioia	0	1	10	0	11
Goryanin	0	4	4	0	8
Hikami	0	2	13	2	17
Ishikawa	0	0	4	0	4
Jenke-Kodama	0	3	7	0	10
Khusnutdinova	0	1	2	0	3
Kitano	0	17	29	8	54
Konstantinov	0	5	4	0	9
Kuhn	0	0	18	0	18
Kusumi (new)	0	0	0	0	0
Luscombe	0	5	1	0	6
Marquez-Lago	0	4	0	0	4
Maruyama	0	2	7	0	9
Masai	0	2	9	0	11
Mikheyev	0	12	4	0	16
Miller	0	1	0	0	1
Mitarai	0	4	7	0	11

Nic Chormaic	0	19	50	0	69
Price	0	3	2	0	5
Qi	0	12	22	0	34
Research Support Div.	0	0	3	0	3
Rokhsar	0	5	7	0	12
Samatey	0	1	2	0	3
Satoh	1	22	48	0	71
Saze	0	6	9	0	15
Science & Technology Gr.	0	5	14	0	19
Shannon	0	10	32	0	42
Shen	0	12	28	0	40
Shintake	0	0	7	0	7
Sinclair	0	2	6	0	8
Skoglund	0	3	8	1	12
Sowwan	0	11	4	0	15
Stephens	0	1	9	1	11
Sugawara	0	3	0	0	3
Takahashi	0	2	12	0	14
Tanaka	0	4	12	0	16
Tripp	0	1	8	0	9
Van Vactor	0	1	7	0	8
Watanabe (new)	0	0	0	0	0
Wickens	0	2	18	0	20
Wolf	0	0	8	0	8
Yamamoto	0	8	16	0	24
Yanagida	1	5	18	0	24
Yazaki-Sugiyama	0	2	11	0	13
Yokobayashi	0	1	1	0	2
Zhang	0	1	2	0	3
Totals	2	285	704	12	1003

平成 27 年度 OIST 論文・発表数

OIST journal publications and presentations by year since FY2011



Journal Articles Published by OIST in FY2015

- 1 Abad, M. Persistent currents in coherently coupled Bose-Einstein condensates in a ring trap. *Physical Review A* **93**, 033603, doi:10.1103/PhysRevA.93.033603 (2016).
- 2 Abdurakhimov, L. V., Bunkov, Y. & Konstantinov, D. Normal-Mode Splitting in the Coupled System of Hybridized Nuclear Magnons and Microwave Photons. *Phys Rev Lett* **114**, 226402, doi:http://dx.doi.org/10.1103/PhysRevLett.114.226402 (2015).
- 3 Agmon, E., Gates, A. J., Churavy, V. & Beer, R. D. Exploring the space of viable configurations in a model of metabolism-boundary co-construction. *Artif Life*, 1-19, doi:http://doi.dx.org/10.1162/ARTL_a_00196 (2016).
- 4 Aird, S. D. *et al.* Snake venoms are integrated systems, but abundant venom proteins evolve more rapidly. *BMC Genomics* **2015**, 647, doi:http:dx.doi.org/10.1186/s12864-015-1832-6 (2015).
- 5 Aird, S. D. & Silva Jr., N. J. in *As Cobras Corais do Brasil: Biologia, Taxonomia, Veneno e Envenenamentos* (ed Nelson Jorge Silva Jr.) Ch. VI, 234-293 (Editora PUC Goiás, 2016).
- 6 Akagi, Y. & Motome, Y. Spontaneous formation of kagome network and Dirac half-semimetal on a triangular lattice. *Physical Review B* **91**, 155132, doi:http://dx.doi.org/10.1103/PhysRevB.91.155132 (2015).
- 7 Akhouri, R., R, Goel, S., Furusho, H., Skoglund, U. & Wahlgren, M. Architecture of Human IgM in Complex with *P. falciparum* Erythrocyte Membrane Protein 1. *Cell Reports* (2016).
- 8 Albertin, C. B. *et al.* The octopus genome and the evolution of cephalopod neural and morphological novelties. *Nature* **524**, 220+, doi:10.1038/nature14668 (2015).
- 9 Alie, A. *et al.* The ancestral gene repertoire of animal stem cells. *Proc Natl Acad Sci USA* **112**, E7093-7100, doi:10.1073/pnas.1514789112 (2015).
- 10 Amemiya, T. *et al.* Elucidation of the molecular mechanisms underlying adverse reactions associated with a kinase inhibitor using systems toxicology. *npj Systems Biology and Applications* **1**, doi:10.1038/npjbsa.2015.5, (2015).
- 11 Amgad, M., Itoh, A. & Tsui, M. M. Extending Ripley's K-Function to Quantify Aggregation in 2-D Grayscale Images. *PLoS One* **10**, e0144404, doi:10.1371/journal.pone.0144404 (2015).
- 12 Amgad, M., Tsui, M. K. M., Liptrott, S. J. & Shash, E. Medical Student Research: An Integrated Mixed-Methods Systematic Review and Meta-Analysis. *PLoS One* **18**, 1 to 31, doi:http://dx.doi.org/10.1371 (2015).

- 13 Aoki, S., Liu, A. W., Zucca, A., Zucca, S. & Wickens, J. R. Role of Striatal Cholinergic Interneurons in Set-Shifting in the Rat. *Journal of Neuroscience* **35**, 9424-9431, doi:http://dx.doi.org/10.1523/JNEUROSCI.0490-15.2015 (2015).
- 14 Aratake, S. *et al.* Distribution of palytoxin in coral reef organisms living in close proximity to an aggregation of *Palythoa tuberculosa*. *Toxicon* **111**, 86-90, doi:http://dx.doi.org/10.1016/j.toxicon.2015.12.004 (2016).
- 15 Asai, Y., Abe, T. & Kitano, H. in *Journal of Pharmacological Sciences* Vol. 147 日本薬理学雑誌 114-119 (2016).
- 16 Asai, Y., Abe, T. & Kitano, H. in *SEIBUTSU BUTSURI* Vol. 56 生物物理 120-124 (2016).
- 17 Asai, Y. *et al.* Databases for multilevel biophysiology research available at Physiome.jp. *Frontiers in physiology* **6**, 251, doi:10.3389/fphys.2015.00251 (2015).
- 18 Asai, Y., Abe, T., Nomura, T. & Kitano, H. in *Medical and Biological Engineering* Vol. 53 生体医工学 144-150 (2015).
- 19 Badrutdinov, A., Abdurakhimov, L. V. & Konstantinov, D. Collective Excitations in a Two-Dimensional Electron System on Liquid Helium-4 under Cyclotron Resonant Condition. *Journal of the Physical Society of Japan* **84**, 053601, doi:http://dx.doi.org/10.7566/JPSJ.84.053601 (2015).
- 20 Bai, Y. *et al.* Structural basis for inhibition of the Tob-CNOT7 interaction by a fragment screening approach. *Protein and Cell* **in press** (2015).
- 21 Balleine, B., Dezfouli, A., Ito, M. & Doya, K. Hierarchical control of goal-directed action in the cortical-basal ganglia network. *Science Direct* **5**, 1-7, doi:doi:10.1016/j.cobeha.2015.06.001 (2015).
- 22 Barker, C. S., Inoue, T., Meshcheryakova, I. V., Kitanobo, S. & Samatey, F. A. Function of the conserved FHIPEP domain of the flagellar type III export apparatus, protein FlhA. *Molecular microbiology* **100**, 278-288, doi:10.1111/mmi.13315 (2016).
- 23 Beedessee, B., Hisata, K., Roy, M. C., Satoh, N. & Shoguchi, E. Multifunctional polyketide synthase genes identified by genomic survey of the symbiotic dinoflagellate, *Symbiodinium minutum*. *BMC Genomics* **16**, 941, doi:10.1186/s12864-015-2195-8 (2015).
- 24 Bel, G., Connaughton, C., Toots, M. & M., B. M. Grid-scale fluctuations and forecast error in wind power. *New Journal of Physics* **18**, 023015, doi:http://dx.doi.org/10.1088/1367-2630/18/2/023015 (2016).
- 25 Benseny, A., Gillet, J. & Busch, T. Spatial adiabatic passage via interaction-induced band separation. *Physical Review A* **93**, 033629, doi:10.1103/PhysRevA.93.033629 (2016).
- 26 Benton, J. O. & Shannon, N. Ground State Selection and Spin-Liquid Behaviour in the Classical Heisenberg Model on the Breathing Pyrochlore Lattice. *Journal of the Physical Society of Japan* **84**, 11, doi:http://dx.doi.org/10.7566/JPSJ.84.104710 (2015).

- 27 Benton, J. O., Sikora, O. & Shannon, N. Classical and quantum theories of proton disorder in hexagonal water ice. *Physical Review B* **93**, 32, doi:10.1103/PhysRevB.93.125143 (2016).
- 28 Bharti, H., Guenard, B., Bharti, M. & Economo, E. P. An updated checklist of the ants of India with their specific distributions in Indian states (Hymenoptera, Formicidae). *Zookeys*, 1-83, doi:10.3897/zookeys.551.6767 (2016).
- 29 Bilgin, I. *et al.* Chemical Vapor Deposition Synthesized Atomically Thin Molybdenum Disulfide with Optoelectronic-Grade Crystalline Quality. *ACS Nano* **9**, 8822-8832, doi:10.1021/acsnano.5b02019 (2015).
- 30 Biria, A. & Fried, E. Theoretical and experimental study of the stability of a soap film spanning a flexible loop. *International Journal of Engineering Science* **94**, 86-102, doi:http://dx.doi.org/10.1016/j.ijengsci.2015.05.002 (2015).
- 31 Bohra, M. *et al.* Surface Segregation in Chromium-Doped NiCr Alloy Nanoparticles and Its Effect on Their Magnetic Behavior. *Chemistry of Materials* **27**, 3216-3225, doi:http://dx.doi.org/10.1021/acs.chemmater.5b00837 (2015).
- 32 Bohra, M. *et al.* Control of Surface Segregation in Bimetallic NiCr Nanoalloys Immersed in Ag Ma. *Scientific Reports*, doi:10.1038/srep19153 (2016).
- 33 Brézin, E. & Hikami, S. Random matrix, singularities and open/close intersection numbers. *Journal of Physics A: Mathematical and Theoretical* **48**, 45 (2015).
- 34 Bürger, V. *et al.* in *Colloid Process Engineering* (ed Matthias Kind · Wolfgang Peukert Heinz Rehage · Heike P. Schuchmann Editors) Ch. 7, pp145 - 173 (Springer International Publishing, 2015).
- 35 Caligiore, D. *et al.* Consensus Paper: Towards a Systems-Level View of Cerebellar Function: the Interplay Between Cerebellum, Basal Ganglia, and Cortex. doi:10.1007/s12311-016-0763-3 (2016).
- 36 Cardiel, J. J., Furusho, H., Skoglund, U. & Shen, A. Q. Formation of crystal-like structures and branched networks from nonionic spherical micelles. *Scientific Reports* **5**, 17941, doi:10.1038/srep17941 (2015).
- 37 Carrillo-Reid, L., Lopez-Huerta, V. G., Garcia-Munoz, M., Theiss, S. & Arbuthnott, G. W. Cell Assembly Signatures Defined By Short-Term Synaptic Plasticity In Cortical Networks. *International Journal of Neural Systems* **25**, 1550026-1550021 - 1550026-1550018, doi:10.1142/S0129065715500264 (2015).
- 38 Cerbus, R. T. & Goldburg, W. I. Predicting two-dimensional turbulence. *Physical Review E* **91**, doi:ARTN 043003 DOI 10.1103/PhysRevE.91.043003 (2015).
- 39 Chaleckis, R., Murakami, I., Takada, J., Kondoh, H. & Yanagida, M. Individual variability in human blood metabolites identifies age-related differences. *Proc Natl Acad Sci USA*, doi:10.1073/pnas.1603023113 (2016).

- 40 Chen, W., Shu, Z., Gao, D. & Shen, A. Q. Sensing and sensibility: single-islet-based quality control assay of cryopreserved pancreatic islets with functionalized hydrogel microcapsules, *Advanced Healthcare Materials*. *Advanced Healthcare Materials* **5**, 223-231, doi:10.1002/adhm.201500515 (2015).
- 41 Chepelianskii, A. D., Watanabe, M., Nasyedkin, K., Kono, K. & Konstantinov, D. An Incompressible State of a Photo-Excited Electron Gas. *Nature Communications* **6**, 7210 (2015).
- 42 Close, T. G. *et al.* Fourier Tract Sampling (FouTS): A framework for improved inference of white matter tracts from diffusion MRI by explicitly modelling tract volume. *Neuroimage* **120**, 412-427, doi:http://dx.doi.org/10.1016/j.neuroimage.2015.05.090 (2015).
- 43 Clouse, R. M. *et al.* Molecular phylogeny of Indo-Pacific carpenter ants (Hymenoptera: Formicidae, Camponotus) reveals waves of dispersal and colonization from diverse source areas. *Cladistics* **31**, 424-437, doi:10.1111/cla.12099 (2015).
- 44 Coffill, C. R. *et al.* The p53-Mdm2 interaction and the E3 ligase activity of Mdm2/Mdm4 are conserved from lampreys to humans. *Gene Dev* **30**, 281-292, doi:http://dx.doi.org/10.1101/gad.274118.115 (2016).
- 45 Cohen, M. F., Gurung, S., Birarda, G., Holman, H. Y. N. & Yamasaki, H. Bimodal effect of hydrogen peroxide and oxidative events in nitrite-induced rapid root abscission by the water fern *Azolla pinnata*. *Front Plant Sci* **6**, doi:10.3389/Fpls.2015.00518 (2015).
- 46 Crocker, J., Ilsley, G. R. & Stern, D. L. Quantitatively predictable control of *Drosophila* transcriptional enhancers in vivo with engineered transcription factors. *Nature Genetics* **48**, 292-298, doi:doi:10.1038/ng.3509 (2016).
- 47 Cui, H.-L., Chouthaiwale, P. V., Yin, F. & Tanaka, F. Reaction-based mechanistic investigations of asymmetric hetero-Diels-Alder reactions of enones with isatins catalyzed by amine-based three-component catalyst systems. *Asian Journal of Organic Chemistry*, doi:10.1002/ajoc.201500412. (2015).
- 48 Cui, H.-L., Chouthaiwale, P. V., Yin, F. & Tanaka, F. Catalytic asymmetric hetero-Diels-Alder reactions of enones with isatins to access functionalized spirooxindole tetrahydropyrans: Scope, derivatization, and discovery of bioactives. *Organic & Biomolecular Chemistry*, doi:10.1039/C5OB02393A (2015).
- 49 Daly, M., Sergides, M. & Nic Chormaic, S. Optical trapping and manipulation of micrometer and submicrometer particles. *Laser & Photonics Reviews* **9**, 309-329, doi:http://dx.doi.org/10.1002/lpor201500006 (2015).
- 50 Daly, M., Troung, V. G. & Nic Chormaic, S. Nanostructured tapered optical fibers for particle trapping. *SPIE Proceedings, Micro-structured and Specialty Optical Fibres IV* **9507**, 95070E, doi:http://dx.doi.org/10.1117/12.2182340 (2015).
- 51 Daly, M., Truong, V. G. & Nic Chormaic, S. Submicron particle manipulation using slotted tapered optical fibers. *SPIE Proceedings, Optical Trapping and Optical Micromanipulation XII* **9548**, 954812, doi:10.1117/12.2189168 (2015).

- 52 Das, T., Lookman, T. & Bandi, M. M. A minimal description of morphological hierarchy in two-dimensional aggregates. *The Royal Society of Chemistry*, doi:http://dx.doi.org/10.1039/C5SM01222H (2015).
- 53 Das, T., Lookman, T. & Bandi, M. M. A minimal description of morphological hierarchy in two-dimensional aggregates. *Soft Matter* **11**, 6740, doi:10.1039/C5SM01222H (2015).
- 54 De Schutter, E. The Missing Piece of the Puzzle: Neuroinformatics at the Bench. *Neuroinformatics* **13**, 131-132, doi:http://dx.doi.org/10.1007/S12021-015-9268-3 (2015).
- 55 De Schutter, E. Neuroinformatics for Degenerate Brains. *Neuroinformatics* **14**, 1-3, doi:10.1007/s12021-015-9294-1 (2016).
- 56 Deckoff-Jones, S. *et al.* Observing the interplay between surface and bulk optical nonlinearities in thin van der Waals crystals. *Scientific Reports* **6**, doi:http://dx.doi.org/10.1038/srep22620 (2016).
- 57 Denton, J. A., Ghosh, A. & Márquez-Lago, T. T. Asymmetrical Inheritance of Plasmids Depends on Dynamic Cellular Geometry and Volume Exclusion Effects. *PLoS One* **10**, e0139443, doi:10.1371/journal.pone.0139443 (2015).
- 58 Detree, C. *et al.* Multiple I-Type Lysozymes in the Hydrothermal Vent Mussel *Bathymodiolus azoricus* and Their Role in Symbiotic Plasticity. *Plos One* **11**, doi:10.1371/journal.pone.0148988 (2016).
- 59 Dimitrov, D. *et al.* Reconstitution of Giant Mammalian Synapses in Culture for Molecular Functional and Imaging Studies. *J Neurosci* **36**, 3600-3610, doi:10.1523/JNEUROSCI.3869-15.2016 (2016).
- 60 Economo, E., Hong, L. & Page, S. E. Social Structure, Endogenous Diversity, and Collective Accuracy. *Journal of Economic Behavior & Organization*, doi:10.1016/j.jebo.2016.01.003 (2016).
- 61 Economo, E. P. *et al.* Breaking out of biogeographical modules: range expansion and taxon cycles in the hyperdiverse ant genus Pheidole. *Journal of Biogeography*, doi:10.1111/jbi.12592 (2015).
- 62 Eguchi, H. *et al.* A magnetic anti-cancer compound for magnet-guided delivery and magnetic resonance imaging. *Scientific Reports* **5**, doi:http://dx.doi.org/10.1038/srep09194 (2015).
- 63 Fang, C., Lee, D., Stober, B., Fuller, G. G. & Shen, A. Q. Integrated microfluidic platform for instantaneous flow and localized temperature control. *RSC Advances* **5**, 85620-85629, doi:10.1039/c5ra19944a (2015).
- 64 Fischer, G., Azorsa, F. L., Hita Garcia, F., Mikheyev, A. & Economo, E. P. Two new phragmotic ant species from Africa: morphology and next-generation sequencing solve a caste association problem in the genus *Carebara* Westwood. *ZooKeys* **525**, 77-105, doi:10.3897/zookeys.525.6057 (2015).
- 65 Fisher, B. L., Guénard, B. & Robson, S. Borneo, fANTastique! *ASIAN MYRMECOLOGY* **7**, 171 - 174 (2015).
- 66 Fried, E. & Jabbour, M. Sessile drops: spreading versus evaporation-condensation. *Z. Angew. Math. Phys.* **66**, 1037-1059, doi:http://dx.doi.org/10.1007/s00033-014-0424-7 (2015).

- 67 Fried, E. & Jabbour, M. Sessile drops: spreading versus evaporation–condensation *Z. Angew. Math. Phys.* **66**, 1037-1059, doi:http://dx.doi.org/10.1007/s00033-014-0424-7 (2015).
- 68 Funamizu, A., Ito, M., Doya, K., Kanzaki, R. & Takahashi, H. Condition interference in rats performing a choice task with switched variable- and fixed-reward conditions. *Front Neurosci* **9**, doi:http://dx.doi.org/10.3389/fnins.2015.00027. eCollection 2015. (2015).
- 69 Gallimore, A. Restructuring consciousness - the psychedelic state in light of integrated information theory. *Frontiers in Human Neuroscience* **9**, 1-16, doi:http://dx.doi.org/10.3389/fnhum.2015.00346 (2015).
- 70 Gallimore, A. R., Aricescu, A. R., Yuzaki, M. & Calinescu, R. A Computational Model for the AMPA Receptor Phosphorylation Master Switch Regulating Cerebellar Long-Term Depression. *PLoS Comput Biol* **12**, e1004664, doi:10.1371/journal.pcbi.1004664 (2016).
- 71 Galvin, C. J., Bain, E. D., Henke, A. & Genzer, J. Instability of Surface-Grafted Weak Polyacid Brushes on Flat Substrates. *Macromolecules* **48**, 5677-5687, doi:10.1021/acs.macromol.5b01289 (2015).
- 72 Garcia-Munoz, M. & Arbuthnott, G. W. Basal ganglia-thalamus and the "crowing enigma". *Frontiers in Neural Circuits* **9**, Article 71, doi:10.3389/fncir.2015.00071 (2015).
- 73 Garcia-Munoz, M. *et al.* Rebuilding a realistic corticostriatal "socialnetwork" from dissociated cells. *Frontiers in Systems Neuroscience* **9**, Article 63, doi:10.3389/fnsys.2015.00063 (2015).
- 74 Ghosh, A. & Marquez-Lago, T. T. Simulating stochastic reaction-diffusion systems on and within moving boundaries. *PLoS One* **10**, e0133401, doi:http://dx.doi.org/10.1371/journal.pone.0133401 (2015).
- 75 Ghosh, S. *et al.* Ultrafast Intrinsic Photoresponse and Direct Evidence of Sub-gap States in Liquid Phase Exfoliated MoS₂ Thin Films. *Scientific Reports* **5**, 11272-11279, doi:doi:10.1038/srep11272 (2015).
- 76 Giusteri, G. G., Celardo, G. L. & Borgonovi, F. Optimal efficiency of quantum transport in a disordered trimer. *Physical Review E* **E93**, doi:10.1103/PhysRevE.93.032136 (2016).
- 77 Gokhroo, V., Kumar, R. & Nic Chormaic, S. Optical nanofiber facilitated nonlinear optics effects in cold atoms *SPIE Proceedings, Nonlinear Optics and Applications IX* **9503**, 95030D, doi:http://dx.doi.org/10.1117/12.2182341 (2015).
- 78 Grammatikopoulos, P. & Pond, R. C. Identifying the multiplicity of crystallographically equivalent variants generated by iterative phase transformations in Ti. *Acta Crystallographica* **B72**, 67-74, doi:0.1107/S2052520615021897 (2016).
- 79 Grammatikopoulos, P., Steinhauer, S., Vernieres, J., Singh, V. & Sowwan, M. Nanoparticle design by gas-phase synthesis. *Advances in Physics: X* doi:10.1080/23746149.2016.1142829 (2016).

- 80 Guenard, B. & Economo, E. P. Additions to the checklist of the ants (Hymenoptera: Formicidae) of Peru. *Zootaxa* **4040**, 225-235 (2015).
- 81 Guénard, B., Perrichot, V. & Economo, E. P. Integration of global fossil and modern biodiversity data reveals dynamism and stasis in ant macroecological patterns. *Journal of Biogeography*, doi:10.1111/jbi.12614 (2015).
- 82 Gusachenko, I., Truong, V. G., Frawley, M. & Nic Chormaic, S. Optical nanofiber integrated into optical tweezers for in-situ fiber probing and optical binding studies. *Photonics* **2015** 795-807, doi:http://dx.doi.org/10.3390/photonics2030795 (2015).
- 83 Hamada, M., Goricki, S., Byerly, M. S., Satoh, N. & Jeffery, W. R. Evolution of the chordate regeneration blastema: Differential gene expression and conserved role of notch signaling during siphon regeneration in the ascidian *Ciona*. *Dev Biol* **405**, 304-315, doi:doi:10.1016/j.ydbio.2015.07.017 (2015).
- 84 Haward, S. J. Microfluidic Extensional Rheometry. *British Society of Rheology Bulletin* **56**, 65-72 (2015).
- 85 Haward, S. J. *et al.* Enhanced Microfluidic Mixing via a Tricritical Spiral Vortex Instability. *Phys Rev Lett*, 1-5 (2015).
- 86 Haward, S. J. *et al.* Tricritical spiral vortex instability in cross-slot flow. *Physical Review E* **93**, 031101 (031101-031105), doi:10.1103/PhysRevE.93.031101 (2016).
- 87 Hikima, T., Garcia-Munoz, M. & Arbuthnott, G. W. Presynaptic D1 heteroreceptors and mGlu autoreceptors act at individual cortical release sites to modify glutamate release. *Brain Res* **I 639**, 74-87 (2016).
- 88 Hinz, D. F., Kim, T.-Y., Panchenko, A. & Fried, E. Particle-based simulations of self-motile suspensions. *Computer Physics Communications*, doi:http://dx.doi.org/10.1016/j.cpc.2015.05.014 (2015).
- 89 Hirai, T. & Yamaguchi, T. in *Rinsho Ketsueki* Vol. 56 831-836 (2015).
- 90 Hosokawa, T. *et al.* Obligate bacterial mutualists evolving from environmental bacteria in natural insect populations. *Nature Microbiology* **1**, 15011, doi:10.1038/nmicrobiol.2015.11 (2016).
- 91 Huang, S., Hong, S. & De Schutter, E. Non-linear leak currents affect mammalian neuron physiology. *Frontiers in cellular neuroscience* **9**, 432, doi:10.3389/fncel.2015.00432 (2015).
- 92 Ichinohe, Y. *et al.* The first demonstration of the concept of narrow-FOV Si/CdTe semiconductor Compton camera. *Nuclear Instruments and Methods in Physics Research Section A: Accelerators, Spectrometers, Detectors and Associated Equipment* **806**, 2016, doi:http://doi.doi.org/10.1016/j.nima.2015.09.081 (2016).
- 93 Igarashi, J., Moren, J., Yoshimoto, J. & Doya, K. in *Journal of the Japanese Society for Artificial Intelligence* Vol. 30 人工知能学会誌 623-629 (2015).

- 94 Igarashi, J., Shono, O., Moren, J., Yoshimoto, J. & Doya, K. in *The Brain and Neural Networks* Vol. 22 日本神経回路学会誌 103-111 (2015).
- 95 Iikawa, N., Bandi, M. M. & Katsuragi, H. Structural evolution of a granular pack under manual tapping. *Journal of the Physical Society of Japan* **84**, 094401 (2015).
- 96 Iikawa, N., Bandi, M. M. & Katsuragi, H. Sensitivity of Granular Force Chain Orientation to Disorder-induced Metastable Relaxation. *Phys Rev Lett* **116**, 128001, doi:http://dx.doi.org/10.1103/PhysRevLett.116.128001 (2016).
- 97 Inoue, J., Sato, Y., Sinclair, R., Tsukamoto, K. & Nishida, M. Rapid genome reshaping by multiple-gene loss after whole-genome duplication in teleost fish suggested by mathematical modeling. *Proc Natl Acad Sci USA* **112**, 14918-14923 (2015).
- 98 Inoue, T. *et al.* CNOT3 contributes to early B cell development by controlling Igh rearrangement and p53 mRNA stability. *The Journal of experimental medicine* **212**, 1465-1479, doi:10.1084/jem.20150384 (2015).
- 99 Iribarne, M. *et al.* AIPL1 mutation causes cone photoreceptor degeneration in zebrafish through dysfunction of PDE6c. *Invest Ophth Vis Sci* **56** (2015).
- 100 Ito, H. *et al.* A Stress-Activated Transposon in Arabidopsis Induces Transgenerational Abscisic Acid Insensitivity. *Scientific Reports* **6**, 23181, doi:10.1038/srep23181 (2016).
- 101 Ito, M. & Doya, K. Parallel Representation of Value-Based and Finite State-Based Strategies in the Ventral and Dorsal Striatum. doi:10.1371/journal.pcbi.1004540 (2015).
- 102 Ito, T. *et al.* Genome-Wide Negative Feedback Drives Transgenerational DNA Methylation Dynamics in Arabidopsis. *Plos Genetics* **11**, e1005154, doi:http://dx.doi.org/10.1371/journal.pgen.1005154 (2015).
- 103 Janicki, J., Narula, N., Ziegler, M., Guénard, B. & Economo, E. P. Visualizing and interacting with large-volume biodiversity data using client-server web-mapping applications: The design and implementation of antmaps.org. *Ecological Informatics* **32**, 185-193, doi:10.1016/j.ecoinf.2016.02.006 (2016).
- 104 Jarvis, E. D. *et al.* Phylogenomic analyses data of the avian phylogenomics project. *Gigascience* **4**, 4, doi:http://dx.doi.org/10.1186/s13742-014-0038-1 (2015).
- 105 Jaubert, L. D. C. Monopole Holes in a Partially Ordered Spin Liquid. *SPIN* **05**, 16, doi:10.1142/S2010324715400056 (2015).
- 106 Jaubert, L. D. C. *et al.* Are Multiphase Competition and Order by Disorder the Keys to Understanding Yb₂Ti₂O₇? *Phys Rev Lett* **115**, 267208, doi:10.1103/PhysRevLett.115.267208 (2015).
- 107 Jaubert, L. D. C. & Moessner, R. Multiferroicity in spin ice: Towards magnetic crystallography of Tb₂Ti₂O₇ in a field. *Physical Review B* **91**, 214422, doi:http://dx.doi.org/10.1103/PhysRevB.91.214422 (2015).

- 108 Johnson, S. & Tanaka, F. Direct synthesis of C-glycosides from unprotected 2-N-acyl-aldohexoses via aldol condensation-oxa-Michael reactions with unactivated ketones. *Organic & Biomolecular Chemistry* **14**, 259-264, doi:10.1039/C5OB02094H (2015).
- 109 Jung, M.-C. *et al.* The presence of CH₃NH₂ neutral species in organometal halide perovskite films. *Applied Physics Letters* **108**, 073901, doi:doi:http://dx.doi.org/10.1063/1.4941994 (2016).
- 110 Jung, M.-C., Raga, S. R., Ono, L. K. & Qi, Y. Substantial improvement of perovskite solar cells stability by pinhole-free hole transport layer with doping engineering. *Scientific Reports* **5**, 9863, doi:http://dx.doi.org/10.1038/srep09863 (2015).
- 111 Jung, M.-C., Raga, S. R. & Qi, Y. Properties and solar cell applications of Pb-free perovskite films formed by vapor deposition. *RSC Advances* **6**, 2819-2825, doi:10.1039/C5RA21291J (2016).
- 112 Kato, Y. *et al.* Silver iodide formation in methyl ammonium lead iodide perovskite solar cells with silver top electrodes. *Adv Mater Interfaces* **2**, doi:ARTN 1500195 10.1002/admi.201500195 (2015).
- 113 Kawai, N. *et al.* Hox10-regulated endodermal cell migration is essential for development of the ascidian intestine. *Dev Biol* **403**, 43-56, doi:http://dx.doi.org/10.1016/j.ydbio.2015.03.018 (2015).
- 114 Kawakami, E. *et al.* Network analyses based on comprehensive molecular interaction maps reveal robust control structures in yeast stress response pathways. *npj Systems Biology and Applications* **2**, doi:10.1038/npjbsba.2015.18 (2016).
- 115 Kawamura, K. *et al.* Genetic characterization of inbred lines of Chinese cabbage by DNA markers; towards the application of DNA markers to breeding of F1 hybrid cultivars. *Data Brief* **6**, 229-237, doi:http://dx.doi.org/10.1016/j.dib.2015.11.058 (2016).
- 116 Keith, P., Lord, C. & Maeda, K. *Indo-Pacific Sicydiine gobies: Biodiversity, life traits and conservation*. (Société Française d'Ichtyologie, 2015).
- 117 Khaskin, E. & Milstein, D. Catalytic, oxidant-free, direct olefination of alcohols using Wittig reagents. *Chemical Communications* **51(43)**, 9002-9005, doi:http://dx.doi.org/10.1039/C5CC02902C (2015).
- 118 Khusnutdinova, J. R. & Milstein, D. Metal-Ligand Cooperation. *Angewandte Chemie International Edition* DOI: **10.1002/anie.201503873** - Early View (online version published before inclusion in an issue), DOI: 10.1002/anie.201503873 - Early View (online version published before inclusion in an issue) (2015).
- 119 Kiseleva, L. *et al.* Magnet-Facilitated Selection of Electrogenic Bacteria from Marine Sediment. *BioMed Research International* **2015**, 7, doi:http://dx.doi.org/10.1155/2015/582471 (2015).
- 120 Kiseleva, L. *et al.* Genome sequence of the electrogenic petroleum-degrading thalassospira sp. Strain hj. *Genome Announcements* **3**, e00483-00415 (2015).

- 121 Kiseleva, L. *et al.* Taxonomic and functional metagenomic analysis of anodic communities in two pilot-scale microbial fuel cells treating different industrial wastewaters. *Journal of Integrative Bioinformatics* 12 (2015).
- 122 Kitano, H. in *QIAGEN eyes* Vol. 12 *QIAGEN eyes* 7-9 (2015).
- 123 Kitano, H. Accelerating systems biology research and its real world deployment. *npj Systems Biology and Applications* 1, doi:10.1038/npjbsa.2015.9 (2015).
- 124 Kitano, H. in *QIAGEN eyes* Vol. 13 *QIAGEN eyes* 7-9 (2015).
- 125 Kitano, H. Artificial Intelligence to Win the Nobel Prize and Beyond: Creating the Engine for Scientific Discovery. *AI magazine* 37, 39-49 (2016).
- 126 Kitano, H. in *Journal of the Japanese Society for Artificial Intelligence* Vol. 31 *人工知能学会誌* 275-286 (2016).
- 127 Kleiman, D. M. H., Denis F.; Takato, Yoichi; Fried, Eliot Influence of material stretchability on the equilibrium shape of a Möbius band. *Soft Matter*, doi: 10.1039/C5SM02188J (2016).
- 128 Komiya, R. in *Experimental Medicine: Non-coding RNA Textbook* Vol. 33 *実験医学増刊 ノンコーディング RNA テキストブック 最新の医学・創薬研究、方法論とマイルストーン論文 200 報* p.26-27 (Yodosha Co., LTD, 2015).
- 129 Kraus, J. E. M., Fredman, D., Wang, W., Khalturin, K. & Technau, U. Adoption of conserved developmental genes in development and origin of the medusa body plan. *EvoDevo* 6, doi:http://dx.doi.org/doi:10.1186/s13227-015-0017-3 (2015).
- 130 Kubo, Y. Quantum engineering: Turn to the dark side. *Nature Physics* 12, 21 (2016).
- 131 Kudo, T., Block, G. D. & Colwell, C. S. The circadian clock gene *Period1* connects the molecular clock to neural activity in the suprachiasmatic nucleus. *ASN NEURO* (2015).
- 132 Kumar, R., Gokhroo, V., Deasy, K. & Nic Chormaic, S. Autler-Townes splitting via frequency upconversion at ultra-low power levels in cold ⁸⁷Rb atoms using an optical nanofiber. *Physical Review A* 91, 053842-053841-053845, doi:http://dx.doi.org/10.1103/PhysRevA.91.053842 (2015).
- 133 Kumar, R., Gokhroo, V. & Nic Chormaic, S. Multi-level cascaded electromagnetically induced transparency in cold atoms using an optical nanofibre interface. *New Journal of Physics* 17, 123012, doi:10.1088/1367-2630/17/12/123012 (2015).
- 134 Kumar, S. *et al.* Hydrogenation of Mg nanofilms catalyzed by size-selected Pd nanoparticles: Observation of localized MgH₂ nanodomains. *Journal of Catalysis* 337, **May 2016, Pages 14–25**, 14-25, doi:10.1016/j.jcat.2016.01.018 (2016).
- 135 Lee, D., Beesabathuni, S. N. & Shen, A. Q. Shape-tunable wax microparticle synthesis via microfluidics and droplet impact. *Biomicrofluidics* 9, 064114, doi:10.1063/1.4937897 (2015).

- 136 Lee, R. X., Huang, J.-J., Huang, C., Li Tsai, M. & Yen, C.-T. Plasticity of cerebellar Purkinje cells in behavioral training of body balance control. *Frontiers in Systems Neuroscience* **9**, 15 (2015).
- 137 Lee, Y. M., Jung, M.-S., Choi, D.-K. & Jung, M.-C. Observations on Si-based micro-clusters embedded in TaN thin film deposited by co-sputtering with oxygen contamination. *AIP Advances* **5**, 087131, doi:10.1063/1.4928576 (2015).
- 138 Leier, A. & Marquez-Lago, T. T. Delay chemical master equation: direct and closed-form solutions. *P Roy Soc a-Math Phy* **471**, doi:ARTN 20150049 10.1098/rspa.2015.0049 (2015).
- 139 Leyden, M. R., Lee, M. V., Raga, S. R. & Qi, Y. Large, Formamidinium Lead Trihalide Perovskite Solar Cells Using Chemical Vapor Deposition with High Reproducibility and Tunable Chlorine Concentrations. *Journal of Materials Chemistry A*, doi:http://dx.doi.org/10.1039/C5TA03577E (2015).
- 140 Li, Z. & Haward, S. J. Viscoelastic flow development in planar microchannels. *Microfluidics and Nanofluidics*, **15**, doi:10.1007/s10404-015-1630-0 (2015).
- 141 Liskova-Jakubisova, E. *et al.* Nanocrystalline zinc ferrite films studied by magneto-optical spectroscopy. *Journal of Applied Physics* **117**, doi:http://dx.doi.org/10.1063/1.4916936 (2015).
- 142 Liu, C., Fischer, G. & Economo, E. A rare ant on Samoa: first record of the cryptic subfamily Proceratiinae (Hymenoptera, Formicidae) and description of a new Proceratium Roger species. *J Hymenopt Res*, 35-44, doi:10.3897/JHR.46.5849 (2015).
- 143 Liu, C., Garcia, F. H., Peng, Y. Q. & Economo, E. P. Aenictus yangi sp.n. - a new species of the A. ceylonicus species group (Hymenoptera, Formicidae, Dorylinae) from Yunnan, China. *J Hymenopt Res* **42**, 33-45, doi:http://dx.doi.org/10.3897/Jhr.42.8859 (2015).
- 144 Lopes, T. J., Shoemaker, J. E., Matsuoka, Y., Kawaoka, Y. & Kitano, H. Identifying problematic drugs based on the characteristics of their targets. *Front Pharmacol* **6**, 186, doi:10.3389/fphar.2015.00186 (2015).
- 145 Lord, C., Maeda, K., Keith, P. & Watanabe, S. Population structure of the Asian amphidromous Sicydiinae goby, *Stiphodon percnopterygionus* with comments on larval dispersal in the northwest Pacific Ocean. *Life and Environment* **65**, 63-71 (2015).
- 146 Lowe, C. J., Clarke, D. N., Medeiros, D. M., Rokhsar, D. S. & Gerhart, J. The deuterostome context of chordate origins. *Nature* **520**, 456-465, doi:http://dx.doi.org/10.1038/nature14434 (2015).
- 147 Luo, Y.-J., Satoh, N. & Endo, K. Mitochondrial gene order variation in the brachiopod *Lingula anatina* and its implications for mitochondrial evolution in lophotrochozoans. *Marine Genomics*, doi:doi:10.1016/j.margen.2015.08.005 (2015).
- 148 Luo, Y.-J. *et al.* The *Lingula* genome provides insights into brachiopod evolution and the origin of phosphate biomineralization. *Nature Communications* **6**, doi:doi: 10.1038/ncomms9301 (2015).

- 149 Madaiah, C. C. & Busch, T. Localized quantum walks as secured quantum memory *Europhysics Letters* **110**, 10005, doi:10.1209/0295-5075/110/10005 (2015).
- 150 Madeo, J. *et al.* Ultrafast properties of femtosecond-laser-ablated GaAs and its application to terahertz optoelectronics. *Optics Letters* **40**, 3388-3391 (2015).
- 151 Madéo, J. *et al.* Ultrafast properties of femtosecond-laser-ablated GaAs and its application to terahertz optoelectronics. *OSA Publishing* **40**, 3221-3435, doi:10.1364/OL.40.003388 (2015).
- 152 Madugani, R., Yang, Y., Ward, J. M., Le, V. H. & Nic Chormaic, S. Optomechanical transduction and characterization of a silica microsphere pendulum via evanescent light. *Applied Physics Letters* **106**, 1-4, doi:http://dx.doi.org/10.1063/1.4922637 (2015).
- 153 Maeda, K., Iida, M. & Kondo, M. in *Early life history of fishes 魚類の初期生活史研究* (eds N. Mochioka, I. Kinoshita, & T. Minami) 89-101 (Kouseisha-Kouseikaku, Tokyo, Japan, 2015).
- 154 Maeda, K. & Palla, H. P. A new species of the genus *Stiphodon* from Palawan, Philippines (Gobiidae: Sicydiinae). *Zootaxa* **4018**, 381-395, doi:DOI: http://dx.doi.org/10.11646/zootaxa.4018.3.3 (2015).
- 155 Maeda, K., Tran, H. D. & Tan, H. H. Discovery of a substantial continental population of the subfamily Sicydiinae (Gobioidei: Gobiidae) from Vietnam: Taxonomic revision of the genus *Stiphodon* from the western South China Sea. *Raffles Bulletin of Zoology* **63**, 246-258 (2015).
- 156 Maimaiti, A., Truong, V. G. & Nic Chormaic, S. Ultrathin optical fibers for particle trapping and manipulation *SPIE Proceedings, Optical Trapping and Optical Micromanipulation XII* **9548**, 954815, doi:10.1117/12.2186497 (2015).
- 157 Man, M. K. L. *et al.* Protecting the properties of monolayer MoS₂ on silicon based substrates with an atomically thin buffer. *Scientific Reports* **6**, doi:10.1038/srep20890 (2016).
- 158 Mari, R., Seto, R., Morris, J. F. & Denn, M. M. Nonmonotonic flow curves of shear thickening suspensions. *Physical Review E* **91**, 052302, doi:http://dx.doi.org/10.1103/PhysRevE.91.052302 (2015).
- 159 Mari, R., Seto, R., Morris, J. F. & Denn, M. M. Discontinuous shear thickening in Brownian suspensions by dynamic simulation. *Proc Natl Acad Sci USA* **112**, 15326-15330, doi:http://dx.doi.org/10.1073/pnas.1515477112 (2015).
- 160 Mariserla, B. M. K. *et al.* Engineering Photophenomena in Large, 3D Structures Composed of Self-Assembled van der Waals Heterostructure Flakes. *Adv Opt Mat*, 1-6, doi:DOI: 10.1002/adom.201500296 (2015).
- 161 Márquez-Lago, T. T. Non-classic effects in stochastic gene expression. *FEBS J* **282**, 28-28 (2015).

- 162 Martínez-Garaot, S., Ruschhaupt, A., Gillet, J., Busch, T. & Muga, J. G. Fast quasiadiabatic dynamics. *Physical Review A* **92**, 043406, doi:10.1103/PhysRevA.92.043406 (2015).
- 163 Maruyama, I. N. Activation of transmembrane cell-surface receptors via a common mechanism? The "rotation model". *Bioessays* **37**, 959-967 (2015).
- 164 Masuda, F. *et al.* Glucose restriction induces transient G2 cell cycle arrest extending cellular chronological lifespan. *Scientific Reports* **6**, 19629, doi:10.1038/srep19629 (2016).
- 165 Matsuoka, Y., Fujita, K., Ghosh, S. & Kitano, H. in *Computational Systems Toxicology* (eds Julia Hoeng & Manuel C. Peitsch) 181-208 (Springer New York, 2015).
- 166 McClarty, P. A. *et al.* Chain-based order and quantum spin liquids in dipolar spin ice. *Physical Review B* **99**, doi:http://dx.doi.org/10.1103/PhysRevB.92.094418 (2015).
- 167 Mifsud, B. *et al.* Mapping long-range promoter contacts in human cells with high-resolution capture Hi-C. *Nature Genetics* **47**, 598-606, doi:http://dx.doi.org/10.1038/ng.3286 (2015).
- 168 Mikheyev, A. S., Tin, M. M. Y., Arora, J. & Seeley, T. D. Museum samples reveal rapid evolution by wild honey bees exposed to a novel parasite. *Nature Communications* **6**, doi:Artn 7991 10.1038/Ncomms8991 (2015).
- 169 Mitaka, Y. *et al.* Caste-Specific and Sex-Specific Expression of Chemoreceptor Genes in a Termite. *PLoS One* **11**, e0146125, doi:10.1371/journal.pone.0146125 (2015).
- 170 Mitarai, S., Watanabe, H., Nakajima, Y., Shchepetkin, A. F. & McWilliams, J. C. Quantifying dispersal from hydrothermal vent fields in the western Pacific Ocean. *Proc Natl Acad Sci USA* **113**, 2976-2981, doi:10.1073/pnas.1518395113 (2016).
- 171 Miyakawa, M. O. & Mikheyev, A. S. QTL mapping of sex determination loci supports an ancient pathway in ants and honey bees. *PLoS Genet* **11**, e1005656, doi:http://dx.doi.org/10.1371/journal.pgen.1005656 (2015).
- 172 Mohan, D. M. *et al.* Effect of Subliminal Lexical Priming on the Subjective Perception of Images: A Machine Learning Approach. *PLoS ONE*, doi:10.1371/journal.pone.0148332 (2016).
- 173 Morandin, C. *et al.* Comparative transcriptomics reveals the conserved building blocks involved in parallel evolution of diverse phenotypic traits in ants. *Genome Biology*, doi:10.DOI 10.1186/s13059-016-0902-7 (2015).
- 174 Murayama, T. & Maruyama, I. N. Alkaline pH sensor molecules. *J Neurosci Res* **93**, 1623-1630 (2015).
- 175 Myung, J. *et al.* GABA-mediated repulsive coupling between circadian clock neurons in the SCN encodes seasonal time. *Proc Natl Acad Sci USA*, doi:http://dx.doi.org/10.1073/pnas.1421200112 (2015).

- 176 Nakajima, Y., Shinzato, C., Satoh, N. & Mitarai, S. Novel Polymorphic Microsatellite Markers Reveal Genetic Differentiation between Two Sympatric Types of *Galaxea fascicularis*. *PLoS One* **10**, e0130176, doi:http://dx.doi.org/10.1371/journal.pone.0130176 (2015).
- 177 Nakajima, Y., Zayasu, Y., Shinzato, C., Satoh, N. & Mitarai, S. Genetic differentiation and connectivity of morphological types of the broadcast-spawning coral *Galaxea fascicularis* in the Nansei Islands, Japan. *Ecology and Evolution* **6**, 1457-1469, doi:10.1002/ece3.1981 (2015).
- 178 Nakamura, M. *et al.* Spatial variability in recruitment of acroporid corals and predatory starfish along the Onna coast, Okinawa, Japan. *Marine Ecology Progress Series* **540**, 1-12, doi:10.3354/meps11525 (2015).
- 179 Nakamura, T. J. *et al.* Age-related changes in the circadian system unmasked by constant conditions. *ENeuro* **2**, e0064-0015.0201 0061-0010, doi:http://dx.doi.org/10.1523/ENEURO.0064-15.2015 (2015).
- 180 Nakazawa, N. *et al.* RNA pol II transcript abundance controls condensin accumulation at mitotically up-regulated and heat-shock-inducible genes in fission yeast. *Genes Cells* **20**, 481-499, doi:http://dx.doi.org/10.1111/gtc.12239 (2015).
- 181 Nakazawa, T. *et al.* Emerging roles of ARHGAP33 in intracellular trafficking of TrkB and pathophysiology of neuropsychiatric disorders. *Nature Communications* **7**, doi:http://dx.doi.org/10.1038/ncomms10594 (2016).
- 182 Nieddu, T., Gokhroo, V. & Nic Chormaic, S. Optical nanofibres and neutral atoms. *Journal of Optics* **18**, 053001 (053012pp), doi:10.1088/2040-8978/18/5/053001 (2016).
- 183 Nikiforov, G. O., Ono, L. K. & Qi, Y. p-Doping of Squaraine with F4-TCNQ by Solution Processing. *ITE Transactions on Media Technology and Applications* **3**, 133-142, doi:http://dx.doi.org/10.3169/mta.3.133 (2015).
- 184 Nim, H. T. *et al.* CARFMAP: A Curated Pathway Map of Cardiac Fibroblasts. *Plos One* **10**, doi:ARTN e0143274 10.1371/journal.pone.0143274 (2015).
- 185 Nim, H. T. *et al.* VISIONET: intuitive visualisation of overlapping transcription factor networks, with applications in cardiogenic gene discovery. *BMC Bioinform* **16**, 141, doi:http://dx.doi.org/10.1186/s12859-015-0578-0 (2015).
- 186 Nomura, Y. & Yokobayashi, Y. in *Methods Mol Biol Vol. 1316 Methods in Molecular Biology* (ed Luc Ponchon) Ch. 12, 141-148 (Humana Press, 2015).
- 187 O'Riordan, L., White, A. & Busch, T. Moiré superlattice structures in kicked Bose-Einstein condensates. *Physical Review A* **93**, 023609, doi:10.1103/PhysRevA.93.023609 (2016).
- 188 Oda, S., Okada, N. & Takahashi, D. Classically conformal U(1)' extended Standard Model and Higgs vacuum stability. *Physical Review D* **92** (2015).

- 189 Ohashi, T., Yamamoto, T., Yamanashi, Y. & Ohsugi, M. Human TUBG2 gene is expressed as two splice variant mRNAs and involved in cell growth. *FEBS Lett*, doi:<http://dx.doi.org/10.1002/1873-3468.12163> (2016).
- 190 Ohki, S., Kowalski, R. K., Kitanobo, S. & Morita, M. Changes in spawning time led to the speciation of the broadcast spawning corals *Acropora digitifera* and the cryptic species *Acropora* sp 1 with similar gamete recognition systems. *Coral Reefs* **34**, 1189-1198, doi:<http://dx.doi.org/10.1007/s00338-015-1337-4> (2015).
- 191 Ohmann, R. *et al.* Real-space imaging of the atomic structure of organic-inorganic perovskite. *Journal of the American Chemical Society*, doi:10.1021/jacs.5b08227 (2015).
- 192 Ohno, S. *et al.* Identification and Characterization of the Streptazone E Biosynthetic Gene Cluster in *Streptomyces* sp. MSC090213JE08. *Chembiochem*, doi:DOI: 10.1002/cbic.201500317 (2015).
- 193 Ono, L. K., Leyden, M. R., Wang, S. & Qi, Y. Organometal Halide Perovskite Thin Films and Solar Cells by Vapor Deposition. *Journal of Materials Chemistry A*, doi:10.1039/C5TA08963H (2015).
- 194 Ono, L. K. *et al.* Pinhole-free hole transport layers significantly improve the stability of MAPbI₃-based perovskite solar cells under operating conditions. *Journal of Materials Chemistry A*, doi:<http://dx.doi.org/10.1039/C5TA03443D> (2015).
- 195 Ooka, Y., Yang, Y., Ward, J. & Nic Chormaic, S. Raman lasing in a hollow, bottle-like microresonator. *Applied Physics Express* **8**, 0920011-0920014, doi:0.7567/APEX.8.092001 (2015).
- 196 Osabe, K. Genetic characterization of inbred lines of Chinese cabbage by DNA markers; towards the application of DNA markers to breeding of F1 hybrid cultivars. *Data in Brief* **6**, 229-237, doi:<http://dx.doi.org/10.1016/j.plgene.2015.10.003> (2015).
- 197 Osabe, K. Genetic distance of inbred lines of Chinese cabbage and its relationship to heterosis. *Plant Gene* **5**, 1-7, doi:10.1016/j.plgene.2015.10.003 (2015).
- 198 Osuki, K.-I. *et al.* Gene expression and localization of a beta-1,3-glucanase of *Lotus japonicus*. *Journal of Plant Research*, doi:<http://dx.doi.org/10.1007/s10265-016-0811-6> (2016).
- 199 Ozawa, R., Udagawa, M., Akagi, Y. & Motome, Y. Surface and interface effects on a magnetic Chern insulator. *Journal of Physics: Conference Series* **592**, 012130, doi:<http://dx.doi.org/10.1088/1742-6596/592/1/012130> (2015).
- 200 Palaferri, D. *et al.* Patch antenna terahertz photodetector. *Applied Physics Letters* **106**, 6, doi:10.1063/1.4918983 (2015).
- 201 Parmesan, C., Williams-Anderson, A., Moskwik, M., Mikheyev, A. S. & Singer, M. C. Endangered Quino checkerspot butterfly and climate change: Short-term success but long-term vulnerability? *J Insect Conserv* **19**, 185-204, doi:<http://dx.doi.org/10.1007/s10841-014-9743-4> (2015).

- 202 Petersen, H. O. *et al.* A Comprehensive Transcriptomic and Proteomic Analysis of Hydra Head Regeneration. *Molecular Biology and Evolution* **32**, 1928-1947, doi:10.1093/molbev/msv079 (2015).
- 203 Petoukhoff, C. E., Antonick, C., Bala Murali, K. M., Dani, K. M. & O'Carroll, D. M. Oxidation of planar and plasmonic Ag surfaces by exposure to O₂/Ar plasma for organic optoelectronic applications. *MRS Advances*, doi:http://dx.doi.org/10.1557/adv.2016.83 (2016).
- 204 Plenz, D. & Wickens, J. R. in *The Striatal Skeleton: Medium Spiny Projection Neurons and their Lateral Connections To appear (In press)* Vol. 20 (eds H Steiner & K.S Tseng) Ch. 99-108, (Elsevier/Academic Press, 2015).
- 205 Pluskal, T., Sajiki, K., Becker, J., Takeda, K. & Yanagida, M. Diverse fission yeast genes required for responding to oxidative and metal stress: Comparative analysis of glutathione-related and other defense gene deletions. *Genes Cells*, doi:10.1111/gtc.12359 (2016).
- 206 Polo, J., Benseny, A., Busch, T., Ahufinger, V. & Mompert, J. Transport of ultracold atoms between concentric traps via spatial adiabatic passage. *New Journal of Physics* **18**, doi:10.1088/1367-2630/18/1/015010 (2016).
- 207 Raga, S. R., Ono, L. K. & Qi, Y. Rapid perovskite formation by CH₃NH₂ gas-induced intercalation and reaction of PbI₂. *Journal of Materials Chemistry A* **4**, 2494-2500, doi:10.1039/C5TA10055K (2016).
- 208 Ravi, V. *et al.* Cyclostomes lack clustered protocadherins. *Molecular Biology and Evolution* **33**, 311-315, doi:http://dx.doi.org/10.1093/molbev/msv252 (2016).
- 209 Reimer, J. D. *et al.* Effects of causeway construction on environment and biota of subtropical tidal flats in Okinawa, Japan. *Marine Pollution Bulletin* **94**, 153-167, doi:http://dx.doi.org/10.1016/j.marpolbul.2015.02.037 (2015).
- 210 Reyes-Bermudez, A., Villar-Briones, A., Ramirez-Portilla, C., Hidaka, M. & Mikheyev, A. S. Developmental Progression in the Coral *Acropora digitifera* Is Controlled by Differential Expression of Distinct Regulatory Gene Networks *Genome Biol Evol* **8**, 851-870, doi: 10.1093/gbe/evw042 (2015).
- 211 Rueckert, S., Wakeman, K. C., Jenke-Kodama, H. & Leander, B. S. Molecular systematics of marine gregarine apicomplexans from Pacific tunicates, with descriptions of five new species of Lankesteria. *Int J Syst Evol Microbiol* **44**, 8-19, doi:http://dx.doi.org/10.1099/ij.s.0.000300 (2015).
- 212 Sabuwala, T., Gioia, G. & Chakraborty, P. Effect of rainpower on hurricane intensity. *Geophysical Research Letters* **42**, 3024-3029, doi:http://dx.doi.org/10.1002/2015GL063785 (2015).
- 213 Sachdeva, R., Thakur, A., Vignale, G. & Agarwal, A. Plasmon modes of a massive Dirac plasma, and their superlattices. *Physical Review B* **91**, 205426, doi:10.1103/PhysRevB.91.205426 (2015).

- 214 Saint Arnault, D. & Shimabukuro, S. Floating on Air: Fulfillment and Self-in-Context for Distressed Japanese Women. *West J Nurs Res*, doi:http://dx.doi.org/10.1177/0193945915625219 (2016).
- 215 Sakagami, T. *et al.* in *SOLAR ENERGY* Vol. 41 太陽エネルギー 43 (2015).
- 216 Santos, H. A. F., Amaral, A., Yokokura, T., Van Vactor, D. & Gama-Carvalho, M. Characterization of Smn-dependent gene expression changes underlying motor neuron degeneration and synaptic dysfunction in SMA. *FEBS J* 282, 175-176 (2015).
- 217 Sarnat, E. M., Fischer, G., Guenard, B. & Economo, E. P. Introduced Pheidole of the world: taxonomy, biology and distribution. *Zookeys*, 1-109, doi:10.3897/zookeys.543.6050 (2015).
- 218 Sato, A. *et al.* Molecular basis of canalization in an ascidian species complex adapted to different thermal conditions. *Scientific Reports* 5, 16717, doi:10.1038/srep16717 (2015).
- 219 Satoh, N. Two Decades of Ascidian Developmental Biology: A Personal Research Story. *Current Topics in Developmental Biology* 117, 289-300, doi:10.1016/bs.ctdb.2015.11.016 (2016).
- 220 Savage, A. M., Hackett, B., Guenard, B., Youngsteadt, E. K. & Dunn, R. R. Fine-scale heterogeneity across Manhattan's urban habitat mosaic is associated with variation in ant composition and richness. *Insect Conserv Diver* 8, 216-228, doi:http://dx.doi.org/10.1111/Icad.12098 (2015).
- 221 Savin, T., Bandi, M. M. & Mahadevan, L. Pressure-driven occlusive flow of a confined red blood cell. *Soft Matter*, 562-573, doi:10.1039/c5sm01282a (2015).
- 222 Sayavedra, L. *et al.* Abundant toxin-related genes in the genomes of beneficial symbionts from deep-sea hydrothermal vent mussels. *eLife*, doi:10.7554/eLife.07966#.dpuf (2015).
- 223 Schloss, J., Benseny, A., Gillet, J., Swain, J. & Busch, T. Non-adiabatic generation of NOON states in a Tonks-Girardeau gas. *New Journal of Physics* 18, doi:10.1088/1367-2630/18/3/035012 (2016).
- 224 Schoenfelder, S. *et al.* The pluripotent regulatory circuitry connecting promoters to their long-range interacting elements. *Genome Res* 25, 582-597, doi:http://dx.doi.org/10.1101/gr.185272.114 (2015).
- 225 Schoenfelder, S. *et al.* Polycomb repressive complex PRC1 spatially constrains the mouse embryonic stem cell genome. *Nature Genetics* 47, 1179-1186, doi:10.1038/ng.3393 (2015).
- 226 Schönke, J. Smooth Teeth: Why Multipoles Are Perfect Gears. *Physical Review Applied* 4, doi:DOI:http://dx.doi.org/10.1103/PhysRevApplied.4.064007 (2015).
- 227 Seabra, L., Sindzingre, P., Momoi, T. & Shannon, N. Novel phases in a square-lattice frustrated ferromagnet: 1/3-magnetization plateau, helicoidal spin liquid, and vortex crystal. *Physical Review B* 93, doi:http://dx.doi.org/10.1103/PhysRevB.93.085132 (2016).

- 228 Sergides, M. *et al.* Characterization of periodic plasmonic nanoring devices for nanomanipulation. *SPIE Proceedings, Optical Trapping and Optical Micromanipulation XII* **9548**, 95481T, doi:10.1117/12.2186700 (2015).
- 229 Shah, P. & Ando, A. W. Downside versus Symmetric Measures of Uncertainty in Natural Resource Portfolio Design to Manage Climate Change Uncertainty. *Land Economics* **91**, 664-687, doi:10.3368/le.91.4.664 (2015).
- 230 Shah, P. & Baylis, K. Evaluating Heterogeneous Conservation Effects of Forest Protection in Indonesia. *PLoS ONE*, doi:10.1371/journal.pone.0124872 (2015).
- 231 Shimazoe, K. *et al.* Electron Pattern Recognition using trigger mode SOI pixel sensor for Advanced Compton Imaging. *J Instrum* **11**, doi:http://dx.doi.org/10.1088/1748-0221/11/02/C02030 (2016).
- 232 Shimizu, Y. *et al.* Toward probabilistic diagnosis and understanding of depression based on functional MRI data analysis with logistic group LASSO. *PLoS One* **10**, e0123524, doi:http://dx.doi.org/10.1371/journal.pone.0123524 (2015).
- 233 Shinzato, C., Mungpakdee, S., Arakaki, N. & Satoh, N. Genome-wide SNP analysis explains coral diversity and recovery in the Ryukyu Archipelago. *Scientific Reports* **5**, doi:10.1038/srep18211 (2015).
- 234 Shoemaker, J. E. *et al.* An ultrasensitive mechanism regulates influenza virus-induced inflammation. *Plos Pathog* **11**, doi:http://dx.doi.org/10.1371/journal.ppat.1004856 (2015).
- 235 Shoguchi, E., Shinzato, C., Hisata, K., Satoh, N. & Mungpakdee, S. The large mitochondrial genome of *Symbiodinium minutum* reveals conserved non-coding sequences between dinoflagellates and apicomplexans. *Genome Biol Evol*, doi:doi:10.1093/gbe/evw137 (2015).
- 236 Shy, S. S. *et al.* Correlations of high-pressure lean methane and syngas turbulent burning velocities: Effects of turbulent Reynolds, Damkohler, and Karlovitz numbers. *P Combust Inst* **35**, 1509-1516, doi:http://dx.doi.org/10.1016/j.proci.2014.07.026 (2015).
- 237 Silva Jr., N. J., Ferreira, K. R. C., Pinto, R. N. L. & Aird, S. D. A severe accident caused by an Ocellate River Stingray (*Potamotrygon motoro*) in Central Brazil. How well do we really understand stingray venom chemistry, envenomation, and therapeutics? *Toxins* **7**, 2272-2288, doi:http://dx.doi.org/10.3390/toxins7062272 (2015).
- 238 Silva Jr., N. J., Gutiérrez, J. M. & Aird, S. D. in *As Cobras Corais do Brasil: Biologia, Taxonomia, Veneno e Envenenamentos*. (ed Nelson Jorge Silva Jr.) (Editora PUC Goiás, 2016).
- 239 Simakov, O. Quantifying Preferences and Responsiveness of Marine Zooplankton to Changing Environmental Conditions using Microfluidics. *PLoS One* **10**, e0140553, doi:10.1371/journal.pone.0140553 (2015).
- 240 Simakov, O. *et al.* Hemichordate genomes and deuterostome origins. *Nature* **527**, 459-465, doi:10.1038/nature16150 (2015).

- 241 Sinclair, R. M. Necessary relations for nucleotide frequencies. *J Theor Biol* **374**, 179-182 (2015).
- 242 Singh, R. S., Bandi, M., Mahadevan, A. & Mandre, S. Linear stability analysis for monami in a submerged sea grass bed. *Journal of Fluid Mechanics* **786**, R1, doi: <http://dx.doi.org/10.1017/jfm.2015.642> (2016).
- 243 Singh, V. *et al.* Engineering high-performance Pd core-MgO porous shell nanocatalysts via heterogeneous gas-phase synthesis. *Nanoscale* **7**, 13387-13392, doi:10.1039/c5nr02663f (2015).
- 244 Smerald, A., Ueda, H. T. & Shannon, N. Theory of inelastic neutron scattering in a field-induced spin-nematic state. *Physical Review B* **91**, 1-27, doi:<http://dx.doi.org/10.1103/PhysRevB.91.174402> (2015).
- 245 Smith, C. R. *et al.* How do genomes create novel phenotypes? Insights from the loss of the worker caste in ant social parasites. *Molecular Biology and Evolution* **32**, 2919-2931, doi:<http://dx.doi.org/10.1093/molbev/msv165> (2015).
- 246 Steinhauer, S., Chapelle, A., Menini, P. & Sowwan, M. Local CuO Nanowire Growth on Microhotplates: In Situ Electrical Measurements and Gas Sensing Application. *ACS Sensors*, doi:10.1021/acssensors.6b00042 (2016).
- 247 Steinhauer, S. *et al.* Single CuO nanowires decorated with size-selected Pd nanoparticles for CO sensing in humid atmosphere. *Nanotechnology* **26**, 6, doi:<http://dx.doi.org/10.1088/0957-4484/26/17/175502> (2015).
- 248 Stoker, P., Rothfeder, R., Dudley, K., Dennison, P. & Buchert, M. Comparing the utility of LiDAR data vs. multi-spectral imagery for parcel scale water demand modeling. *Urban Water Journal*, doi:10.1080/1573062X.2015.1111915 (2015).
- 249 Subramonian Rajasree, K., Ray, T. & Nic Chormaic, S. Quantum networks based on cold Rydberg atoms and an optical nanofiber. *Frontiers in Optics 2015, OSA Technical Digest (online) (Optical Society of America, 2015) FW3D*, **4**, doi:10.1364/FIO.2015.FW3D.4 (2015).
- 250 Sudhakar, S. K., Torben-Nielsen, B. & De Schutter, E. Cerebellar nuclear neurons use time and rate coding to transmit Purkinje neuron pauses. *PLoS Comput Biol*, doi:10.1371/journal.pcbi.1004641 (2015).
- 251 Sun, K., Qu, C., Xu, Y., Zhang, Y. & Zhang, C. Interacting spin-orbit-coupled spin-1 Bose-Einstein condensates. *Physical Review A* **93**, 023615, doi:10.1103/PhysRevA.93.023615 (2016).
- 252 Suzuki, T. *et al.* CNOT3 suppression promotes necroptosis by stabilizing mRNAs for cell death-inducing proteins. *Scientific Reports* **5**, 14779, doi:10.1038/srep14779 (2015).
- 253 Tajnik, M. *et al.* Intergenic Alu exonisation facilitates the evolution of tissue-specific transcript ends. *Nucleic Acids Res*, doi:10.1093/nar/gkv956 (2015).
- 254 Takahashi, A. *et al.* Post-transcriptional Stabilization of Ucp1 mRNA Protects Mice from Diet-Induced Obesity. *Cell Rep* **13**, 2756-2767, doi:10.1016/j.celrep.2015.11.056 (2015).

- 255 Takahashi, T. in *The Proceedings of the Japan Academy, Series B Vol. 91 The Proceedings of the Japan Academy, Series B* 305-320 (2015).
- 256 Takeda, K., Starzynski, C., Mori, A. & Yanagida, M. The critical glucose concentration for respiration-independent proliferation of fission yeast, *Schizosaccharomyces pombe*. *Mitochondrion* **22**, 91-95, doi:http://dx.doi.org/10.1016/j.mito.2015.04.003 (2015).
- 257 Takeda, S. i., Harayama, A., Sato, G., Watanabe, S. & Takahashi, T. in *Radioisotopes Vol. 65* --- 81-92 (2016).
- 258 Teulon, C., Gusachenko, I., Latour, G. & Schanne-Klein, M.-C. Theoretical, numerical and experimental study of geometrical parameters that affect anisotropy measurements in polarization-resolved SHG microscopy. *Optics Express* **23**, 9313-9328, doi:http://dx.doi.org/10.1364/OE.23.009313 (2015).
- 259 To, T. K., Saze, H. & Kakutani, T. DNA Methylation within Transcribed Regions. *Plant Physiology* **168**, 1219-1225, doi:10.1104/pp.15.00543 (2015).
- 260 Triantis, K. A., Economou, E. P., Guilhaumon, F. & Ricklefs, R. E. Diversity regulation at macro-scales: species richness on oceanic archipelagos. *Global Ecol Biogeogr* **24**, 594-605, doi:http://dx.doi.org/10.1111/Geb.12301 (2015).
- 261 Tsui, M. M. K., Itoh, A., Amgad, M., Wang, S.-F. & Sasaki, T. Vectors for Genetically-Encoded Tags for Electron Microscopy Contrast in Drosophila. *Biol Proced Online* **18**, doi:http://dx.doi.org/10.1186/s12575-016-0034-1 (2016).
- 262 Uchibe, E. in *The Brain & Neural Networks Vol. 23 日本神経回路学会誌* 2-13 (2016).
- 263 Wang, J., Uchibe, E. & Doya, K. EM-based policy hyper parameter exploration: application to standing and balancing of a two-wheeled smartphone robot. *Artificial Life and Robotics* **21**, 125-131, doi:10.1007/s10015-015-0260-7 (2016).
- 264 Wang, P. *et al.* Development of packaged silica microspheres coupled with tapered optical microfibres *Proc. SPIE 9727, Laser Resonators, Microresonators, and Beam Control XVIII*, 972704 972704-972701-972705, doi:10.1117/12.2211757 (2016).
- 265 Wang, S. *et al.* Smooth perovskite thin films and efficient perovskite solar cells prepared by the hybrid deposition method. *Journal of Materials Chemistry A* **2015**, doi:http://dx.doi.org/10.1039/C5TA03593G (2015).
- 266 Ward, J. M., Yang, Y. & Nic Chormaic, S. Flow sensor using a hollow whispering gallery mode microlaser. *Proc. SPIE 9727, Laser Resonators, Microresonators, and Beam Control XVIII*, 972718 9727, 972718-972711-972716, doi:10.1117/12.2209205 (2016).
- 267 Warnaar, P. *et al.* Duration of Purkinje cell complex spikes increases with their firing frequency. *Front Cell Neurosci* **9**, 1-16, doi:Artn 122 Doi 10.3389/Fncel.2015.001 (2015).
- 268 Wei, Q. *et al.* Printable hybrid hydrogel by dual enzymatic polymerization with superactivity. *Chemical Science* **7**, doi:10.1039/c5sc02234g (2016).

- 269 White, A., Hennessy, T. & Busch, T. Emergence of classical rotation in superfluid Bose-Einstein condensates. *Physical Review A* **93**, 033601, doi:10.1103/PhysRevA.93.033601 (2016).
- 270 Wybo, W., Boccalini, D., Torben-Nielsen, B. & Gewaltig, M. O. A sparse reformulation of the Green's function formalism allows efficient simulations of morphological neuron models. *Neural Comput* (2015).
- 271 Xu, L., Peng, J., Srinivasakannan, C., Chen, G. & Shen, A. Q. Synthesis of copper nanocolloids using a continuous flow based microreactor. *Applied Surface Science* **355**, 1-6, doi:10.1016/j.apsusc.2015.07.070 (2015).
- 272 Xu, L., Peng, J., Yan, M., Zhang, D. & Shen, A. Q. Droplet synthesis of silver nanoparticles by a microfluidic device. *Chemical Engineering and Processing: Process Intensification* **102**, 186-193, doi:10.1016/j.cep.2016.01.017 (2016).
- 273 Xu, Y., Zhang, Y. & Zhang, C. Bright solitons in a two-dimensional spin-orbit-coupled dipolar Bose-Einstein condensate. *Physical Review A* **92**, 013633, doi:10.1103/PhysRevA.92.013633 (2015).
- 274 Yalgin, C. *et al.* Centrosomin represses dendrite branching by orienting microtubule nucleation. *Nature Neurosci* **18**, 1437-1445, doi:10.1038/nn.4099 (2015).
- 275 Yamashiro, R., Abdurakhimov, L. V., Badrutdinov, A., Monarkha, Y. & Konstantinov, D. Photoconductivity response at cyclotron-resonance harmonics in a nondegenerate two-dimensional electron system on liquid helium. *Phys Rev Lett* **115**, 256802, doi:http://dx.doi.org/10.1103/PhysRevLett.115.256802 (2015).
- 276 Yanagida, M., Hyman, A. A. & Pines, J. in *Csh Perspect Biol* 203 (Cold Spring Harbor Laboratory Press, Cold Spring Harbor, New York, 2015).
- 277 Yang, Y., Ooka, Y., Thompson, R. M., Ward, J. M. & Nic Chormaic, S. Degenerate four-wave mixing in a silica hollow bottle-like microresonator. *Optics Letters* **41**, 575-578, doi: 10.1364/OL.41.000575 (2016).
- 278 Yang, Y., Saurabh, S., Ward, J. M. & Nic Chormaic, S. Coupled-mode-induced transparency in aerostatically tuned microbubble whispering-gallery resonators. *Optics Letters* **40**, 1834-1837, doi:http://dx.doi.org/10.1364/OL.40.001834 (2015).
- 279 Yang, Y., Saurabh, S., Ward, J. M. & Nic Chormaic, S. High-Q, ultrathin-walled microbubble resonator for aerostatic pressure sensing. *Optics Express* **24**, 294-299, doi:10.1364/OE.24.000294 (2016).
- 280 Zhang, D. & Tanaka, F. Aldol reactions of ketone donors with aryl trifluoromethyl ketone acceptors catalyzed by 1,8-diazabicyclo[5.4.0]undec-7-ene (DBU) for concise access to aryl- and trifluoromethyl-substituted tertiary alcohols. *Advanced Synthesis & Catalysis* **357**, 3458-3462, doi:10.1002/adsc.201500497. (2015).
- 281 Zhang, Q. *et al.* Structural basis for inhibition of the deadenylase activity of human CNOT6L. *FEBS Lett*, doi:10.1002/1873-3468.12160 (2016).

- 282 Zhang, Y., Xu, Y. & Busch, T. Gap solitons in spin-orbit-coupled Bose-Einstein condensates in optical lattices. *Physical Review A* **91**, 043629, doi:10.1103/PhysRevA.91.043629 (2015).
- 283 Zhao, J. *et al.* Formation Mechanism of Fe Nanocubes by Magnetron Sputtering Inert Gas Condensation. *ACS Nano*, Article ASAP, doi:10.1021/acsnano.6b01024 (2015).
- 284 Zhao, Y., Haward, S. J. & Shen, A. Q. Rheological characterizations of wormlike micellar solutions containing cationic surfactant and anionic hydrotropic salt. *Journal of Rheology* **59**, 1229, doi:10.1122/1.4928454 (2015).
- 285 Zukeran, A. *et al.* The CCR4-NOT deadenylase activity contributes to generation of induced pluripotent stem cells. *Biochem Biophys Res Commun*, doi:10.1016/j.bbrc.2016.03.119 (2016).

平成27年度研究に関する受賞実績

No.	研究ユニット	受賞タイトル	URL	OISTウェブサイト掲載日
1	スティーブンスユニット、政井ユニット	OIST教授2名がヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム(HFSP)グラントを受賞	https://www.oist.jp/news-center/news/2016/3/28/oist-professors-awarded-hfsp-grant	2016年3月28日
2	佐瀬ユニット	沖縄県産難消化米開発プロジェクトがフード・アクション・ニッポン アワードを受賞 沖縄科学技術大学院大学(OIST)植物エピジェネティクスユニット代表の佐瀬英俊准教授が取り組む「生活習慣病を予防・改善する沖縄県産高機能米開発」プロジェクトが、フード・アクション・ニッポン・アワード部門優秀賞(研究開発・新技術部門)を受賞しました。同アワードは、フード・アクション・ニッポン推進本部事務局および農林水産省より、国産農林水産物の消費拡大と日本の食料自給率向上に寄与する事業者・団体に授与されます。	https://www.oist.jp/news-center/news/2015/11/19/resistant-starch-okinawan-rice-project-receives-award	2015年11月20日
3	OIST学長	沖縄科学技術大学院大学(OIST)のジョナサン・ドーファン学長が、デービッド・ヒトリン博士、スティーブ・オルセン博士、高崎史彦博士と共に、2016年パノフスキー賞を受賞しました。同賞を授与するアメリカ物理学会は受賞の理由として、「B中間子におけるCP対称性の破れを実証し、クォーク混合及び量子色力学の理解を深めたBABAR(ババール)とBelle(ベル)の両実験において発揮されたリーダーシップを称えて」としています。1985年に設立された同賞は、アメリカ物理学会が素粒子物理学分野の実験物理学の功績を称えて授与する名誉ある賞です。	http://www.oist.jp/news-center/news/2015/10/16/oist-president-wins-particle-physics-prize	2015年10月16日
4	ロクサーユニット	この度、沖縄科学技術大学院大学(OIST)のロクサーユニットが発表した論文「頭足類の神経系および形態学的新規性」が、「CIAC Best Scientific Paper Award 2015」を受賞しました。	http://www.oist.jp/news-center/press-releases/decoding-genome-alien http://www.nature.com/nature/journal/v524/n7564/full/nature14668.html	2015年8月13日
5	新里博士(佐藤ユニット)	沖縄科学技術大学院大学(OIST)マリンゲノミクスユニットグループリーダーの新里宙也博士が2015年ロッキーチャレンジ賞を受賞しました。同賞は2010年に日産ディーゼル工業元社長で那覇市出身の仲村巖氏が設立したもので、志やチャレンジ精神において優れた思考と行動を併せ持っている個人や団体に贈られます。新里博士はサンゴ研究者としてのこれまでの輝かしい活躍が認められ、6人目の受賞者に選ばれました。	http://www.oist.jp/news-center/news/2015/6/8/dr-shinzato-wins-rocky-challenge-prize	2015年6月8日

平成27年度アウトリーチ活動実績

日付 Date	研究員名 Name	研究ユニット Unit, Section	プログラム名/参加者 Program, participants	内容 Contents	会場 Venue	主催 Sponsorship	講演会タイトル Title	人数 Number of people
2015/4/14	Vandna Gokhroo	Nic Chormaic Unit	お茶の水女子大学附属高校 Ochanomizu University Senior High School	research outline	C209			11
2015/4/20	nathan Michael We	IT	仙台育英学園高校 情報科学コース Sendai Ikuei Gakuen High School	career introduction	B250			60
2015/4/27	Christina Lee	OIST Student	大阪大学附属 池田中学校3年生 IKEDA JUNIOR HIGH SCHOOL ATTACHED TO OSAKA KYOIKU UNIVERSITY	research outline	B250			40
2015/5/1	Hisashi Gakiya	CR	南城市校長会 Nanjo City Board of Principals	OIST出前授業の紹介 Lectures at schools by OIST researchers	南城市役所会議室 Nanjo City Office	南城市教育委員会 Nanjo City Board of Education		About 30
2015/5/18	Hidetoshi Saze	Saze Unit	OIST医療関係者向け講演会 Lecture for Medical Personnel	「From “Slow” to “Ultrafast”」	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター Okinawa Prefectural Nanbu Medical Center & Children's Medical Center	OIST	「From “Slow” to “Ultrafast”」	About 100
2015/5/22	Mizuki Shimanuki	Imaging and Instrumental Analysis Section	琉球大学機器分析センター Instrumental Research Center at University of the Ryukyus	Outline of Common Equipment Management	D015			13
2015/5/22	Hiroki Goto	DNA Sequencing Section	琉球大学機器分析センター Instrumental Research Center at University of the Ryukyus	Introduction of DNA Sequencer	OIST			13
2015/5/22	Kumada	Yanagida Unit	琉球大学機器分析センター Instrumental Research Center at University of the Ryukyus	Introduction of Yanagida Unit	OIST			13
2015/5/28	Evan Economo	Economo Unit	球陽高校 理数科講演会 Lecture for Science Course in Kyuyo High School	OKEON ~美ら森プログラム ~についてと研究紹介 OKEON project, research outline	Kyuyo High School	Kyuyo High School		About 40

2015/6/4	與久田 龍一 Ryuichi Yokuda	IT	具志川商業高校 1年5組 情報システム科 Gushikawa Commercial High School	career introduction	B250			82
2015/6/24-28	Anna Nagamine	Business Development Section	恩納村内中学校職場体験プログラム workplace experience program by Jr. High Schools in Onna Village	workplace experience	OIST			5
2015/6/24-29	Larisa Kiseleva	Goryanin Unit	恩納村内中学校職場体験プログラム workplace experience program by Jr. High Schools in Onna Village	workplace experience	OIST			5
2015/6/24-30	Toshio Sasaki	Imaging and Instrumental Analysis Section	恩納村内中学校職場体験プログラム workplace experience program by Jr. High Schools in Onna Village	workplace experience	OIST			5
2015/7/1	大野 勝也 Luis Luis Katsuya Ono	Qi Unit	安富祖中学校訪問 (中学3年生) Afuso Jr. high school	research outline	C210, Qi Unit Lab			10
2015/7/2	Omar Pedro Jaidar Benavides	Arbuthnott Unit	安富祖中学校訪問 (中学4年生) Afuso Jr. high school	Lab tour	OIST			8
2015/7/3	Maria Rosa Mendoza Quijano	Tanaka Unit	安富祖中学校訪問 (中学5年生) Afuso Jr. high school	Lab tour	OIST			8
2015/7/4	Yu Shimizu	Doya Unit	安富祖中学校訪問 (中学6年生) Afuso Jr. high school	Lab tour	OIST			8
2015/7/7	Evan Economo	Economo Unit	農林水産省 那覇植物防疫事務所, JICA研修員 Naha Plant Protection Station, JICA trainee	Lab tour	OIST			9
2015/7/	Hidetoshi Saze	Saze Unit	農林水産省 那覇植物防疫事務所, JICA研修員 Naha Plant Protection Station, JICA trainee	Lab tour	OIST			9
2015/7/14	Robert Baughman	Office of the EVP for Sustainable Development of Okinawa	平成27年度 沖縄科学技術大学院大学発展促進県民会議総会 General Assembly of the Council for Promotion of OIST	OIST Outline/Progress Report and Business Development at OIST	B250			150

2015/7/15	Ken Kuwae	Kitano Unit	平成28年度 沖縄科学技術大学院大学発展促進県民会 議総会 General Assembly of the Council for Promotion of OIST	research outline	B251		「ようこそ！統合オー プンシステムユニット へ」	About 150
2015/7/20	Youhei Morita	Conference and Workshop Section	平成27年度 文化情報センター夏休 み企画 Summer Vacation Program by Onna Village Cultural Information Center	observation of the stars	Onna Village Cultural Information Center		星の観測会「望遠鏡 で天体観測～土星 の輪がみえるかな？ ～」	20 pares
2015/8/7	新竹積 Tsumoru Shintake	Shintake Unit	アジアユース人材育成事業参加高校 生 Asian Youth Development Program in Okinawa 2015	research outline	Conference Center Meeting Room1			85
2015/8/10	James Schloss	OIST Student	新報サイエンスクラブ 特別イベント Special Event by Shimpo Science Club	demonstration	Auditorium		「体験しよう！私たち のみのまわりにある 物理の世界」	About 170
2015/8/5	照屋 貴之 Takayuki Teruya	Yanagida Unit	知念高校1年生 Chinen High School	research outline	B250			84
2015/8/25	Evan Economo, Yoshimura Masashi Ogasawara Masako	Economo Unit	沖縄県教育庁 Okinawa Prefectural Office Staff of Education	Lab tour				5
2015/8/26	Steven Douglas Aird, Risa Satoh, Taeko Endo	Language Section	Job in English	experience the job	OIST			103
2015/8/26	仲田 尚平 右田 歩(お手伝 い) Nakada Shohei Migita Ayumu	Mitarai Unit	糸満市立三和中学校1年生 (希望者のみ訪問) Miwa Junior High School	research outline	C700			20
2015/9/19	Nic Shannon	Shannon Unit	開邦高校 2年生 (琉大教授高相様より依頼) Kaiho High School with Prof. Takaso from Ryudai	Lab tour	OIST			7
2015/9/19	Evan Economo	Economo Unit	開邦高校 2年生 (琉大教授高相様より依頼) Kaiho High School with Prof. Takaso from Ryudai	Lab tour	OIST			7
2015/9/19	Harry Wilson	Academic Services Section	開邦高校 2年生 (琉大教授高相様より依頼) Kaiho High School with Prof. Takaso from Ryudai	Lab tour	OIST			7

2015/10/8	中西 節子 Setsuko Nakanishi	Skoglund Unit	SSH 清心女子高等学校 2年生 Notre Dame Seishin High School		B250			30
2015/10/20	佐藤リサ Risa Sato	Language Section	京都府立桃山高校 文系2年生 Momoyama Senior High School	career introduction	B251			125
2015/10/22	新里 宙也 Chuya Shinzato	Satoh Unit	SSH 京都府立桃山高校 理系2年生 Momoyama Senior High School	research outline	Auditorium			168
2015/11/4	Hiroki Ishikawa	Ishikawa Unit	OIST医療関係者向け講演会 Lecture for Medical Personnel	About Immune molecular mechanisms	沖縄県立南部医療センター・こども医 療センター Okinawa Prefectural Nanbu Medical Center & Children's Medical Center		「免疫分子メカニズ ムについて」	About 100
2015/11/5	Tsumoru Shintake	Shintake Unit	海洋研究開発機構賛助会 JAMSTEC Partners	Lab tour	OIST			38
2015/11/5	Satoshi Mitarai	Mitarai Unit	海洋研究開発機構賛助会 JAMSTEC Partners	Lab tour	OIST			38
2015/11/11	opher Paraiso Mor	Yamamoto Unit	喜瀬武原中学校 OIST訪問プログラ ム Visit by Kisenbaru Junior High School	research outline	OIST			6
2015/11/16	菊池 さくら Sakura Kikuchi	Satoh Unit	開邦高等学校1年生 理数科 Kaiho High School	career introduction	B250			17
2015/11/17	Tomas Holland	Language Section	英語プレゼンテーションプログラム English Presentation Program	「Give a Great Poster Presentation」	Kyuyo High School	Kyuyo High School	「Give a Great Poster Presentation」	160
2015/11/24	Hiroko Sho	Board of Governors	～Distinguished Speaker Series～ 第 1回講演「沖縄における女性の活躍と OISTに望むこと」	Success by women in Okinawa and thigs wish for OIST	OIST		「沖縄における女性 の活躍とOISTに望 むこと」	About 50
2015/11/25	Tomomi Okubo	Media Section	名護中学校職場体験 workplace experience program by Nago Junior High School	workplace experience	OIST			3

2015/11/25	Yuki Yamauchi	CR	名護中学校職場体験 workplace experience program by Nago Junior High School	workplace experience	OIST			3
2015/11/25	Toshio Sasaki	Imaging and Instrumental Analysis Section	名護中学校職場体験 workplace experience program by Nago Junior High School	workplace experience	OIST			3
2015/11/28	George Iwama	Executive Vice President Office	第8回英語教育を考えるフォーラムin Okinawa English Education Forum in Okinawa	“English, an enabler, not the goal”	Okinawa University	Okinawa Association of English Education	“English, an enabler, not the goal”	25
2015/12/7	小堀 峻吾 Shungo Kobori	Yokobayashi Unit	沖縄工業高校 工業化学科 1～3年 生 Okinawa Technical High School	research outline	B250			113
2015/12/10	Rory Cerbus	Chakraborty Unit	山梨県立甲府東高校2年 普通科理数コース Kofu Higashi High School	research outline	B250			43
2015/12/14	Hisashi Gakiya	CR	山田中学校 OIST訪問プログラム Visit by Yamada Junior High School	liquid nitrogen demonstration	OIST		「液体窒素で実験」	30
2015/12/14	池宮城 秀太 Syuta Ikemiyagi	Engineering Support Section	沖縄工業高校 情報電子科 1年 Okinawa Technical High School	career introduction	B250			83
2015/12/15	池宮城 秀太 Syuta Ikemiyagi	Engineering Support Section	沖縄工業高校 電子機械科 3年生 Okinawa Technical High School	career introduction	B250			83
2015/12/16	Matthew Ryan Leyd	Qi Unit	名護商工高校 総合情報科1年生 Nago Commercial & Technical High School	liquid nitrogen demonstration	B250			42
2015/12/17	荷川取 理奈 Rina Nikawadori	Academic Services Section	普天間高校 普通科2年生 Futenma High School	research outline	B250			41
2015/12/18	Zachary Hensel	Marquez-Lago Unit	美里工業高等学校 電気科2年 Misato Technical High School	research outline	B250			83

2016/1/19	Ludovic Jaubert	Shannon Unit	出前授業: 恩納村中学校 Lectures in Onna Junior High School	liquid nitrogen demonstration	Onna Junior High School			50
2016/1/21	面川 浩史 Hiroshi Omokawa	IT	離島高校生訪問 2-3年 (八重山商工、伊良部高校、宮古工業高校 IT津梁まつり参加者) Irabu Senior High School, Miyako Technical High School, Yaeyama Commercial & Technical High School	research outline	C209			30
2016/1/27	宮崎祐士 Yuji Miyazaki	Saze Unit	中部農林高校食品科学科2年生 Chubu Agricultural High School	research outline	B503			41
2016/2/2	柳原 真 Shin Yanagihara	Yazaki-Sugiyama Unit	名護高校1年 普通科、フロンティア科 Nago High School	research outline	Auditorium			330
2016/2/5-6	Kenji Osabe	Saze Unit	宮古サイエンストリップ Miyako Science Trip	research outline, career	Miyako High School		宮古高等学校「科学、研究との出会い」	About 100
2016/2/12	Toshinori Tanaka	Occupational Health and Safety Section	OIST一般公開講演会 「研究公正の推進に向けて」 Open Seminar: Promotion of Research Integrity	Outline of the MEXT Guidelines and Efforts to Promote Research Integrity at OIST	B250		セミナー②「研究不正ガイドラインの概要及び研究公正に関するOISTの取組について」	About 100
2016/2/18	Michael Holmes	Mikheyev Unit	Special Tour for Ryudai	Lab tour	OIST			About 60
2016/2/18	Yo-taro Shirai	Yamamoto Unit	Special Tour for Ryudai	Lab tour	OIST			About 60
2016/2/18	Tim Dyce	IT	Special Tour for Ryudai	Lab tour	OIST			About 60
2016/2/18	Ye Zhang	Zhang Unit	Special Tour for Ryudai	Lab tour	OIST			About 60
2016/2/18	Nori Satoh	Satoh Unit	Special Tour for Ryudai	Lab tour	OIST			About 60
2016/2/18	Gordon W. Arbuthnott	Arbuthnott Unit	Special Tour for Ryudai	Lab tour	OIST			About 60
2016/2/18	Luis Katsuya Ono	Qi Unit	Special Tour for Ryudai	Lab tour	OIST			About 60
2016/2/18	Hidetoshi Saze	Saze Unit	Special Tour for Ryudai	Lab tour	OIST			About 60
2016/2/18	Satoshi Mitarai	Mitarai Unit	Special Tour for Ryudai	Lab tour	OIST			About 60
2016/2/18	Lars-Goran Ofverstedt	Skoglund Unit	Special Tour for Ryudai	Lab tour	OIST			About 60

2016/2/18	Yasuo Higashi	Engineering Support Section	Special Tour for Ryudai	Lab tour	OIST			About 60
2016/2/18	Larisa Kiseleva	Goryanin Unit	Special Tour for Ryudai	Lab tour	OIST			About 60
2016/2/18	Rory Cerbus, Yuna Hattori	Chakraborty Unit	Special Tour for Ryudai	Lab tour	OIST			About 60
2016/2/18	Fujie Tanaka	Tanaka Unit	Special Tour for Ryudai	Lab tour	OIST			About 60
2016/2/18	Kenji Doya	Doya Unit	Special Tour for Ryudai	Lab tour	OIST			About 60
2016/2/21	大嶺 千香子 Chikako Omine	IT	名護商工高校 総合情報科2年 Nago Commercial & Technical High School	career introduction	B250			31
2016/2/24	佐二木 健一 Kenichi Sajiki	Yanagida Unit	具志川高校 普通科、特進科 Gushikawa High School	research outline	B250			248
2016/2/26	波木井様、原永様 Mr. Hakii, Mr. Haranaga	OBM(沖縄ビルメンテナンス)	美里工業高校 設備工業科 Misato Technical High School	facility tour	B250、OIST Facilities			38
2016/3/2	Luis Katsuya Ono	Qi Unit	JSTさくらサイエンスプラン参加者(沖縄高専学生・教員、国立台北科技大学生) Participants of Sakura Science Plan	research outline, Lab tour	OIST			7
2016/3/2	Julien Madeo	Dani Unit	JSTさくらサイエンスプラン参加者(沖縄高専学生・教員、国立台北科技大学生) Participants of Sakura Science Plan	Lab tour	OIST			7
2016/3/2	Hidehito Adaniya	Shintake Unit	JSTさくらサイエンスプラン参加者(沖縄高専学生・教員、国立台北科技大学生) Participants of Sakura Science Plan	Lab tour	OIST			7
2016/3/4	Rashi Sachdeva	Busch Unit	北山高校 Hokuzan High School	exchange ideas about career	C209			41
2016/3/7	ry Matilda Grossm	Mitarai Unit	Kadena Middle School	research outline	C700			21
2016/3/7	Georg Fischer	Economo Unit	大阪府立住吉高校(球陽高校との合同。住吉:8、球陽:8) Sumiyoshi High School, Kyuyo High School	research outline	C209			20

2016/3/7	usad Hossain Sha	Samatey Unit	大阪府立住吉高校(球陽高校との合同。住吉:8、球陽:9) Sumiyoshi High School, Kyuyo High School	exchange ideas about career	C209			20
2016/3/7	Thomas Holland	Language Section	大阪府立住吉高校(球陽高校との合同。住吉:8、球陽:10) Sumiyoshi High School, Kyuyo High School	English presentation evaluation	C209			20
2016/3/16	山城 亮 Ryo Yamashiro	Konstantinov Unit	首里高校 Shuri High School	research outline	B250			206
2016/3/16	Ichiro Maruyama	Maruyama Unit	Blue Industries株式会社、日本たばこ産業株式会社、AZAPA株式会社 Blue Industries Inc., Japan Tobacco Inc., AZAPA Co.	Lab tour	OIST			5
2016/3/16	Fujie Tanaka	Tanaka Unit	Blue Industries株式会社、日本たばこ産業株式会社、AZAPA株式会社 Blue Industries Inc., Japan Tobacco Inc., AZAPA Co.	Lab tour	OIST			5
2016/3/17	添盛 亜紀子 Akiko Soemori	Mechanical Engineering & Microfabrication Support Section	首里高校 Shuri High School	career introduction	B250			206
2016/3/17	Zacharie Taoufiq	Takahashi Unit	Biotechnology Camp 2016参加者(高専学生・教員、Nanyang Polytechnic 学生)	research outline	C209			25
2016/3/22	Zacharie Taoufiq	Takahashi Unit	DODEA, Junior Science & Humanities Symposium Participants (US High School Students)	research outline	Auditorium			22
2016/3/23	rs-Goran Ofverste	Skoglund Unit	DODEA, LinguaFest Participants (US High School Students)	research outline	Auditorium			115
2016/3/24	ie Gillet, OIST stu	Office of the Dean of the Graduate School	Okinawa Christian School International science fair participants	Lab tours	C210			7
2016/3/25	Amy Shen	Shen Unit	サイエンスプロジェクトfor琉球ガールズ ~本島編~参加高校生 Science Project for Ryukyu Girls Participants	research outline	C210			33

2016/3/25	Hidetoshi Saze	Saze Unit	サイエンスプロジェクトfor琉球ガールズ ～本島編～参加高校生 Science Project for Ryukyu Girls Participants	research outline	C210			33
2016/3/25	Mei Hiyane	Saze Unit	サイエンスプロジェクトfor琉球ガールズ ～本島編～参加高校生 Science Project for Ryukyu Girls Participants	research outline	C210			33
2016/3/25	Akiko Soemori	Mechanical Engineering & Microfabrication Support Section	サイエンスプロジェクトfor琉球ガールズ ～本島編～参加高校生 Science Project for Ryukyu Girls Participants	career introduction	C210			33

学術交流協定一覧(平成28年3月31日現在)

No.	大学・機関	国	締結日	満了日	協定のタイプ
1	京都大学大学院・情報学研究科	日本	2010/3/31	期限(未定)	連携協力に関する協定書
2	エルサレム大学	パレスチナ自治政府	2011/3/5	2016/3/4	科学・学術協力に関する覚書
3	ユニバーシティ・カレッジ・コーク	アイルランド	2011/10/20	2016/10/19	科学・学術協力に関する覚書
4	琉球大学	日本	2012/4/1	2017/3/31	連携協力に関する協定書
5	沖縄工業高等専門学校	日本	2012/5/22	2017/5/21	連携協力に関する協定書
6	ウッズホール海洋生物学研究所	米国	2012/5/19	2017/5/18	科学協力に関する協定書
7	ウッズホール海洋研究所	米国	2012/6/11	2017/6/10	科学協力に関する協定書
8	オタゴ大学	ニュージーランド	2011/10/2	2016/10/1	覚書
9	北海道大学大学院理学院	日本	2012/8/1	2017/7/31	履修に関する協定書
10	九州大学・博士課程リーディングプログラム	日本	2012/10/22	2019/10/21	覚書
11	奈良先端科学技術大学院大学・情報科学研究科	日本	2012/9/1	2015/3/31	特別研究学生
12	大阪大学大学院医学系研究科	日本	2012/9/1	2016/3/31	特別研究学生
13	京都大学大学院情報学研究科	日本	2013/4/1	2018/3/31	特別研究学生
14	東京大学医科学研究所	日本	2013/7/2	2018/7/1	学術交流協定
15	沖縄美ら島財団	日本	2013/8/29	2018/8/28	科学・学術協力に関する基本協定書
16	カリフォルニア大学・バークレー校	米国	2013/10/11	2018/10/10	科学・学術協力に関する基本協定書
17	国立台湾大学	台湾	2014/1/17	2019/1/16	科学・学術協力に関する基本協定書
18	東京大学	日本	2014/1/28	2019/1/27	科学・学術協力に関する基本協定書
19	東京大学・理学部	日本	2014/1/28	2019/1/27	学生交流に関する覚書
20	テキサス テック 大学	米国	2014/3/28	2019/3/27	科学・学術協力に関する基本協定書
21	テキサス テック 大学・環境・トキシコロジー学部	米国	2013/4/1	2018/3/31	学生交流に関する協定書 特別研究学生
22	アレキサンドリア大学	エジプト	2014/3/28	2019/3/27	科学・学術協力に関する基本協定書
23	アレキサンドリア大学・理学部	エジプト	2014/2/1	2019/1/31	学生交流に関する協定書 特別研究学生
24	ザ・フリーステイト大学	南アフリカ	2014/3/28	2019/3/27	科学・学術協力に関する基本協定書
25	クレタ大学	ギリシャ	2014/3/28	2019/3/27	科学・学術協力に関する基本協定書
26	クレタ大学・理学・工学部	ギリシャ	2013/10/1	2018/9/30	学生交流に関する協定書 特別研究学生
27	クワズール大学ーネイトル	南アフリカ	2014/6/8	2019/6/7	科学・学術協力に関する基本協定書
28	クワズール大学ーネイトル・化学・物理学部	南アフリカ	2014/8/1	2019/7/30	学生交流に関する協定書
29	ハワイ大学ーマノア校	米国	2015/7/10	2020/7/9	科学・学術協力に関する基本協定書

平成27年度OIST主催によるワークショップ

	開催日	テーマ	開催場所	参加者数
1	2015年5月25日～28日	ONNA2015: ナノ光ファイバーの諸応用:量子技術からバイオ技術へ	OISTシーサイドハウス	84 (海外: 48) 名
2	2015年6月8日～25日	OCNC2015: OIST計算神経科学コース	OISTシーサイドハウス	71 (海外: 41) 名
3	2015年7月12日～28日	DNC2015: OIST神経発生生物学コース	OISTメインキャンパス	54 (海外: 33) 名
4	2015年9月29日～10月8日	物理スクールおきなわ:コヒーレント量子ダイナミクス	OISTシーサイドハウス	86 (海外: 47) 名
5	2015年11月2日～6日	RMT2015: 数学基礎から生物応用へのランダム行列理論	OISTシーサイドハウス	46 (海外: 33) 名
6	2015年11月2日～7日	第3回 CCP4-OIST スクール	OISTシーサイドハウス	27 (海外: 7) 名
7	2015年11月11日～14日	EAJS2015: 東アジア共同シンポジウム2015	OISTメインキャンパス	95 (海外: 47) 名
8	2016年1月25日～29日	機能性材料国際シンポジウム	OISTメインキャンパス	74 (海外: 44) 名
9	2016年3月16日～20日	OIST海洋研究ワークショップシリーズ第一回Multi-Island Connectivity	OISTシーサイドハウス	30 (海外: 15) 名
合計				567 (海外: 315) 名

平成27年度開催のOIST主催によるミニシンポジウム

	開催日	テーマ	開催場所	参加者数
1	2015年4月21日～22日	セルロースの謎を解く: 合成のしくみと生物多様性から切り拓く生物素材の未来	OISTメインキャンパス	20 (海外: 7)
2	2015年5月7日～9日	生体構造の三次元電子顕微鏡解析における最近の動向	OISTシーサイドハウス	17 (海外: 7)
3	2015年5月10日～12日	小が大と交わる時: マイクロ流体と海洋生態系を繋ぐ	OISTメインキャンパス	15 (海外: 6)
4	2015年5月14日～16日	最先端医用画像処理と次世代がん治療装置 (BNCT)	OISTシーサイドハウス	55 (海外: 3)
5	2015年10月30日～11月1日	ナノ流体・ナノファブリケーションの最新動向と先端技術	OISTメインキャンパス	13 (海外: 6)
6	2016年1月13日～15日	かご状タンパク質の数理モデル化と解析	OISTメインキャンパス	11 (海外: 10)
7	2016年2月15日～17日	アンフィポールシンポジウム 2016	OISTシーサイドハウス& メインキャンパス	27 (海外: 19)
8	2016年3月3日～5日	量子技術に用いられるリユードベリ原子	OISTシーサイドハウス	15 (海外: 10)

平成27年度OIST主催によるワークショップ

	開催日	テーマ	開催場所	参加者数
			合計	173 (海外: 68)

平成27年度開催のその他のOIST主催及び共催の学術的会議

	開催日	テーマ	開催場所	参加者数
1	2015年6月30日～7月3日	合同国際シンポジウム「第3回ミリ波とテラヘルツ波の科学と応用に関する国際シンポジウム(MTSA 2015)」および「第5回テラヘルツナノ科学に関する国際シンポジウム(Teranano 2015)	OISTカンファレンス・センター	159 (海外: 71)
2	2015年11月28日～30日	高度情報処理と生物医科学国際会議 (ICIIBMS)	OISTカンファレンス・センター	165 (海外: 65)
3	2016年1月6日～16日	超弦理論／素粒子／宇宙論のアジア冬の学校	OISTカンファレンス・センター	116 (海外: 66)
4	2016年3月21日～23日	海と陸の保護政策の生態と社会経済への影響	OISTメインキャンパス	14 (海外: 11)
			合計	454 (海外: 213)

平成27年度 職位毎の職員数

平成27年度 職位毎・国籍別職員数

2016/03/31現在

役職名称	定年制				任期制					派遣				非常勤				総計							
	女	男	うち 外国人	定年制 集計	女	男	うち 出向者	うち 外国人	任期制 集計	女	男	うち 外国人	派遣 集計	女	男	うち 外国人	非常勤 集計	女	男	うち 外国人	合計				
Admin						1			1									0	1	0	1				
テイティング・イッシュトップフェッサー						1			1									0	1	1	1				
上席副学長						1		1	1									0	1	1	1				
ビジネスマネージャー						1		1	1									0	1	1	1				
副学長					3	3	1	3	6									3	3	3	6				
准副学長					1	4	1	2	5									1	4	2	5				
シニア・マネージャー		2		2	1	5	2		6									1	7	0	8				
スペシャリスト III					1	3	1	2	4									1	3	2	4				
マネージャー	2	6		8	5	7	1	3	12									7	13	3	20				
スペシャリスト II					1			1	1									1	0	1	1				
アシスタント・マネージャー		2		2	5	4		2	9									5	6	2	11				
スペシャリスト I					6	9		6	15									6	9	6	15				
職員	4	1		5	104	33	2	17	137									108	34	17	142				
インターン														1	1	2	2	1	1	2	2				
パートタイム職員														6	7		13	6	7	0	13				
派遣職員										26	2	4	28					26	2	4	28				
アドミ集計	6	11		17	127	71	8	38	198	26	2	4	28	7	8	2	15	166	92	44	258				
RSD						1			1									0	1	0	1				
シニア・マネージャー						1			1									0	1	0	1				
マネージャー		1		1		4			4									0	5	0	5				
スペシャリスト II		1		1														0	1	0	1				
アシスタント・マネージャー						1		1	1									0	1	1	1				
スペシャリスト I						2		1	2									0	2	1	2				
職員	1	1		2	18	21		8	39									19	22	8	41				
パートタイム職員														4		1	4	4	0	1	4				
派遣職員										6	1		7					6	1	0	7				
リサーチサポート集計	1	3		4	18	29		10	47	6	1		7	4		1	4	29	33	11	62				
Unit					8	43		33	51									8	43	33	51				
教授					8	4		9	12									8	4	9	12				
サイエンス・テクノロジー・アソシエイト					1	2		2	3									1	2	2	3				
リサーチスペシャリスト					14	53		29	67					1			1	14	54	29	68				
スタッフサイエンティスト					26	116		106	142									26	116	106	142				
ポストドクトラルスカラー						1			1									0	1	0	1				
スペシャリスト II					2	3		4	5									2	3	4	5				
スペシャリスト I					40	37		35	77	1	4	1	5	13	2	8	15	54	43	44	97				
技術員														7			7	7	0	0	7				
ラボラトリーアシスタント					38				38					1			1	39	0	0	39				
リサーチアドミニストレーター										3	4	1	7					3	4	1	7				
派遣職員																									
研究ユニット集計					137	259		218	396	4	8	2	12	21	3	8	24	162	270	228	432				
総計					7	14		21	282	359	8	266	641	36	11	6	47	32	11	11	43	357	395	283	752

添付資料#2.4-1 平成27年度 職位毎・国籍別の職員数

平成27年度 職位毎・国籍別の職員数

2016/03/31現在

		国籍	アドミ	リサーチサポート	研究部門 (研究者)	研究部門 (研究者以外)	合計
1	AR	アルゼンチン			3	0	3
2	AT	オーストリア			2	1	3
3	AU	オーストラリア	4		4	0	8
4	BD	バングラデシュ		1	1	0	2
5	BE	ベルギー	1		2	0	3
6	BG	ブルガリア	1		1	1	3
7	BY	ベラルーシ			1	0	1
8	CA	カナダ	2		2	1	5
9	CH	スイス			1	0	1
10	CN	中国	1		17	5	23
11	CO	コロンビア			1	0	1
12	CR	コスタリカ			1	0	1
13	CZ	チェコ			1	0	1
14	DE	ドイツ			9	1	10
15	EG	エジプト			3	0	3
16	ES	スペイン			4	1	5
17	FR	フランス		1	15	2	18
18	GB	イギリス	5		15	2	22
19	GR	ギリシャ			1	0	1
20	HK	香港			1	0	1
21	HU	ハンガリー		1	0	0	1
22	ID	インドネシア			1	0	1
23	IE	アイルランド	1	1	4	0	6
24	IL	イスラエル			0	1	1

25	IN	インド	1		22	3	26
26	IR	イラン	1		1	0	2
27	IT	イタリア	1	1	3	2	7
28	JP	日本	215	51	97	107	470
29	KE	ケニア			1	0	1
30	KR	韓国	1		4	0	5
31	LK	スリランカ	1		0	1	2
32	LT	リトアニア			1	0	1
33	MU	モーリシャス			1	0	1
34	MX	メキシコ		1	5	2	8
35	NZ	ニュージーランド			3	0	3
36	PE	ペルー			0	1	1
37	PK	パキスタン			2	0	2
38	PL	ポーランド	1		2	0	3
39	PS	パレスチナ			1	0	1
40	PT	ポルトガル			1	0	1
41	RO	ルーマニア			1	1	2
42	RU	ロシア		1	7	2	10
43	SE	スウェーデン			5	1	6
44	SG	シンガポール			0	1	1
45	TR	トルコ			0	2	2
46	TW	台湾			3	2	5
47	UA	ウクライナ			1	1	2
48	US	アメリカ	21	4	22	13	60
49	VE	ベネズエラ	1		0	0	1
50	VN	ベトナム			2	1	3
51	ZA	南アフリカ			0	1	1
52	ZW	ジンバブエ			1	0	1
		総計	258	62	276	156	752

様式 1 公表されるべき事項

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園の役職員の報酬・給与等について

I 役員報酬等について

1 役員報酬についての基本方針に関する事項

① 役員報酬の支給水準の設定についての考え方

国際的に卓越した大学院大学の経営及び教育・研究全体を統括する責任を鑑み、国際的水準を加味した報酬支給水準を設定した。

② 平成26年度における役員報酬についての業績反映のさせ方(業績給の仕組み及び導入実績を含む。)

国際的に卓越した科学的な教育研究における経験、職務の困難度、過去の実績等を勘案して特に必要と認める場合に、常勤役員に対して特別調整手当を支給することができるものとしている。

③ 役員報酬基準の内容及び平成26年度における改定内容

法人の長

1. 役員報酬基準の内容
役員報酬は本俸(年額)、特別調整手当、通勤手当及び住居手当であり、本俸及び特別調整手当の額は上限額の範囲内で、理事会において決定する。
2. 平成26年度における改定内容
常勤役員の総額約10%の給与削減を解除した。

理事

1. 役員報酬基準の内容
役員報酬は本俸(年額)、特別調整手当、通勤手当及び住居手当であり、本俸及び特別調整手当の額は上限額の範囲内で、理事会において決定する。
2. 平成26年度における改定内容
常勤役員の総額約10%の給与削減を解除した。
国際的に卓越した大学院大学の経営および教育・研究全体を統括する責任、また、「沖縄において本学等を核としたグローバルな知的・産業クラスターの形成を推進する」ために新たに担う役割に鑑み、国際的水準を加味し、特別調整手当を増額した。

理事(非常勤)

1. 役員報酬基準の内容
非常勤役員の報酬はその勤務形態を考慮し、職に応じて、理事会によって定められる。
2. 平成26年度における改定内容
改定なし

監事

1. 役員報酬基準の内容
役員報酬は本俸(年額)、特別調整手当、通勤手当及び住居手当であり、本俸及び特別調整手当の額は上限額の範囲内で、理事会において決定する。
2. 平成26年度における改定内容
常勤役員の総額約10%の給与削減を解除した。

監事(非常勤)

1. 役員報酬基準の内容
非常勤役員の報酬はその勤務形態を考慮し、職に応じて、理事会によって定められる。
2. 平成26年度における改定内容
改定なし

2 役員報酬等の支給状況

役名	平成26年度年間報酬等の総額				就任・退任の状況		前職
	報酬(給与)	賞与	その他(内容)	就任	退任		
法人の長	千円 60,000	千円 30,000	千円	千円 30,000 (特別調整手当)			
A理事	千円 7,057	千円 4,524	千円	千円 2,533 (特別調整手当)		6月22日	
B理事	千円 24,580	千円 15,476	千円	千円 9,104 (特別調・通勤)	6月23日	3月31日	
A理事 (非常勤)	千円 288	千円 288	千円	千円 ()	11月1日		
B理事 (非常勤)	千円 1,300	千円 1,300	千円	千円 ()			
C理事 (非常勤)	千円 288	千円 288	千円	千円 ()	11月1日		
D理事 (非常勤)	千円 1,380	千円 1,380	千円	千円 ()	11月1日		
E理事 (非常勤)	千円 1,380	千円 1,380	千円	千円 ()			
F理事 (非常勤)	千円 1,300	千円 1,300	千円	千円 ()			
G理事 (非常勤)	千円 291	千円 291	千円	千円 ()		10月31日	
H理事 (非常勤)	千円 288	千円 288	千円	千円 ()	11月1日		
I理事 (非常勤)	千円 1,380	千円 1,380	千円	千円 ()			
J理事 (非常勤)	千円 980	千円 980	千円	千円 ()			
K理事 (非常勤)	千円 1,380	千円 1,380	千円	千円 ()			
L理事 (非常勤)	千円 650	千円 650	千円	千円 ()	10月1日		
M理事 (非常勤)	千円 1,380	千円 1,380	千円	千円 ()			*
N理事 (非常勤)	千円 1,380	千円 1,380	千円	千円 ()			
O理事 (非常勤)	千円 291	千円 291	千円	千円 ()		10月31日	

P理事 (非常勤)	千円 1,380	千円 1,380	千円 ()	千円 ()			
Q理事 (非常勤)	千円 691	千円 691	千円 ()	千円 ()		10月31日	
A監事	千円 15,288	千円 15,000	千円 ()	千円 288 (通勤手当)			◇
A監事 (非常勤)	千円 284	千円 ()	千円 ()	千円 ()		5月31日	
B監事 (非常勤)	千円 1,385	千円 ()	千円 ()	千円 ()	6月9日		

注1:「その他」欄には手当等が支給されている場合は、例えば通勤手当の総額を記入する。

注2:「前職」欄には、役員の前職の種類別に以下の記号を付す。

退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後

独立行政法人等の退職者「*※」、該当がない場合は空欄

注3:特別調整手当は、国際的に卓越した科学的な教育研究における経験、職務の困難度、過去の実績等を勘案して特に必要と認める場合に、常勤役員に対して支給することができる手当。

3 役員報酬水準の妥当性について

【法人の検証結果】

法人の長

国際的に卓越した大学院大学の経営及び教育・研究全体を統括する責任の重大性・職務の困難度、過去の実績、国際的水準に照らし妥当である。

理事

国際的に卓越した大学院大学の経営及び教育・研究全体を統括する責任の重大性、「沖縄において本学等を核としたグローバルな知的・産業クラスターの形成を推進する」ために新たに担う役割の困難性、過去の実績、国際的水準に照らし妥当である。

理事(非常勤)

国際的に卓越した大学院大学の経営及び教育・研究全体を統括する責任の重大性、ノーベル賞受賞者等その識見に照らし妥当である。

監事

国際的に卓越した大学院大学の監査業務の責任の重大性・職務の困難度に照らし妥当である。

監事(非常勤)

国際的に卓越した大学院大学の監査業務の責任の重大性・職務の困難度に照らし妥当である。

【主務大臣の検証結果】

学園の理事（法人の長を含む。）は、人格が高潔で学識に優れ、学園の業務を適切かつ効果的に運営することができる能力を有する者であることが求められていることから、その報酬については、国際的な水準との均衡などを考慮した結果、妥当なものであると考えられる。

4 役員の退職手当の支給状況(平成26年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

区分	支給額(総額)	法人での在職期間		退職年月日	業績勘案率	前職
	千円	年	月			
理事A	6,133	2	8	6月22日	1.0	
理事B	1,813	0	10	3月31日	1.0	

注:「前職」欄には、退職者の役員時の前職の種類別に以下の記号を付す。
退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「*※」、該当がない場合は空欄

5 退職手当の水準の妥当性について

【主務大臣の判断理由等】

区分	判断理由
理事A	退職手当支給額は、「独立行政法人、特殊法人及び認可法人の役員の退職金について」(平成15年12月19日閣議決定(平成27年3月24日一部改正))に準じた方法により算出されており、また、業績勘案率は理事会において、在職期間中の業績を勘案して決定されており、妥当なものであると考えられる。
理事B	退職手当支給額は、「独立行政法人、特殊法人及び認可法人の役員の退職金について」(平成15年12月19日閣議決定(平成27年3月24日一部改正))に準じた方法により算出されており、また、業績勘案率は理事会において、在職期間中の業績を勘案して決定されており、妥当なものであると考えられる。

注:「判断理由」欄には、法人の業績、担当業務の業績及び個人的な業績の検討結果を含め、業績勘案率及び退職手当支給額の決定に到った理由等を具体的に記入する。

6 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

業績給に類似のものとして、国際的に卓越した科学的な教育研究における経験、職務の困難度、過去の実績等を勘案して特に必要と認める場合に、常勤役員に対して特別調整手当を支給することができる仕組みを導入済みである。今後も同仕組みを継続する。

II 職員給与について

1 職員給与についての基本方針に関する事項

① 職員給与の支給水準の設定等についての考え方

職種毎に、国家公務員や国内外の大学・研究機関等の給与水準の動向等を踏まえた適切な年俸範囲を定め、その範囲内で個々の業績を反映した給与水準を決定する。

② 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方(業績給の仕組み及び導入実績を含む。)

教員、事務職員等の職種の特性に応じた業績評価制度を導入し、公平性と透明性に配慮しつつ適切に実施し、評価の結果について個々の給与に反映させる。

③ 給与制度の内容及び平成26年度における主な改定内容

1. 給与制度の内容

給与の種類:年俸、超過勤務手当、その他の手当(通勤、住居手当等)

給与体系:年俸制(職種(教員、研究者、事務スタッフ等)と職層に基づく給与レンジを設定)

2.平成26年度における主な改定内容

(1)給与水準の適正化

業績評価を徹底し、昇給への反映を厳格に行うとともに、今後、定年制職員を採用する場合において、能力に遜色ないときは、若年層から積極的に採用する。

(2)法人全体の職員の給与水準の抑制

上記(1)の取組に加え、任期制職員についても、若年層の採用を促進し、法人全体の給与水準の抑制を図る。

2 職員給与の支給状況

① 職種別支給状況

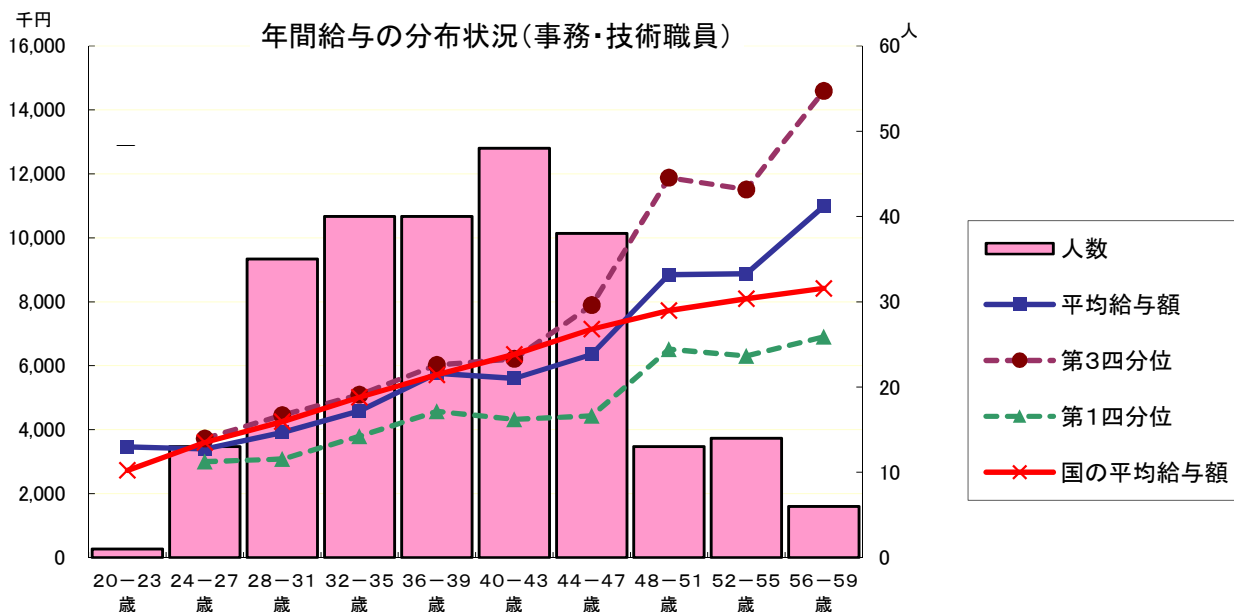
区分	人員	平均年齢	平成26年度の年間給与額(平均)			
			総額	うち所定内	うち通勤手当	うち賞与
常勤職員	人 20	歳 43.3	千円 8,380	千円 8,380	千円 121	千円 0
事務・技術	人 20	歳 43.3	千円 8,380	千円 8,380	千円 121	千円 0

在外職員	人 2	歳 36.5	千円 7,142	千円 7,142	千円 0	千円 0
------	--------	-----------	-------------	-------------	---------	---------

任期付職員	人 423	歳 40.4	千円 6,859	千円 6,859	千円 86	千円 0
教員	人 40	歳 50.8	千円 13,707	千円 13,707	千円 47	千円 0
研究職種	人 147	歳 38.2	千円 6,742	千円 6,742	千円 61	千円 0
事務・技術	人 236	歳 40	千円 5,771	千円 5,771	千円 108	千円 0

注:常勤職員については、在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。

② 年齢別年間給与の分布状況(事務・技術職員)〔在外職員を除く。以下、④まで同じ。〕



注1:①の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下、④まで同じ。

注2:[20-23歳]の年齢階層において、該当者が4人以下であることから、第1・第3分位を表示していない。

③ 職位別年間給与の分布状況

(事務・技術職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	年間給与額	
			平均	最高～最低
部長相当	14	52.5	14,910	20,866 11,507
課長相当	22	47.5	10,059	12,386 7,706
課長補佐相当	21	40.8	6,851	8,443 5,800
主任相当	66	43.0	5,807	8,454 4,393
係員	133	36.3	4,094	9,959 2,511

④ 賞与(平成26年度)における査定部分の比率(事務・技術職員)

区分		夏季(〇月)	冬季(〇月)	計
管理職員	一律支給分(期末相当)	%	%	%
	査定支給分(勤勉相当)(平均)	%	%	%
	最高～最低	～	～	～
	最高～最低	～	～	～
一般職員	一律支給分(期末相当)	%	%	%
	査定支給分(勤勉相当)(平均)	%	%	%
	最高～最低	%	%	%
	最高～最低	～	～	～

注:給与レンジに基づく年俸制を採用しており、賞与の支給は行っていない。

3 給与水準の妥当性の検証等

○事務・技術職員

項目	内容
対国家公務員 指数の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢勘案 96.3 ・年齢・地域勘案 106.0 ・年齢・学歴勘案 94.7 ・年齢・地域・学歴勘案 105.3
国に比べて給与水準が 高くなっている理由	<p>本学園は、沖縄科学技術大学院大学(以下「大学院大学」という。)において国際的に卓越した科学技術に関する教育研究を行うことを目的とする学校法人である。</p> <p>大学院大学においては研究・教育は英語で行われ、また、教員・学生の半数以上を外国人が占めるなど国際的な環境の下、①沖縄の振興と自立的発展、②世界の科学技術の向上に資するため、世界最高水準の教育研究を行う研究者の支援等を担う職員が採用されている。すなわち事務職員にも高度な専門性及び高い英語能力を求められているため、指数が高くなる傾向にある。</p> <p>(参考:調査対象職員(256名)の専門能力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修士以上90名(35%)、うち博士30名(12%) ・大学卒以上197名(77%) (国家公務員(行(一)):54%) ・英語の読み書きに関しては全職員がビジネスレベル以上 <p>また、本学園の全職員は、国家公務員の地域手当非支給地である沖縄県に勤務していることから、地域勘案指数は高くなっていると考えられる。</p> <p>なお、平成26年度の年齢勘案指数は、96.3となっている。</p>
給与水準の妥当性の 検証	<p>(法人の検証結果)</p> <p>年齢勘案で、平成24年度111.7、平成25年度108.5、平成26年度96.3とラスパイレス指数が減少している(他の勘案指数においても同様の傾向)。これまで講じてきた給与水準の引下げに向けた種々の取組により、給与水準の適正化が図られている。</p> <p>(主務大臣の検証結果)</p> <p>学園においては研究・教育が英語で行われ、また、教員・学生の半数以上を外国人が占めるなど国際的な環境の下、世界最高水準の教育研究を行っており、そのような研究者の支援等を担う事務職員にも高度な専門性を有することが求められ、優秀な人材の確保を必要としていると認識している。こうした中、学園の給与水準の適正化のための取組が行われてきた結果、対国家公務員指数については改善が見られたところであり、これらの取組が引き続き着実に実施されるよう、今後とも適切に指導・監督していく。</p>
講ずる措置	<p>今後とも引き続き、</p> <ul style="list-style-type: none"> ①能力に遜色がない場合は、中堅・若年層を計画的に採用 ②業務評価を徹底し、昇給反映の厳格化 <p>を行うことで、適正な給与水準を保つ。</p>

4 モデル給与

大卒初任給	年間給与	2,432,000 円
係員	年間給与	3,544,000 円
主任相当	年間給与	5,277,000 円
課長補佐相当	年間給与	6,860,000 円
課長相当	年間給与	9,041,000 円
部長相当以上	年間給与	12,991,000 円

5 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

教員、事務職員等の職種の特性に応じた業績評価制度を導入し、公平性と透明性に配慮しつつ適切に実施し、評価の結果について個々の給与に反映させる。今後も同仕組みを継続する。

III 総人件費について

区 分	前年度 (平成25年度)	当年度 (平成26年度)
給与、報酬等支給総額 (A)	千円 3,755,654	千円 4,248,644
退職手当支給額 (B)	千円 0	千円 10,847
非常勤役職員等給与 (C)	千円 67,209	千円 68,076
福利厚生費 (D)	千円 375,151	千円 444,872
最広義人件費 (A+B+C+D)	千円 4,198,014	千円 4,772,439

総人件費について参考となる事項

- ・職員等が前年度比117名増加したため、総人件費が増額になっている。
- ・「国家公務員の退職手当の支給水準引下げ等について」(平成24年8月7日閣議決定)を踏まえ、役職員の退職手当について、平成25年4月1日から、国家公務員の退職手当の改正に準じて、退職手当の算定額に調整率(平成25年10月から平成26年6月まで92/100、平成26年7月以降は87/100)を乗じた額を支給することにより減額した。

IV その他

特になし。

FY2015 Training Record

2015年度 職員研修

	Date 実施時期	Training 研修項目	Eligibility 対象人数	Registration 登録者数	Participant 出席者数
1	4/24	Write Perfect E-mail Workshop 完璧な英文メール作成ワークショップ	40	30	29
2	5/14, 6/4	New Graduate Training 新卒研修	3	3	3
3	5/14	Practical Business Manner Seminar: Spoken Language ビジネスマナー実践セミナー～話し言葉編～	15	15	13
4	5/29	Common English Errors Workshop コモン・イングリッシュ・エラーワークショップ	20	20	18
5	6/4	Practical Business Manner Seminar: Written Language ビジネスマナー実践セミナー～ビジネス文書編～	15	15	13
6	6/12	Write Perfect E-mail Workshop 完璧な英文メール作成ワークショップ	20	19	14
7	6/26	Japanese Law (Japanese) 日本の法律について(日本語)			
8	6/26	Japanese Law (English) 日本の法律について(英語)			
9	7/23,7/24	Access Individual Lessons アクセス個別実習	2	2	2
10	8/19	Practical Business Manner Seminar : Written Language (Supplemental Lesson) ビジネスマナー実践セミナー補講(ビジネス文書編)	15	6	4
11	9/10	Microsoft Access (Beginner) Microsoft Access (初心者)	10	10	9
12	9/17	Microsoft Access (Fundamentals) Microsoft Access (基礎)	10	10	10
13	9/18,9/25	Japan My Number ID System Explanation 「マイナンバー」(社会保障・税番号)に関する説明会(日本語)			
14	9/18,9/25,9/28	Japan My Number ID System Explanation (English) 「マイナンバー」(社会保障・税番号)に関する説明会(英語)			
15	10/6	Microsoft Access (Applied Course 1) Microsoft Access (応用①)	10	8	6
16	10/16	Microsoft Access (Applied Course 2) Microsoft Access (応用②)	10	8	5
17	10/22	New Graduate Follow up Training 新卒フォローアップ研修	3	3	3
18	10/23	Microsoft Consultation 1 Microsoft 相談室 ①	10	5	5
19	10/27	Microsoft Excel (Applied Course 1) Microsoft Excel (応用①)	12	15	11
20	11/13	Microsoft Excel (Applied Course 2) Microsoft Excel (応用②)	12	15	12
21	11/20	Microsoft Excel (Practical Course) Microsoft Excel (実務)	12	13	9
22	12/5	Common English Errors Workshop コモン・イングリッシュ・エラーワークショップ	25	25	21
23	12/11	Microsoft Access (Advanced Practical Work) Microsoft Access (実習)	5	5	4
24	12/18	Give a Killer Presentation 完璧な英語プレゼンテーション	25	23	21
25	1/22	Microsoft Word (Practical Course) Microsoft Word (実務)	10	15	8
26	1/26	Microsoft Consultation 2 Microsoft 相談室②	10	6	5
27	2/5	Scientific Writing Seminar 科学論文の書き方セミナー	100	72	55
28	2/8	2016 Income Tax Filing Seminar (Japanese) 2016 確定申告セミナー(日本語)	20	21	14
29	2/8	2016 Income Tax Filing Seminar (English) 2016 確定申告セミナー(英語)	20	5	1
30	3/18	The seminar for New Employee Orientation English Presenters オリエンテーションスピーカーのプレゼン技術向上セミナー	20	9	6
31	3/25	The seminar for New Employee Orientation Japanese Presenters オリエンテーションスピーカーのプレゼン技術向上セミナー	13	10	9
			467	388	310

【外部研究資金課】

セミナー・会議・コース	対象者(記入例: アドミ、研究者、業者等)	参加者数
科研費事務処理説明会(1)	研究者、事務職員	12
科研費事務処理説明会(2)	研究者、事務職員	12
JSPS特別出張説明会(科研費等応募の概要説明会)	研究者、事務職員	100
科研費申請書書き方セミナー(日本語)	研究者、事務職員	38
科研費申請書書き方セミナー(英語)	研究者、事務職員	30
JSPS グラント・フェローシップ説明会	研究者、事務職員	100
研究費とキャリア サロン	研究者、事務職員	38
JST CREST/PRESTO説明会(4月)	研究者、事務職員	29
JST CREST/PRESTO説明会(7月)	研究者、事務職員	21

【Grants & Research Collaboration Section】

Seminar/Meeting/Course	Participants (e.g. admin staff, researchers, vendors etc.)	# of participants
Kakenhi fund use administration seminar(1st round)	Researchers/Admin Staff	12
Kakenhi fund use administration seminar(2nd Round)	Researchers/Admin Staff	12
JSPS Special Seminar (General Introduction of KAKENHI and Fellowship application)	Researchers/Admin Staff	100
KAKENHI Seminar for Writing Proposals (Japanese Session)	Researchers/Admin Staff	38
KAKENHI Seminar for Writing Proposals (English Session)	Researchers/Admin Staff	30
JSPS Grant & Fellowship seminar	Researchers/Admin Staff	100
Salon Grants and Career	Researchers/Admin Staff	38
JST Explanatory session on Research Grants CREST/PRESTO	Researchers/Admin Staff	29
JST Over view of Strategic Basic Research Programs (CREST, PRESTO)	Researchers/Admin Staff	21

Seminar/Training Results in FY2015 (excluding on-line training)

April 18, 2016

2015年度 セミナー及びトレーニング実績（オンライントレーニングを除く）

Period: From April 1, 2015 to March 31, 2016

期間：2015年4月1日から2016年3月31日

Occupational Health and Safety Section

安全衛生セクション

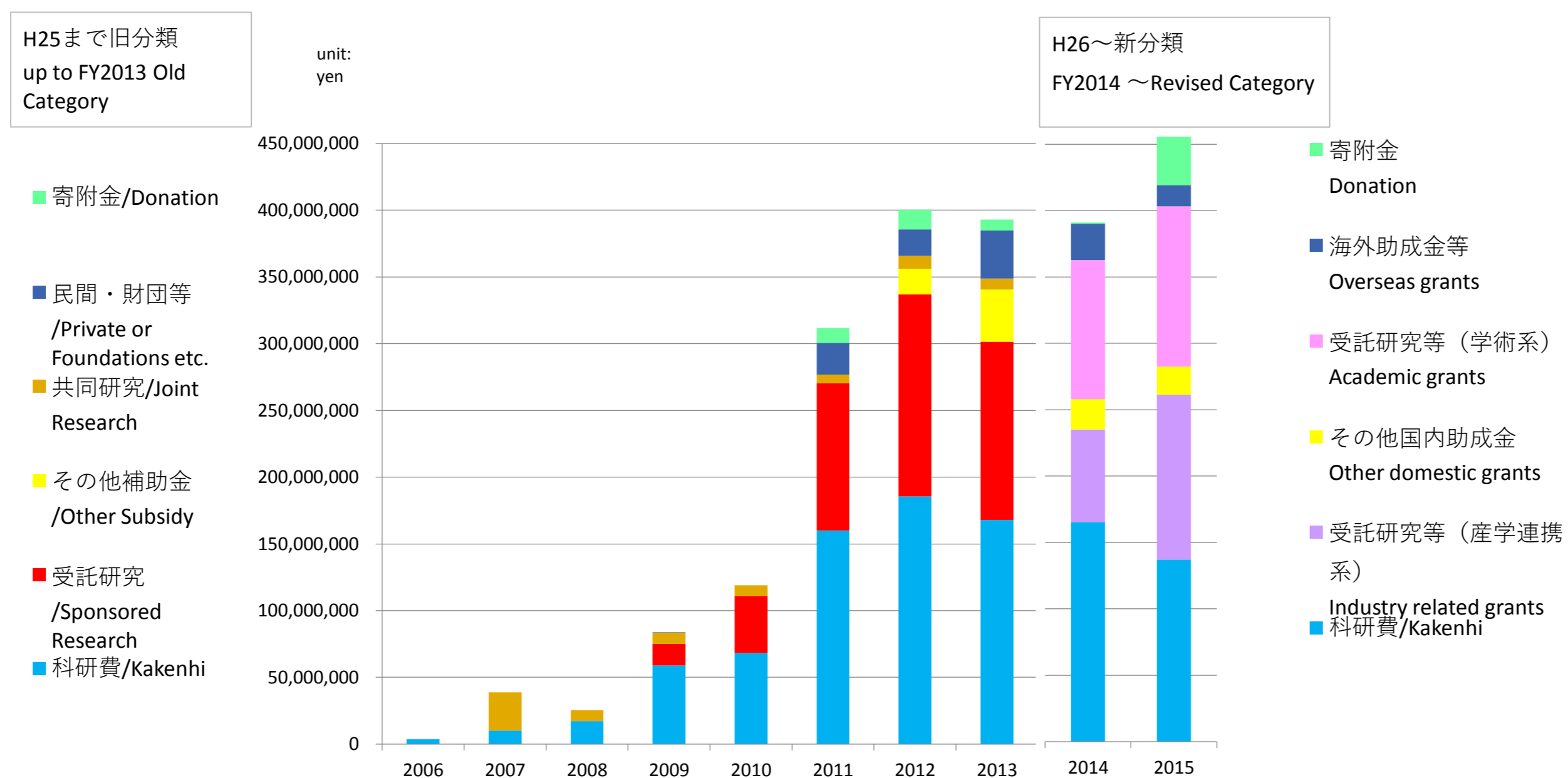
	Date 実施日	Nature of Event 種類	Name of Seminar/Training 名称	Number of Participants 参加人数	Remarks 備考
1	All through the year 通年	Training トレーニング	Radiation Workers 放射線を取り扱う者 (7 times in total) (7回実施)	35	
2	May 7, 2015 2015年5月7日	Seminar セミナー	Seminar on Regenerative Medicine 再生医療に関するセミナー	20	
3	July and August, 2015 2015年7月及び8月	Training トレーニング	General Safety Training for Field Activities (2 times in total) 野外活動安全トレーニング（一般） (2回実施)	50	Starting in September, the training has been provided through e-learning management system (LMS). 9月以降はオンラインで提供。
4	July and September, 2015 2015年7月及び9月	Training トレーニング	Safety Training for Venders (Advanced Program) (3 times in total) 取引先向け安全トレーニング（アドバンスプログラム） (3回実施)	138	
5	August 28, 2015 2015年8月28日	Training and Seminar トレーニング及びセミナー	Update Session アップデートセッション (2 times in total) (2回実施)	211	The number of participant includes external audience for the special guest talk. 参加者数には特別講演を聴講した学外者を含む。
6	December 11, 2015 2015年12月11日	Seminar セミナー	Seminar on Earthquake Countermeasures 地震対策セミナー	97	
7	February 11, 2016 2016年2月11日	Seminar セミナー	Open seminar: Promotion of Research Integrity 公開セミナー：研究倫理の推進に向けて	144	
8	March 30, 2016 2016年3月30日	Training トレーニング	Laboratory Accident Drill 研究室事故訓練	38	

Note that this results only include lecture-style seminar/training.

注：本実績には、レクチャースタイルのセミナー及びトレーニングのみを含みます。

外部資金・寄付金獲得状況/External Funding

H18～H25まで旧分類	2006	2007	2008	2009	2010	2011		2012		2013		H26から新分類	2014		2015	
	金額	金額	金額	金額	金額	金額	件数	金額	件数	金額	件数		金額	件数	金額	件数
科研費/Kakenhi	3,800,000	10,293,000	17,225,000	58,923,142	68,281,464	160,041,305	26	185,570,000	30	168,017,777	40	科研費/Kakenhi	165,266,341	54	137,160,016	47
受託研究/Sponsored Research	0	0	0	16,200,000	42,751,000	110,261,800	11	151,397,660	14	133,566,955	13	受託研究等（産学連携系） Industry related grants	69,994,690	10	124,337,784	10
その他補助金/Other Subsidy	0	0	0	0	0	0	0	19,120,000	2	39,161,300	3	その他国内助成金 Other domestic grants	22,635,500	11	20,989,419	6
共同研究/Joint Research	0	28,500,000	8,268,750	8,357,625	8,000,000	6,500,000	1	9,781,000	2	8,190,000	3	受託研究等（学術系） Academic grants	104,967,000	5	120,758,500	7
民間・財団等/Private or Foundations etc.	0	0	0	162,000	0	23,969,000	3	19,720,574	3	35,811,969	10	海外助成金等 Overseas grants	27,166,059	3	16,015,264	3
寄附金/Donation	0	0	0	0	0	10,822,000	6	14,793,155	11	8,353,825	12	寄附金 Donation	1,065,960	6	36,367,498	14
合計/Total	3,800,000	38,793,000	25,493,750	83,642,767	119,032,464	311,594,105		400,382,389		393,101,826			391,095,550		455,628,481	



平成27年度受託研究等(産学連携)及びイベント

受託研究等(産学連携)

No	事業名	新規・継続	委託者・交付元	連携機関 (研究分野)	事業内容	備考
1	知的クラスター形成に向けた研究拠点構築事業 (沖縄県)	継続	沖縄科学技術振興センター		沖縄の生物資源とネットワークを活用した医薬品探索研究	田中富士枝 准教授
2	亜熱帯・島しょエネルギー基盤技術研究事業 (沖縄県)	継続	ソニーコンピュータサイエンス研究所	沖創工 ソニービジネスオペレーションズ	分散型DC給配電システムの構築	北野宏明 教授
3	知的産業クラスター形成に向けた研究拠点構築事業 (沖縄県)	継続	南西地域産業活性化センター	沖縄県農業研究センター 九州沖縄農業研究センター 琉球大学	生活習慣病を予防・改善する沖縄県産高機能米開発	佐瀬英俊 准教授
4	知的産業クラスター形成推進事業 (ベンチャー創出支援事業)(沖縄県)	継続	沖縄工業高等専門学校		シビランの免疫調節機構を活用した健康食品及び医薬品の開発・事業化	山本雅 教授
5	戦略的製品開発支援事業 (沖縄県)	新規	クリエイトES		自主発電によって、稼働可能な廃水処理システムの開発	イゴール・ゴリヤニン 教授
6	沖縄県医療産業競争力強化事業	新規	沖縄県		次世代型多階層創薬・薬理学シミュレーションプラットフォーム開発による創薬プロセスの効率化	北野宏明 教授
7	受託研究	継続		環境	Confidential	佐藤矩行 教授
8	共同研究	継続		創薬	Confidential	佐藤矩行 教授
9	共同研究	新規		医療機器	Confidential	エイミー・シェン 教授
10	共同研究	新規		環境	Confidential	北野宏明 教授
11	共同研究	新規		自動車	Confidential	北野宏明 教授
12	共同研究	新規		エネルギー	Confidential	銅谷賢治 教授
13	秘密保持契約	新規		創薬	Confidential	横林 洋平 准教授
14	秘密保持契約	新規		マテリアル	Confidential	ムックレス・ソーワン 准教授
15	秘密保持契約	新規		エネルギー	Confidential	ヤービン・チー 准教授
16	秘密保持契約	新規		情報処理	Confidential	ウルフ・スコグランド 教授
17	秘密保持契約	新規		環境	Confidential	イゴール・ゴリヤニン 教授

18	秘密保持契約	新規		解析技術	Confidential	新竹 積 教授
19	秘密保持契約	新規		エネルギー	Confidential	新竹 積 教授
20	秘密保持契約	新規		エネルギー	Confidential	機関として
21	その他国内補助金	継続	沖縄県		産学連携支援	機関として

展示会

No	事業名	開催日	場所	主催	内容	備考
1	国際バイオテクノロジー展	2015年5月	東京ビックサイト	リード・エグジビションジャパン		
2	BIO International Convention 2015	2015年6月	Pennsylvania Convention Center	Biotechnology Innovation Organization		
3	医療機器開発・製造展(MEDIX)2015	2015年6月	東京ビックサイト	リード・エグジビションジャパン	ブース展示	沖縄県との共同出展
4	沖縄県ビジネス環境紹介セミナー&商談会	2015年7月	Shangri-la Hotel Singapore	沖縄県	講演・ブース展示・商談会	
5	沖縄県企業誘致セミナー	2015年7月	新阪急ホテル ロイヤルパークホテル	沖縄県	ブース展示・商談会	
6	Taipei International Electronics Show (TAITRONICS)	2015年10月	南港エグジビションホール	Taiwan External Trade Development Council	ブース展示	沖縄県との共同出展
7	BioJapan 2015	2015年10月	パシフィコ横浜	BioJapan 組織委員会	ブース展示・商談会	
8	SEMICON Japan 2015	2015年12月	東京ビックサイト	SEMI	ブース展示	沖縄県との共同出展
9	国際ナノテクノロジー総合展・技術会議	2016年1月	東京ビックサイト	nano tech実行委員会	ブース展示・商談会	

特許の評価会議開催回数 12 回

セミナー・イベント

No	演題	開催日	講演者	参加者
1	研修会:産学連携について	2015年4月6日	EnConnect 大津賀伝市郎	17
2	研修会:産学連携の人材について(前)	2015年4月15日	EnConnect 大津賀伝市郎	17
3	研修会:産学連携の人材について(後)	2015年4月22日	EnConnect 大津賀伝市郎	17

4	研修会:大学の知的財産について	2015年5月13日	EnConnect 大津賀伝市郎	17
5	ワークショップ:Okinawa Global Session	2015年5月23日	沖縄産業振興公社共催	15
6	研修会:企業との共同研究について	2015年5月27日	EnConnect 大津賀伝市郎	17
7	研修会:大学発ベンチャーについて	2015年6月3日	EnConnect 大津賀伝市郎	17
8	研修会:産学連携コーディネーター基礎講座	2015年6月5日	北陸先端科学技術大学院大学 山本外茂男	10
9	研修会:産学連携について(まとめ)	2015年6月10日	EnConnect 大津賀伝市郎	16
10	研修会:コミュニケーションワークショップ	2015年10月20日	HPO Creation 松井義治	16
11	イノベーションセミナーシリーズ1 学術研究における知財創出・管理 特許出願と各国移行	2015年11月16日	Kilburn&Strode Gwilym Roberts	40
12	セミナー:産総研の知財活動について	2015年11月17日	産業技術総合研究所 加藤幹	10
13	イノベーションセミナーシリーズ2 基礎研究からの発明・スタートアップ	2016年1月18日	Nexeon Scott Brown	67
14	イノベーションセミナーシリーズ3 大学から企業への転換	2016年2月23日	m-u-t Nancy Hecker-Denschlag	43
15	コース:プロジェクトマネジメント研修	2016年2月24日～ 2016年2月25日	Stanford University Mike Hetrick	21
16	セミナー:大学研究と知財活動	2016年2月26日	津国 津国肇・塩見敦	13
17	セミナー:米国特許	2016年3月3日	Lucas&Mercanti Donald C. Lucas Shintaro Yamada	5
18	コース:リーンスタートアップ起業家育成プログラム	2016年3月18日～ 2016年3月20日 2016年3月26日	The George Washington University Dan Kunitz/Jim Chung	15
19	国際シンポジウム 大学発のイノベーションを加速する	2016年3月22日	外部有識者16名 (講演者12名、モデレーター4 名)	75
				448

特許出願状況

Calendar Year	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
特許出願数	0	2	0	4	5	3	2	2	11	17	34	62
特許登録数	0	0	0	1	0	1	3	3	1	2	1	3

